

EPISODE GUIDE

2

The Second Part of The One Year War

UC-0079-0083

GUNDAM

PREFACE

ガンダム20年の歴史は単純の歴史といえる。18アニメーション作品としてスタートした「ガンダム」はフィルム、活字、模型、ゲーム、その他様々な形態で毎年必ず新しいソフトが発売され文字通り年表を更新してきた。

多くのクリエイターが「ガンダム」の歴史を紡ぎ、おそらく今後も様々な人達がその歴史を継承していく事だろう。

富野監督は「ガンダム」のスタートに際し「全肯定」というキーワードを提示された。

監督の意気は別としてこの20年の間に10代から30代という実に広範なファン層を形成し、維持し続けてきた「ガンダム」をマイトとして「全肯定」できるファンはどれくらいいるだろうか。

「ガンダム」は現在複数世代の共通言語となっているか、各世代間には微妙な嗜好の差があり、自分からリアルタイムで採った作品以外は「ガンダム」と認めないという人は意外と多いか、認める認めないという後戻り嗜好をよそに「ガンダム」は仮想現実の中で存在する歴史として今日に至っている。

何千万人の有する価値観を押し付け合うべきではないが、本書を手にし、何故「ガンダム」は20年続き得たのかという事に思いを馳せるなら、食わず嫌ひから、多足を踏み出し全作品に触れてみる事もまた有益な事であろう。

本書は「ガンダム・サーカ」を全肯定するためのガイドでもあるのだ。

株式会社バンダイ ホビー事業部 川口克己

CONTENTS

- 巻頭言 → Preface・・・2
- 宇宙世紀年表 → History of Universal Century・・・4
- 反重力の虹〜(ニュータイプ)の不可能性と可能性 → Anti-Gravity's Rainbow・・・6
- ガンダム世界の兵器体系 → The System of Weaponry in the GUNDAM World・・・12
- ガンダム世界の局地戦術 → The Local Tactics in the GUNDAM World・・・18
- 兵器カタログ → The Catalogue of Arms・・・20
- キャラクター&メカニック全ガイド → The Complete Guide of Characters & Mechanisms in GUNDAM・・・38
- ストーリー・ダイジェスト → Story Digest
- 機動戦士ガンダム
- 第31話 第43話・・・36
- OOBポケットの中の戦争・・・52
- OB小隊 ラスト・リゾート
- OOB STARDUST MEMORY・・・62
- モビルスーツ・パイロットリスト → Mobile Suit Pilot List・・・51,80
- ゲストキャラクター・チェックリスト → Guest Characters & Mechanisms Check List・・・78
- ガンダム設定資料集 → The Design Works of GUNDAM・・・81
- ガンダム・エピソードチェック → The Highlight of GUNDAM・・・138
- ガンダムシリーズ・スタッフ&キャスト → Filmography・・・150
- ビデオ、LD、小説、CDガイド → Visual & Sound Guide・・・154
- 索引 → Index・・・158



反重力の虹

《ニュータイプ》の不可能性と可能性

Anti-Gravity's Rainbow

文＝大徳哲雄

そう遠い未来のことではない。

あなたは、ひとつの旅に出るだろう。

だが、その旅は、あなたが今まで幾度となく繰り返してきた、
地図を手元に鼻歌まじりの、水平的な移動をつづけるそれとはまったく違うものだ。
誰も見えない、ほとんど異次元への旅といった感じだ。

ひたすら空の高みに上昇するばかりの行程に、あなたはひどく緊張している。

すぐそばにいるのは、見えない同行者、《死》だ。

やがてあなたの体は、ふわふわと船内の空間を漂いはじめる。

無重力というやつだ。シャトルの小さな窓に、あなたはぎこちなく泳ぎつく。

そして、窓の向こうを見る。地球だ。なんという美しさなのか。

金属の壁一枚の向こうには、凍りつくような沈黙と暗黒の世界。

その中で地球は水と雲の衣をまとい、荘厳で気品にみち、

目のさめるようなブルーの光を帯びて輝いている。

その時、あなたの中で、何かが起こる。

旅の前と後では、きっとあなたは変わっていることだろう…。

「果たして、人類が宇宙に進出した時、種々な意味において人類にはどのような変化がもたらされるのだろうか」

主題ではない。現実の事実として、人類が地球の環境から隔離し、重力が解放された、その主眼を宇宙に広げることの可能性。一時的、物理的、身体的、生理的。そして精神的にこのような変化が人間に起こるのか、あるいは起こり得ないのか、もし起こったとしたら、それは具体的にどのようなものなのか。科学者やSF作家ならどうと、これは誰とも興味を抱くことであるに違いない。

たとえば生物進化という点から考えてみよう。

ダーウィンの進化論における「自然淘汰」「適者生存」というドグマは、現在の遺伝子論を中心に展開する分子生物学等の進化に関する新たな科学理論が登場するに至って、「進化」というものが、要は自然環境に対する適応性の問題であるという点に関しては、未だ有効であることに変わりはないのだが、かなりの修正を加える必要性があることが分かっている。つまり、進化の最大の原動力となるのは、たしかに環境の変化がもたらす生物に対するプレッシャーではあるのだが、その圧力に耐え得る限り、どこまでも利己的に生存領域を広げ繁殖をつづけようとする遺伝子の結果で生じた個体群が生物進化の多様性を生み出す、というのである。これはある意味で、進化の主体を生物の側よりも自然や環境の方に置いていたダーウィンの進化論に対し、かつては否定的にとらえられていた、進化には生物自体の意志が関わり得るというラマルクの進化論が、生への強烈な意志を持つ遺伝子という補助線を引くことで、復活を遂げたと考えられなくもないのだ。

実際、現在の人類学によれば、猿人論から人類への進化の要因に關して、人類の先祖と考えられているラマピテクスの化石が東アフリカの大地溝帯(リフト・ヴァレー)に沿って点在する化石遺跡から多く発見されることから、千数百万年前にアフリカ大陸を貫いて起こった大地溝帯変動による劇的で多様な環境の変化によってもたらされたのであるということが、ほぼ定説となっている。より詳しくいえば、大地溝帯が生じたことにより、猿人猿の生存環境に高低差や気候風土の差異が生じ、森林に止まっていた生きものと草原やサバンナで生きるものが、生息地において分かれ、中でも草原やサバンナに進出していった猿人猿が、そうした以前よりも過酷な半干旱地帯の環境に適応して生きるために、直立二足歩行を、ひいては脳の肥大化をさせていったのではないかと、というのが宇宙。

だとすると、人類が宇宙に進出していったとして、地球とは全く異なる宇宙環境という過酷なまでの生存条件の変化が、人間になんが

の迫害をもたらさねばならない、と考えるのは決して不自然なことではないだろう。例えば、アメリカの宇宙飛行士ラッセル・ウィヤートなどは、自身の宇宙体験の記録から、人類の宇宙進出に際して、過去において生物が水中から地上に上陸したことと類例する「地球生物進化」の大きなターニングポイントになるであろう、と語っている。

さて「ガンダム」シリーズである。

以下で述べることは「ガンダム」のファンであれば、良く知るところであると思うが、一応復習しておく。この作品において、人類は第二次世界大戦から数十年後、それまで人類を縛っていた「国家」や「民族」といった概念を絶滅し、いわば人類全体を統合した世界政府である「地球連邦」を樹立している、という設定がなされている。そして、人類は宇宙に進出し、それが「地球連邦」の主導の下、ジェラルド・オーネルが構想したタイプのスペース・コロニーに宇宙移民が実現し既に七十余年を経た時点をも物語の起点としている。さらには、その半世紀ばかりの間に幾つものコロニーへの宇宙植民が本格化し、やがて地球の人口を凌ぐほどの大きな勢力を形成するようになり、地球で生きる人々(アースノイド)と、宇宙のコロニーで暮らす人々(スペースノイド)との間に道義和対立を生じ、ついにスペース・コロニー「サイド3」が独立戦争がきっかけで、それが発端となり、いわゆる「ファーストガンダム」の舞台となる「一年戦争」が勃発するのである。

また、その後も「ガンダム」シリーズ全体を通して、「スペースノイド」と「アースノイド」との戦いを軸として進んだドラマが展開していくわけだが、この二つの勢力の対立の構図の思想的背景として、それぞれが主張する二つの理念が設定されているのだ。

一つは絶対民主制を標榜しながらもコロニーサイドの自治権を認めようとはせず、地球を絶対的かつ至上のものとし地球連邦優位の独治体制をくずそうとしない「地球中心主義」、もう一つが、それに対し、コロニーに住む宇宙移民者たちの唱える、その理念を掲げ「サイド3」の独立戦争を最初に指導しジオン共和国を造出した実権ジオンズム・ダイクンの名を冠した一般に言う「ジオンズム」である。

この「ジオンズム」の内幕は「エレンズ」と呼ばれる、地球を不可侵の聖地とみなし、人類は宇宙に移住すべきであるという思想と、それをさらに発展させて、各サイドのスペース・コロニーに住む宇宙移民者たちは、地球連邦への批判に甘んじることなく、地球連邦政府の植民地支配に対するレジスタンスを展開し、主権と自治を獲得し独立した政治体制を確立すべきである、というサイド国家主義とも言える「コントリズム」を融合させたものであると言っている。



だが、やがて画面的「ジオニズム」の理念は、彼を超越することで権力を奪い、サイド3をファシズム的な独裁体制支配の下に置いたザビ家の者たちによって、スペースノイドひいてはジオン国民は地球人類よりも優良品種であり、この選ばれた人々によってこそ世界全体は統括・管理されなければならないという定んだ派閥思想に塗り替えられてしまう。

ここで忘れてはならないのは、ジオン・ズム・ダイクンが主張した「ジオニズム」における宇宙進化思想的側面である。彼によれば、人類の宇宙進出とは単にその生存領域を広げたということだけでなく、人類の意識や精神といった心的な範囲においても、新たな地平に自ら歩み出たことも意味している。つまり、重力に象徴されるような地球環境下での様々なプレッシャーから解放されることで人間の持つ潜在能力が覚醒し、人類より高次元な存在に導かれるような、優れた共感能力と建設力や洞察能力を持った人類が登場するであろうというのである。

それがジオン・ダイクンが語る「人の革新」であり、宇宙空間という新たな環境に適応し始めた新たな人類、彼の予言が実体として具現化された存在こそが「ニュータイプ」なのだ。

もともと、ガンダム世界においてニュータイプは必ずしも理想的な存在として描かれているばかりではない。「サイコミュ」や「サイコフレーム」といったようなニュータイプの優れた情報伝達能力や遠隔感応能力を一層の兵器として利用するための装置が開発されていくと、あるいは、その特殊能力を人工的に増幅させ、ニュータイプの存在そのものを戦艦マシンとして特化した「強化人間」といったものすら登場しているのである。つまりニュータイプとは、それ自体では善でも悪でもない、使い方次第によってはポジティブにもネガティブにも展開する、いわば「道具」としての側面もあるというわけである。その意味では、ニュータイプを、たとえば人類がこれまでの進化の過程で獲得してきた「理性」とが「科学」といったものの延長上の能力というふうに解釈して解釈することも可能であろう。

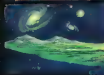
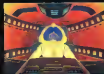
いずれにせよ、「ガンダム」の中には、「進化」とが「新しい種」という言葉が直接語られてはいないものの、人類はやがて宇宙に進出し、そこにおいて新しい種として生まれかわるであろう、というロシアのツィオルコフスキーに代表されるような十九世紀末以来の「人類宇宙進化思想」が、作品全体の底流にあると言える。

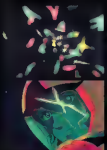
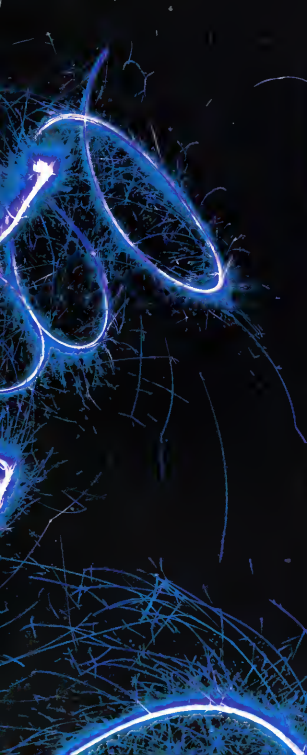
しかし、である。ここで一旦、話を現実の世界に戻そう。

ならば、現実人類が宇宙に進出したとして、「ガンダム」で描かれたようなニュータイプの覚醒が訪れる、と問われたならば、それは相当にあやしい、と答わなければならない。宇宙進出によって人類が新しい種としての進化を遂げるかもしれないと想像することは自由であり、その可能性を完全に否定することはできないが、すくなくとも「ガンダム」の歴史設定にあるような宇宙世紀数十年での覚醒の可能性は（否）であるとは断言して構わないだろう。

先に書いたような生物進化史における類人猿から人類への進化といったような話は、数万年数十万年、いやもっとそれ以上の気の遠くなるほど長いタイムスパンの中で自然選択に満ちた複雑な過程を経た上で起こった結果なのだ。たとえ人類が地球上とは大きく異なった宇宙環境で生活を始めて数世紀の時間が流れたとしても、現人間以上の能力の発現や変容が起こるとは到底考えられないのである。ましてや人間には、他の生物とは違って、道具をもって自らの意志で環境そのものを作り変える理性がそなわっている。宇宙空間での生活がもし可能だとすれば、おそらく地球上でのそれとは非常に違うとはいえ、地球上に類似するよう人工的に造成された環境の中で育まれる、ということを考えあわせればなおさらである。

残念ながら、現段階では、宇宙での生物進化の具体的なありようという問題は、全くの未知としか言いようがないのだ。われわれは未だそれに関するなんらの確証を得





ではない。しかし人類はすでに月に足跡をしるし、宇宙ステーションも間もなく実現しようという時期に達したものの、地球外での恒常的な生存可能性という点では、ようやくその実験の第一段階にさしかかったところどころでしかなく、克服しなければならぬ問題は膨大に残されているのだ。むしろ反対に、宇宙開発に関わる人々の中ですら、生物に対して絶対的であるともいえる宇宙環境の厳しさを實際に知るだけに、人類は宇宙進出を成功させたとしても結局は地球にとどまるであろう、と宇宙植民の可能性を否定する考えの持ち主の方が多いのである。

〈ニュータイプ〉とは、あくまで「ガンダム」というフィクションの中での空想的な概念なのだ。このことは、よくよく確認しておかなければならない。

もちろん、そんなことは教えて言われるまでもなく誰々承知している、という方ほとんどであろう。しかし、能天気な宇宙植民論や、人類が宇宙に進出すれば、すぐさまニュータイプ的な現象が起こるかのような言説に触れるたびに、少し待てよと水を差したくもなりもするのだ。

とはいえ、そうだと分かっているにしても、わたしたちが〈ニュータイプ〉というものに、かくも惹きつけられてきてしまった理由とはいったいなんなのだろう？ また「ガンダム」の創り手は、なぜ作品を造ることにニュータイプについての思考を深めイメージをふくらませていくことになったのだろうか？

おそらくそれは、わたしたちが生きる「現代」という時代、「現在」という状況がそうさせたのだ。

二十世紀、人類は科学技術の爆発的な発展と資本主義という経済システムをよくもわるくも巧みに運用することで一応の豊かさと安定を手にしたものの、ならば理想的な世界がそこに実現したのかと問われれば、イエスと答える者は誰もいない。〈人間理性〉の産物として、人類にユートピアを約束するはずであった「科学」と「コミュニズム」が二十世紀において結果的にどんな展開を遂げたのかを振り返ってみると、科学兵器による大量殺戮をなした二度の世界大戦。階級と国家の消滅を志向したはずのコミュニズムは全く逆に肥大化した抑圧権力を形成しただけで崩壊するしかないという事実。そして、冷戦の終結後もかつて絶えることのない地域紛争。かつてない繁栄に包まれながらも、空虚さと閉塞感を抱えこんだまま、状況ばかりがすくなくい成度で変化していくという奇妙な時代。わたしたちは、これらもまた進むべき指針もビジョンもないまま奇るほなく彷徨うしかないのだろうか？

そんな度胸にあちた投入したい「現在」を生きるわたしたちに、儼かな〈希望〉と〈超越〉の光を投げかけてきたのが〈ニュータイプ〉だったのである。

しかも〈ニュータイプ〉とは、長い人間が追求しなから直切られつづけてきた、生半可な共同体論やユートピア論でもなく、また、「神」や「信仰」といった神秘的な属性に身を委ねることで幸福や解脱に至ろうとする宗教的なそれとも違う、つまり個人や現世を超えた外界に超越を規定する共同概念ではなく、超越的でありながらもあくまでも人間の内在性に根拠を置いた、認識なりコミュニケーションのパワーの実象であったが故に、わたしたちの心をとらえたのではないだろうか。異論はあるかもしれないが、少なくとも、わたし個人にとっては、そうであったのである。

だとすると、わたしたちは現代という時点において〈ニュータイプ〉というものを、現実の事としてどのように具体的にイメージすべきなのであろうか？

あるいはまた、「ガンダム」の中で描かれたように〈道具〉に堕しめないためには、どのように志向すべきなのであろうか？

ここでもう一度、生物と人類の「進化」について考えてみたい。

立花隆は「立花隆・対話論／宇宙を語る」の序論の中で、要約するとつぎのような考えを述べている。「結局のところ、人類にとって宇宙とは何なのか。人類の未来にとって宇宙はどんな場でありうるのか。人類はこれから、その生息圏を地球の外へ

逃げ、さらなる深宇宙へと進出していくのか。それとも、地球育ちの人間は、やはり生理的にも心理的にも地球に縛りつけられた存在で、あくまで地球を唯一の生息場所とするのか。あるいは、宇宙にはもっと出かけては戻るような宇宙両生類のような道に進むのか。その選択は人類自身に任されている。これまでの生物進化で、ここにおいて初めて自己の進化の方向を主体的に選択し得る生物が生まれるわけである。自分は、人類進化の大道は地球人から宇宙人へ至ることにあると考える。なぜなら、それは同時に地球自体のシステムをより知ることであり、そのシステムに問題や危機が生じた時の対処方法を知ることでもあるからだ。一家の運命しか考えなかった者が一国の運命を考えたようになったとき愛国者とと呼ばれ、一国の運命しか考えなかった者が、地球全体の運命を考えたようになったとき、すなわち地球コンシャスになったとき、地球人と呼ばれるに足る存在となる。が、地球コンシャスだけでは人類の未来は危うい。自分が宇宙内存在である宇宙コンシャスにならなければ人類の未来はない。宇宙コンシャスに進すれば、もの見え方考え方が変わってくるはずだ。ヒトという種の未来を真剣に考えることができるのは、その意識レベルに達した人だけだろう]

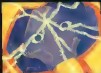
さらに付け加えるならば、宇宙への夢を広げるのもいいのだが、その前に意義を問

うた上で宇宙進出を果たすことこそ重要なのだ。ただやみくもな好奇心に促されるままであったり、冷戦時代の米ソの宇宙開発競争の時のような国家的野心に聞かれ利用された形のものであれば、やがて人類は大きな過ちを犯し、これまでの悲惨な歴史を反復することになるだろう。

アーサー・C・クラークは「宇宙への序曲」の中で登場人物にこう語らせている。「われわれは宇宙へ環境を持っていかない」と。

すくなくとも国家とか民族とかいった自他を隔てる差別意識や所有意識、コミュニケーションではなく物理的な力で物事を解決する意識、つまり地球の重力に縛られた意識を、われわれは可能な限り宇宙に持ち込むべきではない。

そういった意味では、「ガンダム」という作品を「人類が宇宙意識を未だ持たぬまま、重力に縛られた地球意識の段階で宇宙に進出したことを想定した壮大な異考実験の物語」と一言で置けることもできるのだ。



「逆襲のシャア」においてシャアは、こうつぶやく。

「地球に残っている連中は地球を汚染しているだけの、重力に魂を縛られている人々だ!」

「人類全体をニュータイプにするためには、誰かが果を背負わなければならない」

だが、ほかでもないシャア・アズナブルこそ地球の重力に縛られた最たる人間なのだ。

もっとも、こうした考えは、性善説にのっとった楽観論であるのかもしれない。

小説版の「ガンダム」の中において作者の富野由悠季は、宇宙世紀の時代に国家間戦争が影をひそめたにも拘わらず軍備と武力が削減しない理由について、およそ以下のような恐るべき洞窟を語っている。

「何もしないで生きていけるかという問題を人類はまだ乗り越えていない。つまり絶対平和があったとき、人は何もしないで一生をまっとうできるか? という設問である。人は絶対平和を達成できない社会的、知的メカニズムを持っている。ことに、欲望という部分にブラックホールに似た解放されないメカニズムを持っているのだ。その原因を消滅させるためには、人の向上心に委ねるのではなく、国家、種族、経済、組織、家庭、個人、それぞれのレベルで働くであろう。が、それが生か? という設問が浮かぶが、絶対平和と死に至るまで楽園に従える精神的な在り方を示すニュータイプにならない限り、人は軍を動かす、武力を弄び、

経済に覇をふるう」

割り手がかくも自覚するほどに〈ニュータイプ〉による〈人の革新〉への道程は困難で驚しい。

だが、このようなビジョンがなければ生きていけないのもまた、人間という存在なのだ。

★

やがて、あなたはひとつの星に舞り立つことだろう。

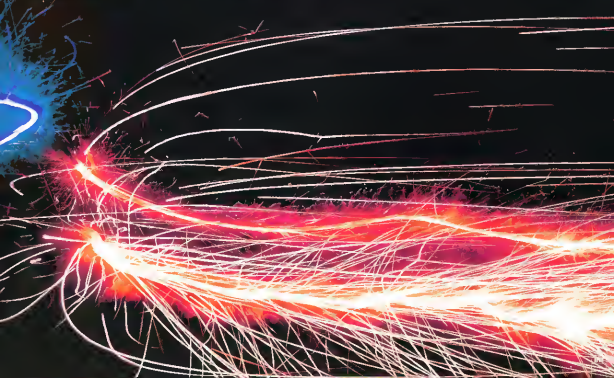
もし人類が宇宙に 진출していくことになった時、その星の土地所有権に関して、『ガンダム』のそれではなく地球の「南極条約」のような私的・国家的所有を排した協定を結ぶことができるのか? それが人類が〈ニュータイプ〉への進化の道を進むことができるか否かの、さしあたっての分岐点となるはずだ。

それが、もし実現したとすれば、その時こそ人類は〈ニュータイプ〉への第一歩を踏み出しただけでなく、地球に生きる人間にとっても、大きな意識変革を起こすきっかけも得ることになるであろう。

そう遠い未来のことではない。

◎主な参考文献

- リチャード・キニー／「人類の起源」(今西昌司・監訳、岩本竜彦・訳/1985年・講談社)
- S・G・モロー・ブライアン・G・ガートナー編著「コソアの宇宙精神」(西中村志/1997年・セリト書局)
- アーサー・C・クラーク「宇宙への行進」(1982年・学研書局・ノバコア文庫)
- タケノノ「『元寇』と『元寇』」(1986年・新潮社刊)
- 富野由悠季／「機動戦士ガンダム・逆襲のシャア・パル・スライマー」(富野由悠季・アニメーション文庫)
- STUDIO VOICE Vol.106「特選・ニュータイプ誕生/サイバー・メタの進化論」(1992年4月号・D&A)
- G20「『ニュータイプ』Vol.1「特選・ニュータイプ誕生/人類」(1998年2月・ASCII)





木星船団と核融合動力

かつて、核分裂型原子炉がようやく実用化された一九五〇年代には、次の原子力時代である核融合炉の実用化には、たかだか十五〜二十年でじゅうぶんと考えられていた。しかし、一九九九年の現実が明白な形で示しているように、それはむなしい事にすぎなかった。

原子核反応においては、ウランやプルトニウムのような重い原子にあっては「核分裂」か「核分裂」によって、水素や重水素、三重水素、ヘリウムのような軽い元素にあっては「核融合」によって、余剰のエネルギーが発生し、これを利用することができる。

ただし、自然界を唯一所に集めれば自然に核分裂反応をおこすこともできる重元素とことなり、軽い元素の核融合には、引き金となるような超高温または超高压が必要とされる。核分裂が爆弾を引き金とする核融合反応、つまり水爆の実現にはさしたる時間はかからなかったが、プラズマ状態の燃料ガスを熱する磁気封じ込め方式や、電子ビームやレーザー光による圧縮方式においても、兵隊ではなく伊として用いるための制御された核融合を長期間にわたり維持することは、核融合発電の概念から五〇年たった一九九九年になっても実現の展望をええていなかった。

しかも、こうした引き金を引くための熱/圧力の境界を突破するのにもっとも有利な核融合反応である重水素/三重水素反応はふたつの難問をかかえていた。

ひとつは、その資源が限られていることだ。海水などからの抽出は可能とはいえ、水の中の水素という無尽蔵の資源によって得られる無限エネルギーという夢は、この現実によって否定されることとなった。

もうひとつは、核融合反応によって生じる反応エネルギーをかくえこめた粒子のなかに中性子という始末におえない等粒子が含まれていることだった。磁気封じ込め方式で原料ガスのプラズマを封じ込める磁気シールドは、反応後の、電気を帯びた原子



核などの荷電粒子とはじめることができるが、中性子はこれを無視し、磁気発生コイルなどにつきささり、これに放射性を与える。つまり、重水素・三重水素反応では、伊そのものが放射能で汚染されるのを防がないのだ。

恒星間旅行ダイダロス計画を提案したイギリスの学者たちは、こうした汚染から宇宙船本体を防御するために、発生するのが荷電粒子だけという、しかも、重水素・三重水素方式に準じて融合反応開始の条件が低い、重水素・ヘリウム3反応の利用を提案した。

ただし、ヘリウムの同位体であるヘリウム3は、この地球上ではいかなる手段を使っても、満足な量を抽出することができない。そこで彼らはヘリウム3の存在比率の高い木星大気からの採取を提案した。

この木星大気からのヘリウム3によって、恒星間飛行ではなく、太陽系全域にわたる核融合文字圏を維持することとなったのが、一年戦争開始時までのガンダム世界だった。

ミノフスキー粒子

ガンダム世界における核融合炉の利用は、まず、磁気封じ込めという古典的技術にもとづき、大型炉から始まった。

ミノフスキー粒子の存在は、こうした大型炉の研究開発の過程で発見された。

ミノフスキー粒子は、非透過性の物質はほとんど透過する特殊な素粒子で、正か負のいずれかに荷電し、立方格子状に直立して、不可視のフィールドを形成する。このフィールドの荷電作用のために、長い波長の電磁波、つまり、電波や長波外線の伝達に障害され、これらを用いた探知システム——レーダーや赤外線探知装置の機能は無効となる。つまり、電波の波長でミノフスキー・フィールドを見るなら、至反射による自れもが見え、赤外線なら、波立つ水面を通した水底のようにゆがむやけ



ガンダム世界の兵器体系

The System of Weaponry in the Gundam World

文 = 水瀬雄

て見るわけである。

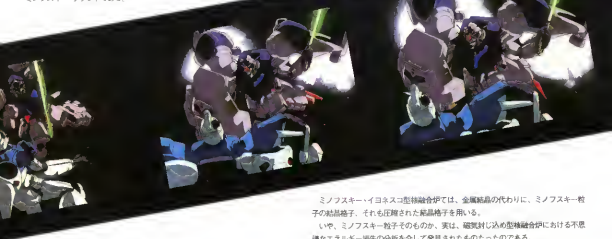
おまけに、通常物体を通過するミノフスキー粒子の立体格子は、電子回路にさえ無視できるほど度々の動作をひきおこした。

このため、火事弾頭や磁気加速弾頭（ルーラ・ガン）、在空型のエネルギー・ビーム（レーザーや荷電粒子ビーム）、そしてミサイルによる、遠距離からの精密射撃という古典的な戦闘方法は意味を失った。誘導ミサイルの場合は、対ミノフスキー防衛措置をおこなえば、ある程度は有効性を保ちえたが、そのための改造には多大なコストが必要とされた。とりわけ、もっとも有効な、非電子回路——全面光回路化にはシステムそのものの根本からの切り替えが必要であり、一年戦争の終結にはまにあうことなくおわる事となった。

一方、まったく新しい兵器システムであるために、全面的に光回路システムを採用し、しかも、レーダーや赤外線探知システムが不要な有視界での接近戦闘に効力を発揮することになったのがジオン側のザクと、連射連撃のガンダムを筆とするモビルスーツだった。

しかし、ミノフスキー物理学が、兵器システムに与えた影響はミノフスキー粒子だけではなくた。

ミノフスキー型の小型核融合炉、メガ粒子砲、ビーム・サーベル、そして、ミノフスキー・クラフトである。



ミノフスキー・イオネスコ型核融合炉

シオンのモビルスーツにきそく応用され、連射連撃もガンキャノン以降のガンダムやジム（ガンタンクは格分級別）に採用された新型核融合炉（無熱反応炉）は、共同研究者の名前も含め、ミノフスキー・イオネスコ型核融合炉と呼ばれる。

この核融合炉の外見は、磁気封じ込め型の通常型とよく似ている。

ただし、磁場発生コイルの目的はプラズマではなく、ミノフスキー・フィールド（フィールド）の封じ込めである。

フィールドによる核融合のモデルとなったのは、いずれも二〇世紀半ばにはひろくその存在が知られていたミュオン中間子（ミュオン）を媒介物とする触媒核融合反応と、金属結晶への水素、ヘリウムなど軽い分子の蓄積反応だった。

一九五〇年代の末、のちに恐竜小惑星滅亡説で知られることになるアルヴァレスや、ソ連における水爆の父として、また反政府運動の旗手として知られるサハロフらによって研究されたミュオン核融合反応においては、電子と同じように電気を帯びた重粒子ミュオンと重水素あるいは三重水素の原子核を結合、一種の擬似原子を生成させるところから始まる。ミュオンが電子の数百倍も重いため、この原子の電子軌道と、そのまわりをまわる擬似電子＝ミュオンの距離はきわめて短い。この距離擬似原子は、ミュオンが崩壊するよりもはやく、互いに結合して、水素の擬似原子となる。

この分子は擬似電子＝ミュオンを共有しており、このため、原子核の間の距離はこれまたきわめて短くなる。

この距離は、通常なら数百万気圧の圧力下でなければ実現できないほどで、つまり、同様に核融合反応をおこすに足りるだけの短さである。

こまごまの圧縮作用ではないけれど、やはり、水素などの分子や原子の間の距離を極端に狭めることができるのが、金属結晶への蓄積作用だ。これは重い金属の結晶の隙間に、水素やヘリウムの分子や原子を蓄積させるというもので、数百万気圧に相当するだけの分子を封じ込めることができ、電気自動車などで、安全に水素を貯蔵するのに用いられる。

二〇世紀末、こうした金属結晶格子を電極として用い、水素分子の代わりに電気を帯びた水素イオンを格子内に注入すると核融合反応がおこるとの報告がなされ、世界的な一大ニュースとなった。この報告そのものは、のちに完全に否定されたが、金属結晶格子内での蓄積した軽い分子のイオンや原子核が、通常では考えられないような奇妙な反応を示すことだけは確認された。

ミノフスキー・イオネスコ型核融合炉では、金属結晶の代わりに、ミノフスキー粒子の結晶格子、それも圧縮された結晶格子を用いる。

いや、ミノフスキー粒子そのものの、実は、磁気封じ込め型核融合炉における不思議なエネルギー損失の分析を介して発見されたものだったのである。

強力な磁場のもとで圧縮されたミノフスキー結晶格子は、圧力を加えると、そのエネルギーを吸収して、見かけ上の質量を増加させてゆく。その圧力が臨界点をこえると、メガ粒子は互いに結合し、電気的に中性できわめて大きな質量を有するメガ粒子となる。

その変化がきりぎりの状態——相転移直前の極相転移のこの結晶格子の中に、電子ははぎとられ、原子核がはたかとなった重水素とヘリウム3とを注入してやる。

この重水素原子核とヘリウム3原子核は、結晶から負に荷電したミノフスキー粒子を奪い、これを擬似電子としてそれぞれ、重水素とヘリウム3の擬似原子となる。この擬似原子は、負のミノフスキー粒子が置かれたために生じた結晶の欠陥という言い、瞬間を移動するので、互いにきわめて接近することになる。この結果、生まれるのが重水素とヘリウム3が一瞬に結合した擬似分子だ。この擬似分子化によって接近した互いの原子核は瞬時に融合し、エネルギーが発生させる。



ところで、超圧縮状態にあるミノフスキー結晶格子は、通常の物質では超冷却しなければ実現できない「超結晶」と呼ばれる状態にある。この結晶を構成する各素粒子は、たがいに量子論的にまったく一体としてはたらく つまり、結晶の一部に与えられた刺激が、全体へと増幅・分散されるのだ。

核融合炉の弱点は、実は、その発生エネルギーの強烈さにもある。発生エネルギーが強いほど、より高密度であるほど、そのエネルギーはコンパクトで、つまり、蓄積量ならより遠くが短いガンマ線放射となり、取り扱いがむずかしくなる。ところが、この超結晶を用いれば、発生するエネルギーを完全体の結晶格子の振動として、つまり、何温度という温度ではなく、数万から数十万



度の熱や熱線（赤外線）として、また、電気的なゆらぎを介した直接的な電力として扱うことができるのである。

しかも、そうした発生温度スペクトルは、ある程度は、調整が可能であった。

これは、言い替えば、大推力低温で短期加速による最終速度が比較的低い戦闘用推進から、低推力高温で長期航行によりきわめて高い速度が実現できる感温調整機までも、単一のロケット・エンジンですませることが可能となったことを意味していた。

かくして、宇宙開発の歴史上はじめての汎用宇宙戦闘機の運用が可能となった。こうした核融合動力艦船の歴史は、シオン共和国の手へやムサイ、連邦のマゼランやベガス超によって開始された。

また、同陣営のモビルスーツの動力源として、平足の駆動には電力としてこのエネルギーを用い、宇宙での推進に、やはり核融合ロケットが用いられたことについてはすでに述べたとおりである。

なお、ミノフスキー・イヨネスコ型動力炉の核融合反応には、高度に圧縮されたミノフスキー結晶格子の存在が不可欠となる。この超高温結晶格子は、支持用の磁場が失われると同時に消失する。よくある誤解だが、後述のメガ粒子ビームやビーム・サーベル、また通常弾頭などの物理作用によって艦船やモビルスーツの融合炉が破壊され、爆発するのは、あれは核融合爆発では決してない。これら爆発の強力な作用は、炉内の元素の電熱プラズマが解放され、同時にミノフスキー結晶格子が崩壊するためであって、電磁的なスペクトルは熱線領域、また、中性子やα線、β線、γ線（ガンマ線）などの電離放射線の放出もなく、つまり、放射線や放射能の有害作用は、放出される重水素やヘリウム3そのものによるごくわずかなものにとまる。



エネルギーCAP

メガ粒子は、ミノフスキー粒子が高度に圧縮されたときに生じる、電気的に中性な素粒子である。メガ粒子はこのため、きわめて高密度のエネルギーを運ぶことができる。

メガ粒子を応用した兵器システムには、メガ粒子ビーム砲とビーム・サーベル、それにエネルギーCAP（キャパシター）の3つがある。

メガ粒子砲はもっともわかりやすい応用技術で、レーザーや荷電粒子ビーム（水素原子核などを使用）の発展型であり、ミノフスキー結晶格子を圧縮、たがいに融合したメガ粒子を一方に向けて発射する。

エネルギーCAPは、こうした高圧縮状態のミノフスキー格子を、エネルギー貯蔵の手段に用いようというものであった。メガ粒子になる直前にある格子の高圧縮状態を維持するだけなら、大型の封じ込め用磁場発生装置も必要なく、小型でとりあつかいやすい、それこそ秘密の軍備型のようにして使うことができる。

亡命したミノフスキーの助けも借り、従来の意味ではかくして、コンパクトかつ軽量のビーム兵器を、ジオンにささげることができたのだ。

ところで、在来型のビーム兵器に代わってメガ粒子砲が登場したのは、矛と盾という太古からの兵器開発史そのもののパラドックスの結果でもあった。

通常、想像されるのは真なり、電気を帯び、互いに反発するはずの荷電粒子で、ビームを作るのは容易である。たとえば、テレビのブラウン管にみられるように、電子ビームは自然に細くするどいビームを形成する。ならば、これを兵器にできないだろうかということで想像され、また一九七〇年代から一九八〇年代にかけて具体的に開発がおこなわれたのが、荷電粒子兵器だった。

だが、荷電粒子は周囲の磁場や電場の影響に過敏で、すぐに進路を変えるうえに、上記の自然な収束性は、距離が少し遠のくとうるすしてしまうことがわかった。ならば

ということで、真空にある部分の先端でビームを電気的に中性にする中性粒子ビームについても研究開発がおこなわれたが、逆に短距離での自然収束性がたされることになった。

ならば、レーザーについてはどうだろうか？

臨界半導体とγ線防護ミラー

一年戦争以前、UC世界においては、まさにそうしたレーザーこそが遠隔兵器として最優先とされていた。しかし、その状況は、のちにミノフスキー粒子散発下で運用されたモビルスーツや戦闘艦船に多用されることとなった全面光回折機開発の副産物である。臨界半導体によって一変することとなった。

臨界半導体は、それに照射される特定波長の光を、その密度によって、あるいは透過し、あるいは反射する。高光度透過型と高光度反射型とを組み合わせさせてスイッチとして用いれば、発光点が作れるし、高光度透過型は、のちのコロニー・レーザーにおけるように、レーザー光発生にも手軽に利用できる。

しかし、光回折とならば、臨界半導体の最大の応用分野は、レーザーの発生ならぬ、その破壊的なビームへの防御だった。

波長ごとに調整された臨界半導体の多層コーティングをほどこした艦船や基地などは、在来型のビーム兵器のほとんどに対して、絶対的な強みを持つことになった。

ただし、この防御もおよばない種類のレーザー兵器システムも存在した。

X線γ線レーザーだ。

一九八〇年代に実験レベルでは実現していたこのレーザーは、核分裂反応を動力源として、金属のシリンドラから、超高密度のX線やγ線のレーザー光を発射するというもので、実用化されれば、防御のしようがないものだった。もともと、中途の物質に急速にエネルギーを伝えるため、大気中では運用できず、宇宙空間の場合にも、宇宙船の周囲に低密度のガスを放出したり、長いアームの先に薄い金属箔の網をおけば、これらにエネルギーのほとんどを吸収させて本体を防護するという手段もありえたが――。

だが、UC世紀にあって、ようやく実用レベルに達したγ線レーザーは、まさにそのガンマ線ビームの収束・誘導を可能にする新技術によって、無効化されることとなった。

一九七〇年代のX線透過機で、一九八〇年代に、上記のシステムとはまったく別の原理から実現した軟X線レーザー用の光学制御システム、つまりX線レンズ技術によって、である。光や電磁波の回折現象を利用するこうした「レンズ」を組み合わせれば、X線やガンマ線も偏角を繰り返すことにより、あさっ



ての方向に反射させることができる。

もちろん分子や原子をみの流長を持つγ線の「レンズ」を実現するには、原子規模の工作技術——ナノテクノロジーが絶対必要条件となる。

しかし、こうしたX線・γ線レンズは、太陽や宇宙全域からの宇宙線による破壊を常に受ける宇宙居住者たちには、これまた絶対に必要とされる。

結局、まずはγ線防護シールドによってX線・γ線レーザーが無効化された。これはまた、従来型の核分裂ロケットや核融合ロケットから放たれるγ線レーザーや、核分裂（燃焼）／核融合（水爆）兵器の放つ致命的なγ線防護の手段が実現したことも意味するものだった。実は、大気という障壁がないため、宇宙空間での核兵器の使用は、これ以前には想像、双方の側の死を意味するものだったのである。

そして、これに続いては、すべてのレーザー兵器が、臨界半導体によって過去のものとなったのだった。

ビーム・サーベル

こうして、導入されることになったのが、レーザーに比べて遠距離での収束性が低いものの、比較的近距离では絶対的に有利なメガ粒子ビームだった。

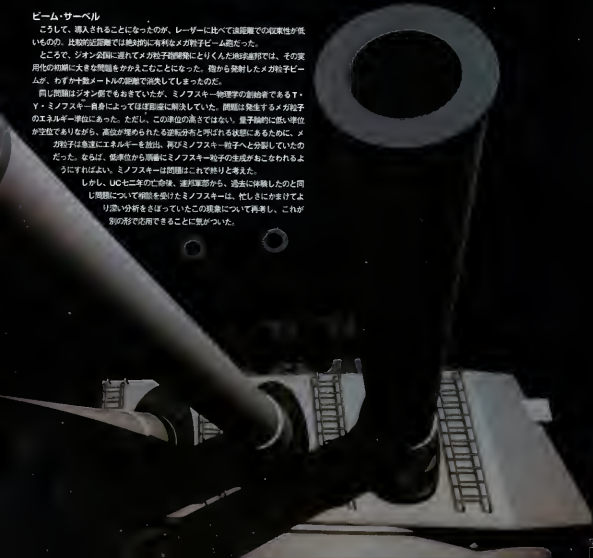
ところで、ジオン公国に連れて来てメガ粒子加速器とくりくんだ地球連邦では、その実用化の初期に大きな問題をかかえこむことになった。砲から発射したメガ粒子ビームが、わずか数メートルの距離で消失してしまったのだ。

同じ問題はジオン側でもおきていたが、ミノフスキー物理学の創始者であるT・Y・ミノフスキー自身によってほぼ即座に解決していた。問題は発生するメガ粒子のエネルギー単位にあった。ただし、この単位の高さではない。量子論的に低い単位が空位でありながら、高単位で埋められた逆転分布と呼ばれる状態にあるために、メガ粒子は急速にエネルギーを放出、再びミノフスキー粒子へと分裂していたのだ。ならば、低準位から両端にミノフスキー粒子の生成がおこなわれるようにすればよい。ミノフスキー問題はこれで終りと考えた。

しかし、UC七二年の亡命後、連邦軍部から、過去に体験したのと同じ問題について相談を受けたミノフスキーは、忙しさにかまけてより深い分析をさぼっていたこの現象について再考し、これが別の形で応用できることに気がついた。

初期砲で急速にエネルギーを放出するメガ粒子ビーム。しかも、生成されるのは、純粋な熱と、それ自体では人体やほかの生命にまったく無害なミノフスキー粒子のみ……。遠距離にとどかないのであればは軍事的には意味がないはずだが、治療や消毒、断罪など、民生用にはその応用範囲は無限だろう。

しかし、ミノフスキーの夢は、連邦軍部によって裏切られた。近接戦闘におけるモビルスーツによる格闘戦術に、こうした治療トーチは最適ではないか？ かくして誕生したビーム・サーベルは、連邦によるモビルスーツの量産化成功とあいまって、一年戦争後半期の戦況さえも根本から変える力となりえたのだった。





サイド7に侵入したジオン軍モビルスーツ部隊の攻撃を回避するため、やむなく非戦闘員とRX-78を搭載して地球へと降下した強襲揚陸艦ホワイトベース。

青年科長ブライトの必死の指揮下で開花した少年アムロの潜在能力、そしてRX-78のポテンシャルはその後の宇宙開拓戦の基幹となる貴重な局地戦データを生成した。

人類軍事史上初のモビルスーツ戦。

この新しい戦術用兵器思想は、サイド7から地球を経てア・バオア・クーまでホワイトベースの104日におよぶ戦いによって大半が確立されたのである。

機動突撃兵、近接と遠火戦、要塞攻略戦、破



事機動戦、色鮮やかな水雷戦、航空制圧戦。

戦争の歴史は常に科学技術の発達に支えられてきた。その到達点としてジオン軍が考案したモビルスーツによる三次元機動戦がある。

それまでの戦術戦とは航空戦に多少の高低差はあるものの所謂二次元の作戦平面を考えればよかった。だが空間機動兵器の出現により操縦者は前後左右に上下を加えた作成立体を意識して戦わねばならなくなったのである。しかも作戦空間は敵味方が放出したミノフスキー粒子によってレーダー装置によるスキャンが不可能である。

三次元作戦成立と光学目視による敵の探索。

これが空間機動戦の要である。

サイド7に侵入したジオン軍のザクに遭遇したアムロは、初めて見る重厚な戦闘機械に圧倒される。やがて突撃投入面前であったRX-78をやむなく発動させたことから非公式とはいえ連邦軍初の実戦モビルスーツパイロットとなる。

ホワイトベースの救出と大気圏突入、そこを脱してのシャアの追撃りな追撃。

連邦軍モビルスーツ機動部隊の支援整備と強襲揚陸を目的とし突撃艦として建造されたホワイトベースもまた、いさなりの突撃投入を経験する。

ホワイトベースは連邦軍の重要軍事機密であるRX-78を搭載しているにも

ガンダム世界の局地戦術… ホワイトベースを巡る攻防と 機動戦法の確立

The Local Tactics in the Gundam World

文・高橋信之

問わらず、万全の固守シフトで守られたと言えない。

それどころか作戦員数外の独立部隊として青年科校プライトに能の総指揮を委ねて
すらい。強化する他の戦隊でのジオン軍との戦闘指揮、軍令部内のモビルスーツ兵
隊の用兵再編、支援ポイントの喪失などの理由から実験艦ホワイトベースは、情報
科校や司令部連絡船の同僚もなく単独作戦という類い稀な軍事行動を企及する。

その結果として民間人であったアムロへのRX-78の搭乗が促され、それによって
艦城下に組み込まれた戦艦立体認識や行動予測認識の高さ（ニュータイプ識別）がされ
たのだから皮肉なものである。

地上降下後、連邦軍支援部隊のホワイトベース接收が速やかに行われていたらアム
ロは搭乗と出撃の経験を重ねることなく、ニュータイプとしての覚悟もなかったかも
しれない。

正確なところ、この局地待機戦闘でのホワイトベースには大した戦術もなく、敵と
の遭遇と戦術の変更のみに翻弄された戦が。また司令部の冷遇ぶりについては、
すでに遠征能力の搭乗員が到着できる量産型モビルスーツのロールアウトが始まって
いる時期であり、未開拓の実験艦RX-78については、さほど重要視されなかった
のではという推測もなりたつ。また連邦軍司令部が抱える大反響作戦の前において、
異域外の部隊であるホワイトベースはまたとない宿もなかった。

戦争とは真に冷感なもので、最後の戦術的な勝利条件を満たすためには、戦術レベ
ル、作戦レベルの戦闘は時にはあえて断つことを放棄する。他人の戦死の死は、次
へのステップではない。

ジオン軍が次々にアムロの前に投入する新型モビ
ルスーツ。それらとの戦闘を通じてベテランパイロ
ットへのキャリアを積むアムロ。そしてRX-78の
OSは次々に戦闘データの蓄積を行ってゆく。

モビルスーツV.S.モビルスーツ。

これもまた人類初の人間型機動兵器同士の戦いが、
なんとも偶然にも開始されたのだ。

モビルスーツとは元々、ジオン軍により宇宙洋
行の破壊、スペースコロニーへの進攻などを三次空
間での戦闘のために開発された機動兵器である。ジ
オン公団の進んだテクノロジーは、短期間の間にそ

れらを艦載や水中戦の専用兵器として発達させていた。

これらと戦ってきたRX-78には、さまざまなフォーマットでデータが蓄積された。
またそれによりアムロの中に眠っていた能力も覚醒する。

そのようなかでほとんど支援や援護を受けずにジョブローまでたどり着いたホワ
イトベース。その活躍と活躍そして戦術的価値は、連邦軍司令部に一度は見捨てられて
いたRX-78と専用機動兵器の回収を思い起こさせる。

こうして異域外の独立部隊は、実験キャリアを兼ねたエース・チームとして再び
宇宙へと帰還する。

だが、そこには真の三次元戦闘が待っている。

空間機動力をアポジモーターで高めたモビルスーツは、他の宇宙艦と違って三次元
空間を縦横無尽に駆けめぐる。

宇宙空間での慣性による軌道は、このアポジモーター以外にもホビディバランスのウ
ェイト移動（AMBAC）やロケット砲の反動を効果
的に応用することで変えられる。これらによって急
激にドッグファイト（格闘戦）技術がパイロット達
に磨かれていった。

動きの速い宇宙艦相手の機動戦と違って同じ機動
性能をもつモビルスーツ同士の戦いでは、一瞬の反
応遅延は死を招いた。

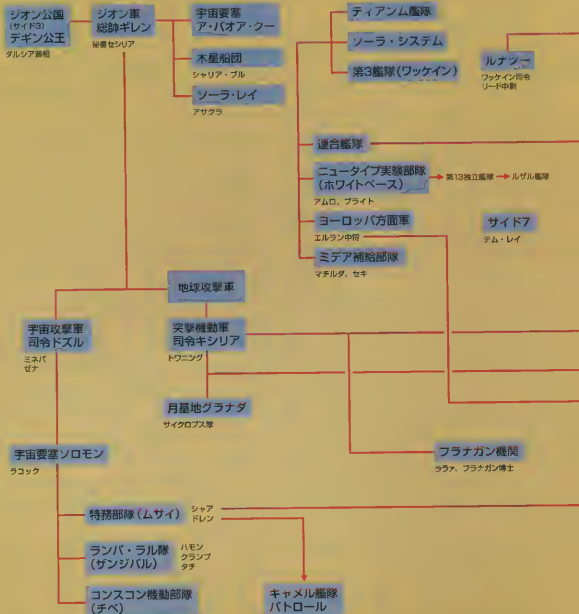
こうして一年戦争の終わりに至るには、本格的な機動戦のためのドッグ・ファイトテ
クニックがまだ初歩的とはいえ確立されていったのだ。

そして……。その戦いを経て、アムロの戦闘予知能力が開花した。

ホワイトベースの地球降下から衛星軌道への帰還までの間に、これだけの戦術が行
われそして後のすべての空間戦闘のための戦術と機動戦法が確立されたのである。

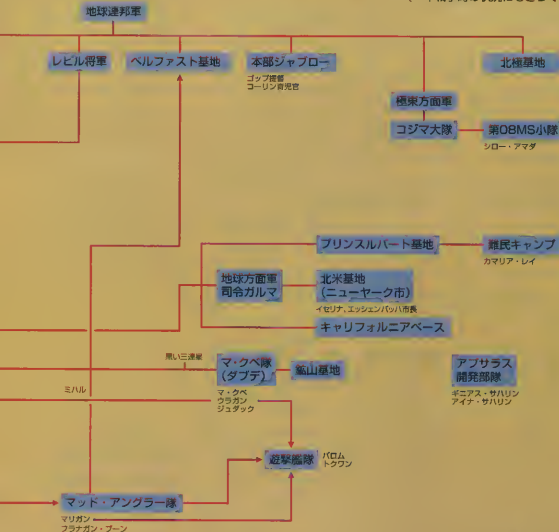
はぐれ鳥としてのホワイトベースこそ、ガンダム世界すべての用兵思想を刷新する
ターニング・ポイントメーカであったのだ。





地球連邦軍・ジオン軍の組織編成

(一年戦争時の状況にもとづくもの)



中立地帯

サイド6 (カムラン)
テキサスコロニー

■ ジオン軍



MS-05 ザクI (旧ザク)



MS-06 ザクII



MS-06J 高機動ザク



MS-06RD-4 高機動空ザク



MS-07B グフ

MOBILE SUIT

■ 地球連邦軍



RX-78-2 ガンダム

ミノフスキー粒子下の宇宙戦においてジオンに遅れをとった連邦軍は、戦力における劣勢を挽回するため、最初から高機動のモビルスーツと、その母艦となる宇宙船、支援メカ等を緊急かつ並行して開発する必要に迫られた。これがコア・ブロック・システムを採用したガンダム、ガンタンク、ガンキャノンの連動にホワイトベース、ガンバリーを加えた部隊編成の試験の運用——いわゆるV作戦である。ガンダムのパイロットに、アムロ・レイというニュータイプ能力を持つ稀有な人材を得たことなど、多分に偶然の積み重ねからではあったが、これが大きな戦果を挙げたために、以後、連邦はガンダムシリーズの後継・量産タイプに発展することとなる。



RX-77 ガンキャノン



RX-77 ガンタンク



ザクタンク



ザクキャノン



MS-09 ドム



MS-06FZ ザクII改

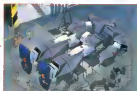


MS-06F2 ザクII F2型

一年戦争の終戦においてジオンの優勢を決定づけたのは、ザクという極めて完成度の高い量産型モビルスーツの存在が大きかった。国力の不足を補うためと、事実上の軍事独裁政権であったジオンの掌閥一統体制が、モビルスーツ技術の進歩を加速させ、さまざまな強化タイプやバリエーションを生み出したことは、かつてのナチス・ドイツにおけるロケット工学の発達と同様である。人類の宇宙進出は、ここでもまたモビルスーツという戦争の道具と背中合わせだったことがうかがえる。



MS-21C ドラッグス



RX-78NT-1 アレックス



重戦型 ガンタンク



RX-770 ガンキャノン重戦型



RX-78GP01 ガンダム 試作1号機



RX-78GP02 ガンダム 試作2号機



RX-03 ガンダム

■水陸両用モビルスーツ



ゴグギン



アッガイ



ゾック



リック・ドム



ソック



リック・ドムII

■宇宙用モビルスーツ



ガンダムガンダム



ガンダムEe-B



RGM-79 ジム



ボール



宇宙用ジム コマンド

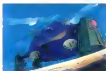


地上戦用ジム

初代ガンダムの華々しい成功によって、連邦は後継機種の開発をすすめるがたわら、急務であった量産型モビルスーツの製造に着手した。その第1弾が武蔵、装甲ともに簡略化されたジムシリーズである。これはいわばコストダウンを図る一方、戦争末期のパイロット不足に対応した苦肉の策ともいえた。作業用ボッドを改良したボールも同様だったが、一年戦争以後、これらの機体環境は改善されている。

■量産タイプ

■モビルアーマーの原型



アッザム



ハイゴッグ



スゴックE



重戦型グフ



グフ・フライトタイプ



グラブロ



ドム・トローパーン

ジオン軍はモビルスーツの改良を重ねて、ザクに代わる優秀な機体を希求する一方、より高機動・重武装のモビルアーマー開発にも取り組んでいた。これは地球占領政策において、海洋や極地、砂漠地帯などで、コロニーとは異なる自然環境下でも戦闘行動が可能な、重機動兵器が必要だったためと思われる。



ジム・コマンド

赤市地用ジム

ジムスナイパーII



ドラケンE



ジム改

パワー・ジム

ジム・カスタム

ジム・キャノンII

■バリエーション

■宇宙用モビルスーツ、モビルアーマー



ビッグロ



ザクロロ

「オデッサの戦い」の敗北を契機に、地球圏からの撤退を余儀なくされたジオン軍は、再びコロニー宙域での戦術で挽回を狙った。そこで大量に投入されたのが宇宙用のモビルスーツ、モビルアーマーである。



ビッグ・ザム



グルググ



グルググJ



グルググM



ギャン



ガンバファ

この時期、ジオンの技術陣は巨大さを誇るものから格闘戦用、あるいは、にわかに注目され始めたニュータイプ用のモビルスーツ、モビルアーマーまで、司令部の要請に応じて様々な機種を急ピッチで開発していた。



ザメル

MOBILE SUIT / MOBILE ARMOUR

■MS支援メカ



コア ファイター



コア・ブースター

運搬軍は開発技術の遅れと数量不足を補う目的から、モビルスーツ・サポートメカの製造に力を注いだ。ジオンにもド・ダイやルググのような、トランスポーター（輸送機）の役割をするものがあるが、連邦軍の特色はコア・プロックまたはガンダムそのものと合体することで、長距離の移動や立体的な戦術を可能にしている点である。



Gバー



ガンバリー



ジオン軍のドダイS

■ニュータイプ用モビルアーマー



ジオング

■試作モビルアーマー



■もうひとつのガンダム



ガーベラ・テトラ

シーマ・ガラハウが最初に搭乗したガーベラ・テトラは、実はガンダムの試作4号機として生産されたもの。製造元のアナハイム・エレクトロニクス社は、ごく初期の時代からモビルスーツ開発に携わってきた地球の一大軍産産業で、一年戦争の際には、連邦とジオンの双方に製品や技術を提供していたことから「死の商人」とも呼ばれている。連邦がガンダムのような完成度の高い機体を短期間に作り上げた背景には、テム・レイ博士、セキ技術大佐ら優秀な開発チームを擁していたことはもちろんだが、その隣に存在したアナハイム社の力も見逃せないだろう。



グウゼン



グウゼン



チベ



ムサイ



ザンザリル



ムサイ編



リリー・マルレーン

宇宙兵力

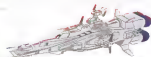


ホワイトベース

■ペガサス級



マゼラン



マゼラン改



サラミス



サラミス改

一年戦争時の連邦の宇宙戦艦は、戦艦マゼラン、巡洋艦サラミスを中心とする艦隊が軸になっており、バブルクのような戦闘艦がこれを護衛する形だったが、すでにこの時点で時代錯誤の感があるのは否めない。逆にジオンは、足（推力）の強い艦艇の前面にモビルスーツ部隊を展開させることで、連邦がしがみついていた地球的大艦巨艦主義に冷水を浴びせたのであった。一年戦争以後、連邦軍はガンダムとホワイトベースの例にならって、常にモビルスーツとその母艦を一緒とする運用方針を打ち出しているが、宇宙航行に宇宙船が不可欠である以上、当然ながら艦隊単位の兵力展開はその後も継続されている。



ドロス

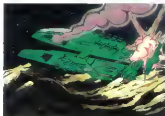


グラーフツェツバリン

ジオンの宇宙艦隊は、ムサイを中心にさわめて洗練された多様な艦艇で構成されており、大気圏突入性能をもったザンツバル海、モビルスーツとの連携を意図したものが多い。逆にガトルやジッコなどの戦闘艦はすでに時代遅れだが、最終決戦においては取り出さざるを得なかったようである。



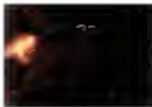
ジッコ



バファ



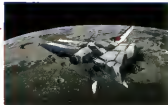
バノク



ガトル



グレイファントム



アルピオン



クロンパス



バーミンガム



バプリク



ラヒャンロース



ダブデ



チャロップ



ワッパ



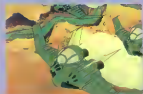
キユイ



マゼラ・アタック

地球に侵襲したジオン軍は、主に北米大陸とユーラシア大陸に拠点を築いていたが、特にヨーロッパの鉱山基地は重要な補給源であり、ダブデ陸戦機をはじめ、様々な戦闘車両が配備されていた。また飛行体に分類できるマゼラ・アタックは、機動性が高く、各戦線で活躍した。

ジオンの航空機の特長は、宇宙艦艇と同じくモビルスーツと組み合わせて戦えるという点だ。遠距離の輸送はもちろん、補給や援護、誘導など様々な局面でモビルスーツ部隊と協力できるように設計されている。なお、北米大陸の航空機はジオンに抑られているが、これはガルマ司令の努力によるところが大きいようだ。



ドップ



ガウ

地上兵力



ビッグトレイ



61式戦車

連邦軍の戦力はすべてにおいて旧式で、これは大規模な国家間戦争がなくなり平和な時代が長く続いたためである。一年戦争当時のヨーロッパ戦線において、主力が61式戦車だったという事実には驚くほかないが、そのことが逆にガンダムやホワイトベースの誕生を早めたともいえるだろう。また、モビルスーツ部隊とホバートラックを連携させるといった戦術の転換も、時代の流れを示すものだ。

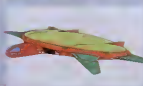


ホバートラック

航空兵力



ミデア



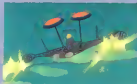
ディッシュ



デブ・ロック



ファイト・アングル



ルッグン



ゴミュ



フローター



シャーランス



ユークン88



マッド・アングラー



グーコン

ジオンの戦艦思想は海軍においても継承しており、早くから水陸両用モビルスーツの開発に着手したり、連邦の港湾施設を監視する潜水艦部隊を派遣したりと抜かりがない。モビルスーツの格納が可能な艦船も当然、配備されている。

海軍兵力



フライ・マンタ



ドン・エスカルゴ



ドラゴン・フライ
ジャブローやベル
ファストなど重要な
基地の防衛には
派手な機体であり、
各種の戦闘機が
配備されている。



コア・イージー



ミマツサ

優秀な潜水艦部隊をもつジオンに対して、連邦海軍の艦船
といえば、これまた旧式の空母があるくらい。この一帯を
とって、いかに連邦が平和に慣れさせていたかがわかる
だろう。もっとも、そのような時代の方がいいに決まっ
ているが……。なお、ガンダムは短時間なら水中での戦闘行
動が可能で、その意味でも汎用性が高かったようである。

MOBILE SUIT SPEC LIST

地球連邦軍

型式番号	名称	頭頂高 (全長)	本体重量	ジェネレーター出力
RX-78-2	ガンダム	18.0m	43.4t	1380kw
RX-78 (G)	陸戦型ガンダム (重産型)	18.0m	52.8t	
RX-79 (G) EZ-8	ガンダムEZ-8 (イージー・エイト)	18.0m (推定)	53.5t (推定)	
RX-78NT-1	アレックス	18.0m	40.0t	1420kw
RX-78GP01	ガンダム試作1号機	18.0m	39.7t	1790kw
RX-78GP02A	ガンダム試作2号機	18.5m	54.5t	1880kw
RX-78GP03S	ガンダム試作3号機ステイメン	18.0m	41.6t	2000kw
RX-77-2	ガンキャノン	17.5m	51.0t	1380kw
RX-770	重産型ガンキャノン	17.5m	51.0t	1410kw
RX-75	ガンタンク	15.0m	58.0t	878kw
RGM-79	ジム (GM)	18.0m	41.2t	1250kw
RGM-79 (G)	勇戦型ジム	18.0m	53.8t	
RGM-790	寒冷地用ジム	18.0m	44.7t	1250kw
RGM-79G	ジム・コマンド (コロニー用)	18.0m	43.5t	1390kw
RGM-79GS	ジム・コマンド (宇宙用)	18.0m	44.6t	1390kw
RGM-79SP	ジム・スナイパーII	18.0m	45.0t	1390kw
RGM-7B	バワード・ジム	18.0m	46.6t	1650kw
RGM-79N	ジム・カスタム	18.0m	42.0t	1420kw
RGC-B3	ジム・キャノンII	18.0m	47.3t	1420kw
RGM-79C	ジム改	18.0m	41.2t	1250kw

ジオン軍

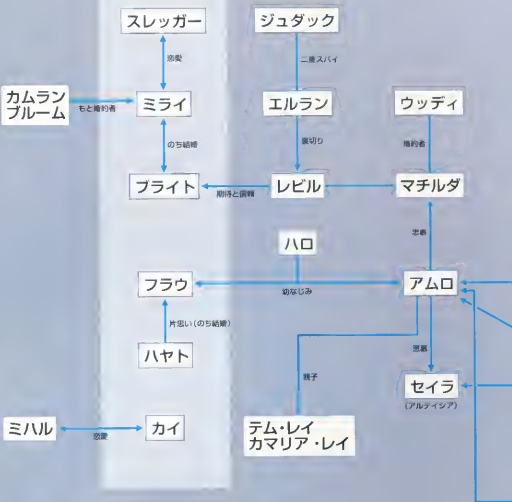
型式番号	名称	頭頂高 (全長)	本体重量	ジェネレーター出力
MS-06	ザク (ザクII)	17.5m	56.2t	978kw
MS-06FZ	ザクII改	17.5m	56.2t	976kw
MS-06F2	ザクII F2型	17.5m	49.9t	986kw
MS-07	グフ	18.2m	58.5t	1034kw
MS-07B3	グフB3型 (重産型)	18.2m	58.5t	1034kw
MS-09	ドム	18.6m	62.6t	1269kw
MS-09R	リック・ドム	18.6m	43.8t	1199kw
MS-09R II	リック・ドムII (ツヴァイ)	18.6m	45.6t	1219kw
MS-09F/TROP	ドム・トロペン	18.5m	44.8t	1199kw
MSM-03	ゴッグ	18.3m	82.4t	1740kw
MSM-03C	ハイゴッグ	15.4m	54.5t	2736kw
MSM-07	スゴッグ	18.4m	65.1t	2480kw
MSM-07E	スゴッグE (エクスペリメント)	18.4m	69.5t	2670kw
MSM-10	ゾック	23.9m	167.6t	3849kw
MSM-04	アッガイ	18.0m	41.2t	1740kw
MS-14	ゲルググ	19.2m	42.1t	1440kw
MS-14JG	ゲルググJ (イエーガー)	19.2m	40.5t	1480kw
MS-14F	ゲルググM (マリネ)	18.2m	45.1t	1440kw
MS-15	キャン	19.9m	52.7t	1360kw
MSN-02	ジオング	17.3m	151.2t	9400kw
MS-18E	ケン普法ー	17.7m	43.5t	1550kw
MS-21C	ドラッツェ	29.8m	23.9t	596kw
AGX-04	カーベラ・テトラ	18.0m	46.7t	1710kw
YMS-18M	ザメル	27.0m	75.0t	1090kw
MAM-07	グラブロ	40.2m	793.7t	11000kw
MA-05	ビッグロ	45.5m	125.5t	17800kw
MA-04X	ザクレロ			
MAN-03	ブラウ・ブロ	60.2m	1735.3t	74000kw
MAN-08	エルメス	65.4m	163.7t	14200kw
MA-08	ビッグ・ザム	59.6m	1021.2t	140000kw
MA-06	ヴァル・ヴァロ	68.0m	254.1t	28030kw
AMX-002 (AMA-X2)	ノイエ・ジール	76.6m	198.2t	75800kw

スラスタースペック	装甲材質	メインパイロット	備考
555000kg	超硬合金ルナ・チタニウム	アムロ・レイ、リュウ・ホセイ(予定)	通称「白いやつ」
520000kg	ルナ・チタニウム	シロー・アマダほか第08小隊	地上戦用、限定量型タイプ
	ルナ・チタニウム	シロー・アマダ	簡易補修カスタムタイプ
132000kg	ルナ・チタニウム	クリス・マッケンジー	テスト機、愛称「アレックス」
108000kg	ルナ・チタニウム	コウ・ウラキ	コードネーム「ゼフィランサス」
155200kg	ルナ・チタニウム	アナベル・ガトー(奪取)	コードネーム「サイサリス」
188000kg	ルナ・チタニウム	コウ・ウラキ	コードネーム「ステイメン」
51800kg	ルナ・チタニウム	カイ・シデン、ハヤト・コバヤシ(流用)	中距離支援型試作 モビルスーツ
93500kg	チタン・セラミック複合材		スカレット隊所属
88000kg	ルナ・チタニウム	ハヤト・コバヤシ	長期試験機試作MS
555000kg	チタン合金		連邦初の量産型MS
			地戦型先行試作タイプ
60000kg	チタン・セラミック複合材		北洋基地所属
67000kg	チタン・セラミック複合材		スカレット隊所属
74000kg	チタン・セラミック複合材		
102000kg	チタン・セラミック複合材		スカレット隊所属
71480kg	チタン・セラミック複合材		
67480kg	チタン・セラミック複合材	バニング、モンシア、ペイト	トリントン基地所属
58480kg	チタン・セラミック複合材	チャック・キース、アデル	中距離支援型MS
57480kg	チタン・セラミック複合材		

スラスタースペック	装甲材質	メインパイロット	備考
43300kg	超硬スチール合金	シャア(専用機)、ククルス・ドアンほか	ジオ初の本産型MS
79500kg	チタン・セラミック複合材	バーナード・ワイズマン	
53400kg	超硬スチール合金	ノイエン・ビッター(専用機)	連邦軍、デラーズ・フリート双方で使用
40700kg	超硬スチール合金	ランバ・ラル、ヘイブ、マーチほか	
		ノリス、バックカード	陸戦用MS
58200kg	超硬スチール合金	黒い三連星(ガイア、オルダガ、マッシュ)	ホバー機能搭載
53000kg	超硬スチール合金	カヤハワ、バタシャムほか	宇宙戦用ドム、通称「スカートつき」
110000kg	チタン・セラミック複合材		
47200kg	超硬スチール合金	アダムスキー、ゲイリー	
121000kg	チタン・セラミック複合材	コーカ・ラサ	水陸両用MS、陸地航行機能(水中航行)搭載
86000kg	チタン・セラミック複合材	アンディ・ストロース	サイクロプス隊所属
83000kg	チタン・セラミック複合材	シャア(専用機)、カラハ、ゴダール	マッド・アングラー所属 量産型水陸両用MS
112000kg	チタン・セラミック複合材	シュタイナー	簡易変形機能搭載
253000kg	チタン・セラミック複合材	ボラスキフ	水陸両用MS、ホバー機能搭載
555000kg	チタン合金	赤井、クラフト、マジソン	水陸両用MS
61500kg	超硬スチール合金	シャア(専用機)	量産型MS
178500kg	チタン・セラミック複合材		
55000kg	超硬スチール合金	シーマ、ガラハワ(専用機)	シーマ艦隊所属
56200kg	超硬スチール合金	マ・クベ	白兵戦用試作MS、マ・クベ専用機
187000kg	超硬スチール合金	シャア	ニュータイプ用MS(未完成)
159000kg	チタン・セラミック複合材	ミハイル・カミンスキー	サイクロプス隊所属
117500kg	超硬スチール合金		デラーズ・フリートの陸戦型MS
216000kg	ルナ・チタニウム	シーマ、ガラハワ	ガンダム試作4号機
61800kg	超硬スチール合金	ボブ	ホバー機能搭載
	超硬スチール合金	フラナガン・ブーン	水中用モビルアーマー、緊急可変機能搭載(特異形態)
136100kg	超硬スチール合金	トクワン	宇宙戦用MA
	超硬スチール合金	デミトリ	宇宙戦用試作MA
176000kg	超硬スチール合金	シャリア・ブル、シムス・アル、コワル	ニュータイプ用MA
645200kg	超硬スチール合金	ララァ・スン	ニュータイプ用MA、別名「とんがり帽子」
580000kg	超硬スチール合金	ドズル・ザビ、マイヤー	対ビームバリア装備
720000kg	超硬スチール合金	クリイ・レズナー	可変機能搭載(特異形態)
1938000kg	超硬スチール合金	アナベル・ガトー	アークシズ型巨大MA

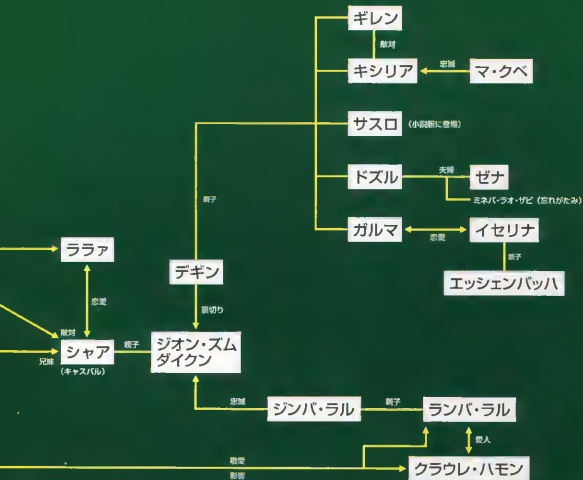
ホワイトベース

```
graph TD; Slegar[スレッガー] <-->|恋愛| Miyai[ミライ]; Miyai <-->|のち結婚| Bright[ブライト]; Bright <-->|姉妹| Frow[フラウ]; Hayato[ハヤト] <-->|姉妹| Frow; Kai[カイ] <-->|兄弟| Miyai;
```



地球連邦軍

ガンダム・キャラクター関係図



ジオン軍

第31話「ザンジバル、追撃!」

連邦軍はジオンに向け進撃を開始。ホワイトベース（WB）は主力艦隊を移動させる船となつて発達するが、シャアのザンジバルが攻撃をかけてきた。トクワンが搭乗する新型モビルアーマー・ビッグロに転異されるGスカイのアムロ。アムロはガンダムに換装してビッグロを撃破、スレグガー中尉の主砲がザンジバルに命中し、WBはシャアの追撃を振り切る。

第32話「横行突破作戦」

トクワンの敵を討とうと、デミトリイはシャアに無断でモビルアーマー・ザクレロで出撃。だが、ザクレロはGパーツをはいたガンダムの敵ではなかった。シャアはキャメル艦隊のドレンに連絡を取り、ホワイトベースを挟み撃ちにする作戦に出る。しかし、ドレンはシャアの到着まで待ちこたえられず、艦隊は壊滅。WBは中立国のサイド6へと進路を取る。

第33話「コンスコン強襲」

WBはサイド6に入港し、アムロは偶然にも父テムとの再会を果たす。だが、テムは酸素欠乏症で脳をやられ、落ちぶれ果てていた。一方、ミライのかつての増殖者カムランの配属で、新編したWBは公海上の浮きドッグで修理を受ける。が、そこへドズルの命を受けたコンスコンのリック・ドム隊が急襲してくる。ガンダムはドムを次々と撃墜する。

第34話「宿命の出会い」

父に別れを告げたアムロは、サイド6を出港するWBへと帰還を急ぐ。が、途中、車がめぐるみにはまり、通りがかったジオンの将校と少女ララァに救われる。アムロはその将校こそ、宿命の敵シャアだと直感する。WBは出港するが、それを待ち受けていたコンスコンが襲ってくる。テレビでそれを見ていたララァは、アムロが機つとシャアに予告する。

第35話「ソロモン攻防戦」

ルナツー司令官ワッケインとの再会も束の間、WBはドズルが死守する要害ソロモン攻撃の急先鋒を命じられる。ジム、ボールで総攻撃をかける連邦軍に、迎え撃つジオンのリック・ドム。両者の死闘が繰り返される。ティアム艦隊の新兵器ソーラー・システムによって打撃を与えた連邦軍は、ソロモン内に侵入。キシリアはソロモンにシャアを向かわせる。

第36話「恐怖!機動ビッグ・ザム」

被弾したスレグガーは母の形見の指輪をミライに託し、戦線へと舞い戻る。スレグガーはドズルが優勢を挽回すべく発達した新モビルアーマー・ビッグ・ザムに捨て身の攻撃をかけ、戦線に突破口を開く。アムロはビームサーベルでビッグ・ザムに止めを刺す。

第37話「テキサスの攻防」

WBはジオンの残存艦を掃討しにテキサスゾーンに入る。が、そこには新モビルスーツ（MS）ゲルググの受け取りにシャアもまた入港していた。一方、マクベは、専用MSギャンでガンダムに戦いを挑むがニュータイプのみを見せているアムロの前に敗れさった。

STORY DIGI

第38話「再会、シャアとセイラ」

シャアは、ガンダムのパイロットがニュータイプなのか確かめるため、ゲルググで攻撃をかけるが、アムロの早い動きに敗退。一方、パワーを消耗して動けなくなったガンダムの機体に出たセイラは、デキサスの砂漠で思いがけずシャアに出会う。父のジオン公国を乗っ取ったザビ家への復讐を誓うシャアは、セイラに地球への脱出をすすめて別れを告げる。

第39話「ニュータイプ、シャリア・ブル」

連邦軍に、何の前触れもなく戦艦が爆破されるという奇妙な事件が発生する。エルメスに乗ったニュータイプ、ララァに秘められた能力だった。ギレンはニュータイプの実質が認められるシャリア・ブルをキシリアのもとへ送り、ブラウ・ブロに乗せて連邦軍に攻撃をかける。が、同じニュータイプとはいえずアムロの能力は格段に優れ、ブルは倒される。

第40話「エルメスのララァ」

アムロのニュータイプとしての能力の開花は目覚ましく、ガンダムの性能はそれに追いつかなくなった。アムロはガンダムの運動性能を改良するため、ソロモンの技術本部へと向かう。一方、ララァはエルメスに搭乗して初の実戦に出撃。卓越した能力で次々と連邦の船を沈め、空前の戦果を挙げる。連邦軍はジオン公国に侵攻する「星一号作戦」を発動し、ホワイトベースも発達。アムロは運動性の増したガンダムで、シャアとの戦いに勝つ。

第41話「光る宇宙」

再びホワイトベースを襲ってきたシャアのゲルググに、アムロはガンダムで対峙。苦戦するシャアに、ララァは撤退の声をアムロに授けつつ、エルメスで攻撃してくる。しかし、ニュータイプ同士の会話を続けるうち、二人は共鳴し、互いの運ずけた出会いと、人類が目指すべき未来を垣間見る。が、ララァはシャアに振り下ろされたガンダムのビームサーベルを身代わりを受けて宙に散る。取り返しつかない結末にアムロはシャアを惜む。

第42話「宇宙要塞ア・バオア・クー」

ギレンの発射したソーラ・レイによって、レビル艦隊は和平交渉を望んだデギンのもとへ消え去った。生き残った連邦軍は、ギレンの拠点ア・バオア・クーに最後の特攻をかける。戦艦の最中、戦艦グワジンで到着したキシリアは、父であるデギンを殺したギレンを許さずに討伐する。が、その間の指揮の乱れに乗じて連邦軍は要塞に突入。アムロは、ニュータイプ用に開発されたジオングに乗ったシャアとの一戦打ちにでる。

第43話「脱出」

大破したホワイトベースはア・バオア・クーに不時着。全員が白兵戦に入る。一方、アムロとシャアはモビルスーツを捨て、剣による戦いを始めていた。要塞内を巡っていたセイラは偶然その場に行き着くが、二人を止めることはできない。突然の大爆発が三人を引き離す。シャアはセイラに別れを告げ、ザビ家の生き残りキシリアに止めを刺す。アムロはララァの声に励まされながらホワイトベースのクルーを脱出に導き、誓のもとへ向かう。

ST #31~43

カイ・シテン

■Notes: サイド7で現物採用されたホワイトベース所属のモビルスーツパイロットのひとり。豪快な雄姿のモビルスーツ、ガンキャノンに酷似する。アムロ・レイの影に覆われてあまり目立って存在ではないが、戦場からみれば、彼やハヤトも立派な「エース」である。戦争でもなければ軍組織と無縁だったろう人物であるだけに、そのパイロットとしての能力の関心には自分身内なものも感じていたのではないが、戦後の彼の足跡にはそんな想像もさせられる。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第2話

Other Appearance: 機動戦士Zガンダム

ハヤト・コバヤシ

■Notes: サイド7で採用されたホワイトベース所属のモビルスーツパイロットのひとり。当初サイド7への軍事技術者の登壇によりとぼつくりを博ったサイド7民間人として軍への反応を確かなかった。前線の前線な環境でのサバイバルがホワイトベースに家族的なつながりをもたらすにつれ、そうした反応は消え、彼はむしろ軍組織に積極的に参加していった。そのためか、戦後も軍組織からの援助を拒否なかった。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第1話

Other Appearance: 「機動戦士Zガンダム」、機動戦士ガンダムZZ

スレッガー・ロウ

■Note: ジャブローでホワイトベースに配備された補充パイロット。モビルスーツではなく、宇宙戦闘機乗りであったため主としてロメカ（機体ではコア・ブースター）のパイロットを務めた。十代の少年、少女で構成されるホワイトベースのクルーの中では異色といえる「大人の男」であり、職業軍人特有の冷静な生き方を血肉化した人物。ミライとプラトニックな感情の交流を持つが、ソロモンでのビザムとの戦闘でガンダムに血路を開くために戦死。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第30話

コア・ブースター

■Notes: コア・ファイターに追加ブースターを装備したもの。もともとモビルスーツのコクピットとしての機能を持ち、機密性が保証されているコア・ファイターゆえに宇宙でも活躍。ブースター部には主武装としてメガ粒子砲が内蔵され、試演面でも宇宙戦闘に対応したものとなっている。モビルスーツだけでは対応が難しい宇宙空間での高機動戦闘において、モビルスーツを補助する貴重な戦力となった。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 1巻・戦士篇

WHITE BASE

◎地球連邦軍ベガス級宇宙空母「ホワイトベース」





アムロ・レイ

■Height 18m Weight 60t
■Notes: モビルスーツ「ガンダム」のハイロッド、向モビルスーツ開発者テム・レイ博士の子息。もともと軍医ではなくサイド7コロニー内のハイスクールに通う学生であったが、側近コロニー内で進行中であった連邦軍モビルスーツ開発プロジェクト「V作戦」を察知したジオン軍の急襲の中でガンダムに搭乗。シオン軍モビルスーツ「ザク」を撃破。この襲撃により乗滅状態に陥ったサイド7駐留軍により最前線パイロットとして現地に送られた。その乗機、ホワイトベースが連邦宇宙軍のティターンズ艦隊に編入されて以降は連邦サイドでも最前線の戦力を戦術要所に利用した船があるが、この不思議なスーパーエースの軍組織との折り合いは、巻物伝えられるとは異なり、戦時中も余りよくはなかったようだ。その組織に属しその乗機は常に最前線でありながらも戦功を認められることのすくない機動作戦ばかりを任務にあてられている。彼については「ザク100機撃破」などの神話的なエピソードばかりが伝えられたため、いわゆる「ニュータイプ増強」との関連で語られることも多いが、これが原因で戦後の彼の運命は大きくねじ曲がったことにもなっている。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第1話

Also Appearance: 機動戦士Zガンダム

機動戦士ガンダム 逆襲のシャア

ガンダム

■Height 18m Weight 60t

■Notes: サイド7コロニーでテム・レイ博士の開発ゲームの手で機体機に開発されていた3体の連邦軍試作モビルスーツのうちの1機。同機にも何機かの隠匿機が存在したとされる。同コロニーへのジオン軍の襲撃事件により初の実戦を経験。連邦の当初の計画ではモビルスーツ運用はジオンの汎用性を主目的に開発されたモビルスーツ「ザク」に対し、より大出力のエンジンをもつ、共通のコア（コア・ファイター）をベースに、パーツ換装によって機能的に特化した3機のモビルスーツを戦術要所にさせるというものであった。本機はそのうち自衛用として开发された機体で、試作3機中ではもっとも重たい戦装を達成したため（これは当初の開発計画が軍用ベースにするには非常にハイコストであったためでもあるが）、連邦のモビルスーツ生産計画自体がガンダムタイプをベースに構造を標準化した汎用型モビルスーツ「ジム」タイプの生産へと変更された。という背景を持つ。ガンダムタイプは生産数、運用数などの点でそれぞれ諸説あり、一体何機が実数投入された、どのように戦場で使用されたかが現在でもよく議論されている話の多い機体である。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第1話

WHITE BASE

◎地球連邦軍ベガス級宇宙空母「ホワイトベース」

フライト・ア

■ 元もとはベガス級宇宙空母「ホワイトベース」に配備された士官候補生だったが、サイド7襲撃事件によって、ホワイトベースの士官クラスの乗組員が全滅に近い状態に陥ったため、艦長代理として前艦の指揮を執ることになった青年。ティターンズ艦隊編入後もホワイトベースの艦長として指揮を執り続け、ソロモン、ア・バオア・クーを戦戦、その指揮官としての有能を買われ、戦後も艦長軍人であり続ける。

First Appearance 機動戦士ガンダム 第1話

Other Appearance 機動戦士Zガンダム

機動戦士ガンダムZZ 機動戦士ガンダム

双翼メカ

セイラ・マス

■ シュ・サイド7で誘拐・拘束されたホワイトベースクルーのひとりでもおもに通信オペレーターをつとめていた。じつはジオン・ズム・タイコンの奥兄のひとりだとも言われる。ジオンの「赤い星」の料ともいう。なにかと謎の多い美少女。宇宙作戦の免許を持つため、リュウ・ホセイ戦艦はコア・ブースターやGメカなどのパイロットを務め、前線に出る。

First Appearance 機動戦士ガンダム 第2話

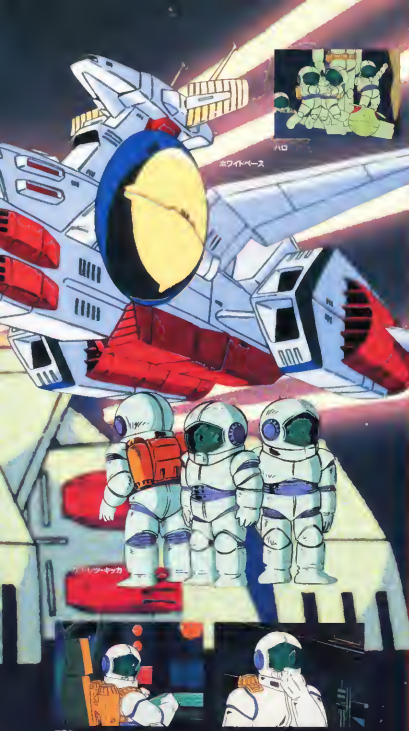
Other Appearance 機動戦士ガンダムZZ

ホワイトベース

■ 連邦のモビルスーツ開発計画に併せて開発されたモビルスーツ運用のための宇宙空母。これは当時ジオン側でも発想しえなかった画期的なコンセプトであり、その他にも大気圏突入、艦載、ミノフスキークラフトを使った大気圏内での運用など、革新的な技術が多数盛り込まれた新世代の軍用宇宙艦だが、そのため逆に生産コストが高騰し、開発に困難を投入された同型艦の数は少ない。艦内にモビルスーツハンガー、モビルスーツ射出力タラバを有し宇宙・地上を問わずモビルスーツの運用母艦として機能するよう設計されている。ホワイトベース級でもっとも著名なのはやはり「V作戦」のために開発された一艦艦「ホワイトベース」だろう。サイド7へのジオンの侵襲のため、半改以上が民間人というクルーの手で運行され、もがかわり多岐にわたる戦術を挙げた同艦の活躍はあまりにも有名であり、エースパイロットアムロ・レイを中心としたホワイトベース乗組員の少年少女たちの夢の。ともいうべき存在として世に広く知られている。

First Appearance 機動戦士ガンダム 第1話





ミライ・ヤシマ

●No. 日本名門、ヤシマ家の名門。父親は元連邦政府高官で政治的に強い影響力を持つ人物。サイド7でシオンの襲撃に遭い、現地密着でホワイトベースの乗組員となる。サイド6に現の定めた相手がいたが、「この戦いで大きく人生観を変えた彼女」はこれを拒否、戦後はブライト、ノアと結婚し、家庭に入った。

First Appearance 機動戦士ガンダム 第2話

Other Appearance 機動戦士ガンダム 正義のシャア

フラウ・ポウ

●No. サイド7難民としてホワイトベースに乗り組んだアムロ・レイのガールフレンド。シオンの襲撃により、両親や祖父を失い、ホワイトベースに保護される。セイラ・マスのあそびで、ホワイトベース・ブリッジで高橋オレーターを担当するようになる。戦後はバヤ・コバヤシと結婚、カン、レン、キッカの3人を手元に引きとり家族として暮らす。

First Appearance 機動戦士ガンダム 第1話

Other Appearance 機動戦士ガンダム

カツ・ハウイン

●No. サイド7難民の少年。サイド7襲撃により両親と別れてホワイトベースに収容される。レン、キッカとともにホワイトベースのマスクコットの存在である。

First Appearance 機動戦士ガンダム 第2話

Other Appearance 機動戦士ガンダム

レン・コ・ファン

●No. カツと同じくサイド7難民の少年。

First Appearance 機動戦士ガンダム 第2話

Other Appearance 機動戦士ガンダム

キッカ・キタモト

●No. カン、レンと同様、サイド7難民の少女。3人組いちばんのムードメーカー。

First Appearance 機動戦士ガンダム 第2話

Other Appearance 機動戦士ガンダム

ハロ

●Notes アムロ・レイが製作したマスクコットのボット。ホワイトベースではちびっこ3人組と密に行動をもにしている。

First Appearance 機動戦士ガンダム 第1話

Other Appearance 機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダムZ 機動戦士ガンダム

逆襲のシャア 機動戦士Vガンダム

コア・ファイター

●No. 連邦軍モビルスーツ開発計画において、もっとも中心的な役割を果たすコア・域となる試験機。これを中心にハロ4機で3機のモビルスーツを運用する。

First Appearance 機動戦士ガンダム 第1話

シャア・アスナブル

■Notes シオン軍のエースモビルスーツパイロット。その機能的なモビルスーツの機動から連邦のパイロットたちに「赤い彗星」と呼ばれて恐れられた。士官学校時代にザビ家の末子ガルマ・ザビと出逢い、そこで得た友誼をもとに軍組織内で急進に成り上がった。サイド7で偶然ガンダムと接触して以後、ホワイトベースを執拗に追う「顔の傷を隠すため」という名目で盲眼からマスクを着用するなど認めない行動の多い人物としても知られ、ガルマ・ザビ戦死に責任があったとして一時通牒処分が付されていたことなどから、じつはシオン・ズム・ダイクンの連兄であったとの説もある。キシリヤ・ザビの取りなしにより、士官として前線へと復帰したが、これは兄キレンとの政争を予期したキシリヤの布石とされ、ニュータイプ理論を一種の生物兵器のように捉える直女に「ニュータイプのひとり」として重用される。ガンダムとの対戦では重傷を被り、ア・バオア・クーの戦終りに行方不明となる。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム』第1話

Other Appearance: 『機動戦士Zガンダム』、『機動戦士ガンダム 逆襲のシャア』

ジオング

■Height 17.3m We ght 151.2t

■Notes シオンの試作型モビルスーツ。開発途中の機体だがシャアの使用モビルスーツとしてア・バオア・クーの攻防戦時に急遽実験投入された。フラナガン博士のニュータイプ理論に基づき開発された遠隔操作兵器「サイコミュ」を有線ながら搭載したニュータイプ専用の新モビルスーツで、機体各部がブロック化した形で開発されている（このために脚部が未完成の状態でも宇宙専用の機体としての戦闘が可能になった）。ビーム砲の内蔵された両手を独立して飛ばし、サイコミュ兵器として使用することが可能。また、腰部に5門、膝部に1門、メガ粒子砲を搭載し、両腕のサイコミュと併せ3点からのオールレンジ攻撃をおこなう。コクピットは腰部にあり、これも分離して、射出ボットの役目を果たす。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム』

第42話



ZEON'S ROYAL FAMILY

◎ザビ家とシャア



デギン

ギレン

キシリア

ドズル

デギン・ザビ

■**Notes** ジオン公国の「公主」 シオン・スラム・ダイクンとともにスベースコロニー居住者の地球連邦への経済的、政治的な離反を不顧とし、サイト3において地球からの独立運動を展開。初のコロニー国家シオン共和国の設立に尽力した。運動のイデオログであったシオン・ダイクンの死後は自ら「公主」を名乗り遺族の中枢に自らの血脈を集めて中央集権的なファナシム国家へと国の政体を築き、国名も「シオン公国」として、地球連邦に対して独立戦争を挑んだ。もっとも国家元首としての長男はこの国家の植民化までで戦争実行は長男のギレンに任せきりであったともいう。末子ガルマを溺愛し、その死後はますます情眼を欠き、独断で連邦との停戦交渉に臨み切ったところで惨殺されたとされている。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第10話

ギレン・ザビ

■**Notes** 独立戦争開始時にすでにデギン・ザビに「公主」として、国家の象徴としての立場に継ぐ。実際の政府の一端からは遠ざけられていたため、戦時に実際の国家運営を任されていたシオン公国の実質的な指導者。IQ240という記録に残されている天才であり、現在も残される戦時の高説フィルムや数々の著作での発言から天才的なイデオログとされるファナシム・シオンの中枢。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第11話

キシリア・ザビ

■**Notes** デギン・ザビの長女で戦争時に実質的に地球連邦作戦の指揮を任されていたシオン公国のトップのひとり。純粋な軍人というよりは軍政治家、政治家としての側面が強く、優れた外交手腕で、援軍の指揮と同時に地球占領地域での占領政策を展開し、地球連邦に伴う各コロニーとの外交的な折衝もおこなっていた。その指揮下には特務部隊機関なども含まれ、シオン公国のギレンに次ぐナンバー2の座を占める。謀略機略の長らしく、権勢欲が強く、陰謀を好むダーティなイメージの強い人物だが、一方でシオン・ダイクンの宇宙移民独立構想を発展させた「ニュータイプ理論」の研究機関を設立するなど開明的な面を併せ持つ。ア・バオア・クー戦で死亡したと言われる。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第11話

ドズル・ザビ

■**Notes** デギン・ザビの三男でギレンやキシリアといった国家経営に野心を持った継ぎタイプの上の兄弟たちに比べ、純粋な軍人肌質でシオン軍の現場の代弁者といった色合いの濃い人物。シオン宇宙軍を統括する立場だが、政治的な野心を持たず、暴走側面性格の彼はなによりも部下に慕われる存在だった。形式上はキシリアと軍の指揮権を分けあうが、キシリアの担当が諜情的な部分も含むこともあり、実質的な軍部のトップである。ソロモン戦で戦死。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第2話



テム・レイ

■ 声優：大友柳太朗
 テム・レイは、本作の主要人物之一。彼は、かつては「ガンダム」の敵として活躍していたが、現在は「ガンダム」の仲間として活躍している。彼は、かつては「ガンダム」の敵として活躍していたが、現在は「ガンダム」の仲間として活躍している。

チヘ

■ 声優：高橋理恵子
 チヘは、本作の主要人物之一。彼女は、かつては「ガンダム」の敵として活躍していたが、現在は「ガンダム」の仲間として活躍している。彼女は、かつては「ガンダム」の敵として活躍していたが、現在は「ガンダム」の仲間として活躍している。

チヘ



テム・レイ

トレン中

■ 声優：高橋理恵子
 トレン中は、本作の主要人物之一。彼は、かつては「ガンダム」の敵として活躍していたが、現在は「ガンダム」の仲間として活躍している。彼は、かつては「ガンダム」の敵として活躍していたが、現在は「ガンダム」の仲間として活躍している。

ザクレロ

■ 声優：高橋理恵子
 ザクレロは、本作の主要人物之一。彼は、かつては「ガンダム」の敵として活躍していたが、現在は「ガンダム」の仲間として活躍している。彼は、かつては「ガンダム」の敵として活躍していたが、現在は「ガンダム」の仲間として活躍している。

デモトリー

■ 声優：高橋理恵子
 デモトリーは、本作の主要人物之一。彼は、かつては「ガンダム」の敵として活躍していたが、現在は「ガンダム」の仲間として活躍している。彼は、かつては「ガンダム」の敵として活躍していたが、現在は「ガンダム」の仲間として活躍している。



ドレン



デモトリー

SOLOMON

◎ソロモン

ティアンム提督

■Notes ホワイトベースが配備された「ティアンム艦隊」の統括指揮官。ソロモン攻略の開始にあたり、それまでオトリとして機動作戦に従事させていたホワイトベースをソロモン攻撃の最前線へと送り出す。ソロモン戦時にはソーラ・システムの機関と製造を指揮する。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第35話

ゼナ・ザビ

■Notes ドズル・ザビの妻。ソーラ・システムと連邦のモビルスーツの登場でソロモン防衛が難しいことを悟った夫の命により、娘ミネバを連れソロモンより脱出。のちに彼女のこの行動が大きな意味をもってくるのだが。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第35話

パロム大佐

■Notes ソロモンの支援に送り出されたマ・クヘ艦隊の士官のひとり。原簿の上官に似ず、剛直な人柄でドズルの謀略の脱出を快く助ける。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第35話

パブリク

■Notes ビームを無効化するビーム拒乱服を装備した連邦の宇宙突撃隊。艦隊艦戦でのビーム兵器の運用を難しくするためソロモンに大量に投入された。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第36話

リック・ドム

■Height 18.6m Weight 43.8t

■Notes ほとんど地上戦用に設計されたモビルスーツ「ドム」を宇宙空間戦闘用に改修したもの。外観上の変化はないが、スラスターなどが大幅に追加され、地上型の目玉だったホバリング機構がオミットされている。武装も基本的にはドムと同様で内蔵武器として振動ビーム砲、手持ち武器としてビート剣、ジャイアントバスが用意されている。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第31話

ザンジバル

ジッコ

リック・ドム

パブリク

パロム

ゼナと
ミネバ

ティアンム



ビグ・ザム

ゲルググ

シャア専用ゲルググ

ゲルググ

■Height 19.0m weight 40.0t

■Notes ジオンのモビルスーツとしてはじめて両肩用武器にビーム兵器を搭載することへ成功した機体。専用のビームライフルとビームナギナタを標準装備する。機体自体の汎用性も非常に高く、事実上「連邦のモビルスーツへのジオンからの回送」でもいうべき位置付けにある機体だが、いかなる開発の完了が戦争末期であったため、さほど多くの機体が完成投入されてはならず、戦局を変えるまでの存在とはならなかった

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第37話

ザンジバル

■Notes ジオンの新型機動艦艇で、ジオンとしては初の自力での大気圏突入が可能な宇宙艦艇。大気圏内での運用も含めて構想されているため、ジオンの艦艇としては珍しく、オーソドックスな航空艦に近いデザインになっている。このため武装的にも収束式の主メガ粒子砲が1門、対空炎火用の低出力なメガ粒子砲が4門と若干良劣りがあるが、モビルスーツ2機を搭載するそのペイロードの巨大さでその固定武装の真価を秀でている。運用的にも艦艇運用というよりは単艦での過撃などが主目的であり、ジオンの宇宙艦艇としても異色の存在であるといえる

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第12話

ビグ・ザム

■Notes 宇宙空間での拠点防衛用に構想、開発された巨大なモビルアーマー。ビームによる攻撃を無効化するビーム偏向フィールド（「フィールド」を標準装備し、戦艦を一撃でなぎ払う大型ビーム砲を1門と対空炎火をおこなう機銃のビーム砲を機体の周囲にすらりと並べ、圧倒的な火力によって、敵に近づくことすら許さないといったコンセプトでつくられている）ところが、これはモビルスーツの出現によって否定された宇宙空間戦闘における大艦巨砲主義の再現でもいうべきものであり、ドズル中将の事でドムロン政略戦で出陣した際にも、やはりモビルスーツに機体にとりつかれ、そこから撃退される、という結果になっている。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第35話

ゲルググ（シャア専用）

■Notes ガンダムの対抗機体として生産されたゲルググの先行試作型。もともとシャアに与えられる予定で生産された機体であり、彼の希望を受けたデュングがなされている。先行試作であったため、性格的には量産されたゲルググとはかなり異なるのだが、外観的にはお馴染みの赤い塗装と、副隊長マークの「ツノ」の存在のみになる。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第35話

ジッコ

■Notes 連邦における「パブリック」にあたる、ジオンの突撃艇。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第36話

TEXAS COLONY

◎テキサス・コロニーほか

フラナガン博士

■Notes キシリアによって見いだされたニュータイプ能力を軍事目的に利用するための技術「サイココミュ」の研究者でフラナガン機関の所長。キシリアの命により、ブラウ・プロやエルメスなどに搭載されたサイココミュベース兵器の開発の他、ラアラ・スンやシャリア・フルなどの実験体入されたニュータイプたちのテストや「調整」もおこなっていた。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第37話

モスク・ハン博士

■Notes 連邦軍の技術開発部に所属する電磁工学博士。ニュータイプとして覚醒したアムロ・レイの反応速度やその限界を超えた機動によってハードウェア的な限界を画定しはじめたガンダムの機体に駆動系や閉鎖を電磁波でコートすることで機体のストレスをなくし、反応速度を速めるマグネットコーティングを施すことで、彼の要求に応えた。彼のこの技術はこの後の連邦のモビルスーツ開発技術にフィードバックしている。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第40話

シムス中尉

■Notes フラナガン機関の技術者。ブラウ・プロの機体調整のためにシャリア・フルに同乗。彼とともにガンダムとの戦闘で死亡した。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第39話

ボール

■Notes 連邦軍の重厚型モビルボット。コロニー建設用のスペースボットを参考にした機体。深刻な連邦のモビルスーツ不足を補うために大量のボールがつくられ、投入された。武装は無反応キャノン砲が1門。場合によってはこの武装も他のもに変更が可能である。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第35話

グワジン

■Notes 艦隊旗艦用のジオンの大型戦艦。通常の戦艦をはるかに上回る巨大な艦であり、ザビ家の専用艦的な位置付けで、一族の人間が最前線に参戦するのが常になる。その意味でこの艦はファシズム・ジオンの象徴としてつくられたものであり、ザビ家の権力を象徴するものだと書ってもよい。武装的には連装メガ粒子砲3門、2連ビーム砲10門、搭載モビルスーツは10機。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第1話





ブラウ・プロ

■Notes 「サイコミュ」を実用化した史上初のモビルアーマー。この機体におけるサイコミュは4機の有線コントロールのビーム砲であり、搭乗者はこれをマニュアルではなく、一種の「急流」によって同時に遠隔操作する。そうした離れた位置からの複数の砲による同時攻撃は一種の包囲攻撃のように受ける側には感じられ、その並外れた反応速度で撃ち出される砲撃は無類の正確さを誇る。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム』第33話

ギャン

■Height 19.9m, Weight 52.7t

■Notes ジオンの試作モビルスーツ。ゲルググと次期主力モビルスーツの座を競った機体であり、汎用機を目指したゲルググに比べ、より白兵戦に特化した思想でつくられている。手持ちシールドに空中機雷とミサイルを搭載し、ビームサーベルを携帯する。こうした武装からわかるように、トリッキーな戦い方を想定してつくられているために総合評価でゲルググに一步進んだ形になった。この試作機はのちにキシリアを通じてマ・クベに奪られた。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム』第37話

マ・クベ大佐

■Notes キシリア配下の士官。キシリアから地球最大の鉱物資源採掘基地の守衛を一任されていたが、オデッサでの戦敗以後予備に乗り、キシリアの側近をつとめていた。キシリア配下で次第に重用されていくシャアへの対抗心からデキサスコロニーでホワイトベースに対して待ち伏せし攻撃を仕掛けた。そこでシャアの助力を拒みガンダムと1対1で戦い、真敵であるモビルスーツ「ギャン」のcockピットをビームサーベルに貫かれ死亡した。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム』第16話

シャリア・ブル

■Notes 木曜精りの「ニュータイプ」と呼ばれる男。木星前線から帰還したところでギレン・ザビの命により、キシリア・ザビ殿下の秘書「フナガン機」へ一種のスパイとして潜入することを命じられる。そこで「ニュータイプ」としての訓練を受けた彼は同僚であるラファやシャアと共にしたのを感じつつもフナガン機は永遠の技術士官シムス中尉とともにブラウ・プロの実験テストに向かうが、そこでアムロ・レイの操るガンダムと道基、彼の乗組とのはっさりした共振を感じつつアムロの手で破壊する。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム』第30話

第 1 話「戦場までは何マイル？」

宇宙世紀0079年末。ジオンの特務部隊サイクロプス隊は連邦北極基地を襲撃。ニュータイプ用モビルスーツ（MS）RX-78NT-1アレックスの奪取を目指す。が、同一艦のところで連邦はアレックスをシャトルに乗せて発射、中立地帯であるサイド6（別名リニア）に搬入する。このころ連邦にMSがあることは機密事項。リニアに住む少年アルは、親友のチェイ、テルコット、ドロシーに連邦にもMSはあると語ってしまい、空港の運輸会社に潜入。偶然ビデオカメラにMSのコンテナを収める。そんなある日、ジオンのザク、ドムと連邦のジムが出現。突如としてリニアを戦火に巻き込む。アルは初めての戦争に興奮する。

第 2 話「茶色の瞳に映るもの」

アルは墜落したザクを森林公園の中で発見。そこでジオンのパイロット、バーニィと出会う。バーニィはアルの抱ったビデオにMSのものらしきコンテナが映っているのを見つけ、階級章と交換にそれ入手する。月のグラナダ基地に帰還したバーニィは、それをきっかけにシュタイナー隊長率いるサイクロプス隊に編入。ミーシャ、ガルシアとともにRX-78NT-1の奪取、破壊が目的の「ルビコン作戦」を命じられる。バーニィは民衆の貨物船に偽装した船にMSケンプファーを積載しコロニー外での戦闘に乗りてサイド8に潜入する。が、そのMSを精んだトレーラーはアルによって発見されてしまう。

第 3 話「虹の果てには？」

アルは警察の力を借り、トレーラーを追跡。バーニィたちの隠れ家を突き止める。シュタイナーはアルを仲間に加え入れた方が賢明と判断し、ビデオで撮影したコンテナがどこに運ばれたかを調べさせる。アルはジオン軍に入れたのだと有頂天に。が、そんなアルをバーニィは見張る役目を命じられていた。クリスはバーニィを泥棒と勘違いし、バットで殴り倒す。アルは隠匿に、バーニィを誰だの兄だと紹介する。バーニィとクリスは、互いの素性を知らぬまま、意気投合する。クリスがRX-78NT-1のテストを行っているころ、サイクロプス隊の秘密工場ではMSケンプファーが完成に近づいていた。アルはバーニィとともに連邦の秘密基地を探し、カメラに連邦のMS RX-78NT-1を収める。

第 4 話「河を渡って木立を抜けて」

ケンプファーは完成し、「ルビコン作戦」は着々と進行する。が、シュタイナーは自分たちは因で、RX-78NT-1を発見したあとは、核攻撃でサイド8をもろとも葬り去られる運命であることを知らされる。一方、アルは学校でチェイ、テルコットからジオンが敵と聞かされて、にわかに慣じられない。クリスのつてを頼ってMSの研究者であるディック博士を学校新聞の記者と称して取材。なんとかバーニィに協力しようとする。そんな中「ルビコン作戦」はついに始動。工場での銃撃戦のさなか、シュタイナーは銃弾を受けて絶命。ガルシアはアレックスの破壊に失敗して爆死。クリスはRX-78NT-1に乗り込み、ケンプファーを追え撃ち、激戦の末にこれを破壊。敗退に呆然とするバーニィ、アル。

STORY DIGI

第 5 話「嘘だと言ってよ、バーニィ」

「ルビコン作戦」は失敗した。グラナダ基地で作戦を指揮していたキリング中佐は、核でコロニーごとRX-78NT-1を抹殺しようと思込む。その作戦をチャーリーから聞いたバーニィは、サイド6からの脱出を決意。アルに作戦決行のクリスマスまで、母親とコロニーを出ろ、と伝える。が、バーニィを優秀なパイロットと信じて疑わないアルは、クリスマスまでにRX-78NT-1を倒せばよいのだ、と主張。バーニィは自分が新米のパイロットで一機の実験経験もなく、アルが裏切らないか見通していたことを告白し、アルの前から去る。アルはクリスの強りばっちになりたくないから戦いを避ぶ、との声に動まされ、警察にすべてのことを話そうとするが、警官は相手にしてくれない。一方、脱出するつもりで空港にきたバーニィは、戦死していった仲間や、クリス、アルのことを思い、脱出を取り止める。誓のためにも、もう一度、RX-78NT-1に挑戦する決意を固める。

第 6 話「ポケットの中の戦争」

RX-78NT-1に挑戦するため、アルとバーニィはザクの修理に取りかかる。武器を補充するために、アルが一芝居を打って、連邦軍のトレーナーからヒートホークとハンドグレンードを奪取。パーツ不足はジムの残骸から盗みだして補充する。しかし武器の不足は否めず、RX-78NT-1を森に誘い出し、不意打ちをかける作戦を立てる。バーニィは戦いを前に一枚のディスクをアルに託す。作戦が失敗したら絶対に見るように、と。アルは、バーニィとコロニー誓の命が助かるように祈る。作戦当日、アルは母とともに空港で父と再会し、ジオンの格を搭載した船が浮いたことを知る。バーニィはもう戦わなくていいのだ。アルはバーニィにそれを知らせようと駆け出す。しかし、出撃したバーニィのザクは、クリスの乗乗したRX-78NT-1に撃破され、バーニィは戦死。遺されたディスクにはルビコン作戦の証言と、戦う理由をアルに伝えるメッセージが入っていた。

機動戦士ガンダム第08MS小隊「ラスト・リゾート」

一年戦争終結とともに退役したミケルは、B.B.との恋に破れ、自棄になってキキとともにシローを探す旅に出る。ある河の上流、二人は打ち集ってジオンの宇宙艇を発見し、ドクターフランガンと烙印されたディスクを入手。が、そこで二人はジオン兵の持ち物を身に纏った少年たちに拉致され、子供だけが住む不思議な村で囚われの身となる。リーダー格の少年はシローと名乗り、アイナという女性を墓場に埋葬、その隣はシローの墓だと告げる。不審を抱いたミケルとキキは墓をあばこうとするが、そこへ子供たちが現われ、中にはシローとアイナの照しか埋められていないと説明する。じつは子供たちはドクターフランガンのニュータイプ研究機関で育てられ、家族も、名前すら知らなかったのだった。そんな彼らにシローは08小隊のメンバーの名前をつけ、生きる知恵を教え、北へ去って行ったのだという。ゲルググのビーム長刀でお風呂を濡かし、彼らと交流を深めるミケルとキキ。翌朝、子供たちは忽然と姿を消し、二人は夢のような出来事に呆然とするが、再びシロー探索の旅を続ける。そしてついに、幸せそうなシローと妊娠したアイナにめぐりあう。

ST #001~006
GUNDAM 0080
+ The Movie of The 08th MS TEAM

MOBILE SUIT GUNDAM 0080

War in The Pocket

◎機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争

ジオンと連邦のあいだで戦の火を一年戦争も未曾にさしかかる時期、中立を守るコロニー、サイド8では戦争も遠いものにしか感じられず、少年たちは悠に聞く「戦争」のカッコよさに憧れてきた。ジュニアスクールに通う少年アルはひょんなことから新型モビルスーツ開発にまつわる連邦とジオンの密約に巻き込まれ、「本物の戦争」に触れることになる……中立国を舞台に民間人の視点から描かれたこの戦争は、兵士たちの視点で描かれた戦いの物語とはまったく違った面を見せる。

アルフレッド・イズルハ

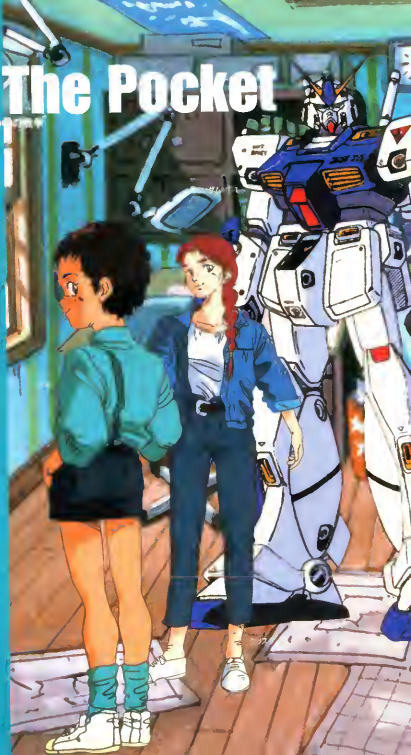
■Notes: サイド8 コロニー側のリポーター・コロニーに住む少年。愛称はアル。ジュニアスクールに通うごく普通の子だが、最近学校の折り合いが悪いことに悩むタイプな側面を持つ。父はコロニー産業社の仕事に従事し宇宙に出ていることが多い。普段から母親とのみならず、近しい環境だが、子供特有の感受性の強さで、この両者の間の空気の急変を敏感に感じ取っていた。それゆえに「戦争」という行進の悲劇的なヒロイズムに強い憧れを持っている。コロニー内でジオン軍の小規模合戦が起きたことからジオン軍の新型バイロット、バーニィと知り合い、このことをきっかけに連邦軍の新型モビルスーツ開発をめぐる密約の渦中にそれと知らず巻き込まれてしまう。彼の無邪気な戦争、兵隊への憧れはバーニィとの間に兄弟のような友情を育んでもいいが、彼の触れた現実の戦争はひどく残酷なものではなかった。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争』第1話

クリスチーナ・マッケンジー

■Notes: アルの祖母の妹。イズルハ家とはともとも東洋のくみで付き合いがあったらしく、実家にいた際には幼いアルをかわいがっていたよう。じつは現在連邦軍のテストパイロットであり、実務試験のためにリポーターとして選ばれたガンダムNT-1の試験乗員として生まれ故郷のコロニーへと帰ってきた。政治的にはリベラリストで、軍閥ではあっても前線に出た経験はないためジオンに対する個人的な憎悪もないが、ガンダムNT-1を扱うサイクロプス座の襲撃に対しては生まれ故郷の住人たちの安全のために出撃する。アルに紹介されたバーニィに対し、その正体を知らず偶然とした好意を抱くが、ガンダム襲撃のためにザクで最後の戦いを挑んだバーニィを最後までその真性を知らぬまま控えてしまう。愛称はクリス。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争』第1話





ガンダムNT-1 (アレックス)

■Height: 18m/Weight: 40.0t

■Notes: 戦争末期に前編で多大な戦果を上げつづけるエースパイロット、アムロ・レイのために独自に開発されていた「ニュータイプ用」モビルスーツ。リニアシートや全天周モニターなど戦後に開発されたモビルスーツで標準装備となす機体だが、従前にはマグネットコーディネーションが搭載され、パイロットの運動能力をダイレクトに機体へと伝えるためにコンピュータ制御による動作補正のほとんどがからないそのチューニングは、開発担当技術者たちから見ても「化け物くらいにしか扱えない代物」になっている。テスト用であるため、想定武器のビームサーベルとガトリング砲以外の手持ち武器はサイド8には搬入されていなかった。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム

0080 ポケットの中の戦争』第4話

バーナード・ワイズマン

■Notes: ジオン軍の新米ザクパイロット。愛称はバーニー。初出撃となったサイド8での戦闘でザクを撃たれ、不持帰した公費でアルと出会い、サイド8に運びこまれたガンダムNT-1の転送コンテナのビデオを手に入れたことから、特殊部隊サイクロプスに配属され、再びリボーコロニーへと向かうことになる。そこで邂逅くアルと再会してしまい、少年を利用しようとするシュタイナーの命で「子守」をするようになってムクれるが、飽くまで真面目に自分をヒーローとして信じる少年の目線に次第に懐かしいものを感じはじめる。そこで知りあったクリスに惹かれていくが、部隊に課されたRX-78NT-1軍政の任務は失敗し、部隊は壊滅を遂げ壊滅。そのために自軍がモビルスーツ破壊のためにコロニーを核攻撃しようとしていることを知り一瞬は逃げ出そうとする。しかし、少年の想いに答えるために、「自分がやるべきだと感じることを」成し遂げるために、ザクを修理し、彼は最後の戦いに決意することを選択する。その小さなヒロイズムを知っているのは結局は少年ひとりしかない。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム

0080 ポケットの中の戦争』第1話

ザクFZ

■Height: 17.5m/Weight: 56.2t

■Notes: 一年戦争末期に前編投入されたザクⅡの最終生産型。コクピットが後期生産型のものになり、ジェネレーター出力の強化、動力部の部品の新性能強化など、ドム、ゲルググなど戦争後期に生産されたモビルスーツ開発の際に与えられた技術が随所にフィードバックされている。ザクタイプのバリエーションとしては生産数が少ない割には種別形状の異なるバリエーションタイプが確認されるなど、研究者追及の機体である。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0080

ポケットの中の戦争』第1話

MOBILE SUIT GUNDAM 0080

War in The Pocket

●機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争

ハイゴック

■Height: 35.4m/Weight: 41.5t

■Notes: 「ゴック」タイプの地上での運動性を強化した水陸両用モビルスーツ。「ゴック」の水中での巡航速度と「ズゴック」並みの地上での運動性、格闘戦能力を両立するために宙のグリブス戦役で活躍することになるYMS(トランスフォーマブル・モビルスーツ)につながるような一機の変形機構の発想の萌芽が見られる。武装は基本的に「ゴック」と同じ内蔵式メガ粒子砲。ハンドミサイルの他、外づけでミサイルランチャーの装備が可能。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争』 第1話

ズゴックE

■Height: 18.4m/Weight: 69.5t

■Notes: 「ズゴック」タイプモビルスーツの強化型として開発されたモビルスーツ。一年戦争も最後期に開発されたため、地上でのジオンの支配域は狭まっており、自然と活躍する機会も少なかった。ジェネレーター出力が強化されており、運動性が向上し、このため腕部メガ粒子砲の出力も高くなっている。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争』 第1話

ミーシャ(ミハイル・カミンスキー)

■Notes: ジオンの特務部隊サイクロプスの隊員のひとり。酒好きで豪放磊落、兵衛らしい兵衛である。モビルスーツパイロットとして卓越した能力を持ち、その能力への信頼からサイド6に持ち込んだ試作モビルスーツ、ケンゾーのパイロットを任される。どちらかといえば任務自体の無意味さを感じ取っており、そのことを出陣前の「遊びはくものに」という乾杯の高聲で示す

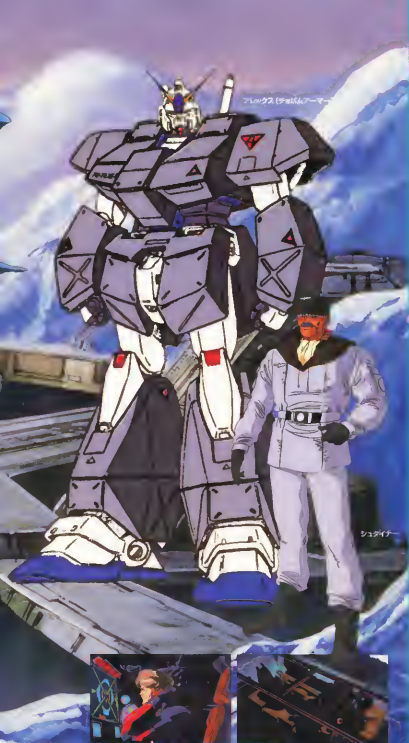
First Appearance: 『機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争』 第1話

ガルシア

■Notes: ジオンの特務部隊サイクロプスの隊員のひとり。常にナイフを持ち歩く凶悪な印象の強い男。しかし、生身での潜入任務がはじめてのバーニを気づかい、任務失敗を恐るすんで自分の身を犠牲にしようとする仲間思いの一面も持っている。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争』 第1話





アレックス (ショバムアーマー)

シュタイナー

シュタイナー

■Notes ジオンの特務部隊サイクロプスの隊長。厳格な善戦者の軍人であり、上層部からその性格を嫌まれ、危険な任務ばかり与えられる特務部隊の指揮官となる。連邦の「ニュータイプ用ガンダム」を巡って空軍基地襲撃、サイド6潜入と与えられた任務を遂行していくが、心の底ではジオンの敗戦、作戦自体の欺瞞的な性格を熟知しており、軍後の人間には若いバーニーに生かせることを示唆する。

First Appearance: 機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争 第1話

アンディ

■Notes 連邦軍北極基地襲撃に参加していたジオンの特務部隊サイクロプスの隊員。ガンダムNT-1のパーツを横んだシャトルの打ち上げを阻止するために、シャトルへの攻撃を強行して戦死。彼の死で生じた穴員への補充としてバーニーが厚めと送られることになった。

First Appearance: 機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争 第1話

ガンダムNT-1 (ショバムアーマー仕様)

■Height 18.0m Weight 95.0t

■Notes アレックスのテストに際し、並行してテストをおこなうためにサイド6へと送られるMS用増加装甲(パーツ)。実験機の機密保持用のカバリングを兼ねていたと思われるが、ケンパファーとの戦闘で実験機においてその創造性を証明したものの、外装へのダメージが大きすぎたためパイロットの判断で廃棄され、このプラザ自体の軍後の戦闘記録となった。もともと、のちにこの増加装甲プランのデータの一部は第一次オ・ジオン戦争でのモビルスーツ開発に活用されることになる。

First Appearance: 機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争 第3話

ケンパファー

■Height 17.7m Weight 43.5t

■Notes シオンの強襲用試作モビルスーツ。ドムの発展にある地上での高速ホバリング走行での強行偵察、攻撃を目的に開発された。バリエーション豊富な武装とその圧倒的な機動力での低空制圧を期待されていたが、試作段階ですでに戦術は最終段階に突入しており、サイクロプス隊がサイド6でのガンダムNT-1奪取作戦のために持ち込んだ試作機1機以外に生産された機体は確認されていない。武装は固定武装のバルカン、他、ショットガン、バズーカ、ハンドグレネードなどの多数の手持ち武装が用意されており、設計段階ではある程度汎用的な機体運用が考えられていたことがわかる。

First Appearance: 機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争 第3話

MOBILE SUIT GUNDAM 0080

War in The Pocket

○機動戦士ガンダム0080 ポケットの

ジム・コマンド (コロニー防衛配備型)

■Height: 18.0m/Weight: 43.5t

■Notes: ジムの後期生産型をモディファイした
での戦闘能力を強化した機体。おもに変えられて
いるのはカメラやセンサーの部分だが、排熱や姿
勢判断系も改良されている。いわば一種の「高級
ジム」であるのだが、なぜか前線にはあまり配属
されず、おもに連邦軍勢力下にあるコロニー群の
拠点防衛用に配備された。宇宙で急遽に押され
荒廃になってきたジオン軍が度々なる航空機迎撃に
おこなったためサイド6自治政府は地味部隊に群
の駐留を要請。そこで派遣されてきたのがこの機
体を中心とする部隊であり、最新モビルスーツを
満載した「スカーレット軍」だった。これは連邦が
秘密裏にサイド6に設置したモビルスーツ開発所
の防衛用、といった意味合いではなく、最新機
の能力を満載したエリート部隊を派兵することで確に
サイド6に連邦の勢力を押し出した外交行動を兼ね
ていたと推測される。しかし、その前にはジオン
特務部隊の奇襲にモビルスーツ部隊は全滅。むしろ
前線に導くことになったのは皮肉だった。

First Appearance: 「機動戦士ガンダム0080
ポケットの中の戦争」第1話

チェイ

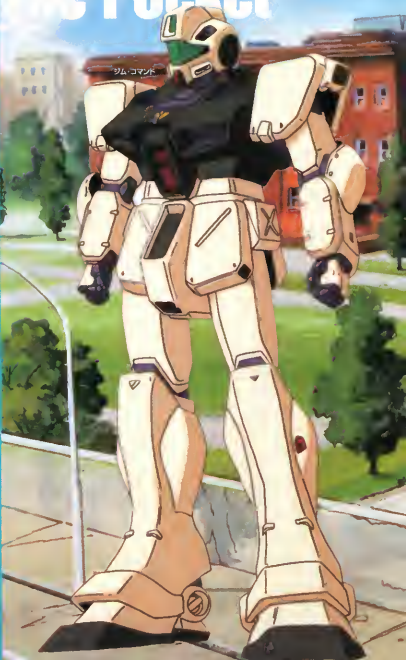
■Notes: ジュニアスクールのアルのクラスメ
イト、テルコットと3人で常にいっしょに行動
している友人。彼が「兄の連邦軍MSパイロット
のもの」だという断絶感をアルに見せたこと
から、アルが空港でRX-78NT-1のコンテナ
をカメラに収めることになり、事件の種がまか
れることになる。戦争の悲しさを実感できず、
「カッコいい」ものとして捉えており、コロニ
ー内で戦線も映画やTVの出来事のように思
っている。事件を通じたアルの成長をいぶかし
がるが、そのために彼を助けるために「また、
すぐ戦争が起きるぞ」などという。

First Appearance: 「機動戦士ガンダム0080
ポケットの中の戦争」第1話

テルコット

■Notes: アルのジュニアスクールのクラスメイト
のひとり、好き嫌いなくなんでも食べる大食漢
で、やたらと母親のいうことを引きあひ出す
優柔不断な面を持つ少年。チェイとアルと3人
で悪ガキ3人組を形成しており、彼も遠い世界
での夢物語として「戦争」に憧れ、この機体
を持っている。コロニー内で戦線が開始するよう
になってからは、チェイとふたり戦争の記念品
として高笑いや観戦を繰り返す。アルに自慢する。

First Appearance: 「機動戦士ガンダム0080
ポケットの中の戦争」第1話





ドロシー

■Notes: アルの同級生の少女。勝ち気で真面目なタイプで「戦争」で浮かれ騒ぐ男子生達を苦々しく思っている。別に真面目一方なわけではなく、つかみ合いのケンカもすれば、その前を逃れるために泣いて見せたりもする早熟な面を持つ少女で、アルにちょっかいを出すのも彼に好意を持つがゆえかもしれない。物語の最後では、少年たちがけっさよく理解できないでいるアルの変化（一種の大人への脱皮）をほんやりと感じているように見える。

■First Appearance: 『機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争』第1話

アルの担任教師

■Notes: ジュニアスクールでのアルのクラスでの担任を務める女教師。記録にはその姓名名などは残っておらず、その行動からもどちらかというと言土真義的で成績偏重の厳道のきつなタイプに見える。全校一斉テストでのアルの成績不振を一方的に叱りつけ、ここで与えられたプレッシャーがアルの現実逃避的な興味を後押しする形になった。

■First Appearance: 『機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争』第1話

アルの両親

■Notes: 運輸会社に勤める父とその留守をひとりで守る母、というアルの両親。記録にははっきりとは描かれていない理由によって、夫婦の中は冷えてきており、家庭は寧ろ寸前にある。アルが両親のマッペンジー家に「バーニィを（運送の兄）として紹介しても特に不審に思われなかったことからそれがわかる。夫婦の隠し出す不審和慮からの迫害のために逃げ込んだ「戦争」がその悲運な展開をあきらかにしたとき、逆に父母の和解がアルに告げられるのはじつに皮肉である。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争』第1話

クリスの両親

■Notes: イズルバ家の隣に住む夫婦。独立した娘クリスの久々の帰郷を喜び、その仕事の危険さを案ずる仲睦まじい中年カップル。娘のクリスと隣家の息子アル、そしてその「兄」のバーニィとの心の交済を微笑ましく思い、静かに見守っている。

■First Appearance: 『機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争』第2話



ジム・コマンド (宇宙戦配備型)

■Height: 18.0m/Weight: 44.6t

■Notes: ジムの後継生産型をモディファイし宇宙での戦闘能力を強化した機体。コロニー内の防衛を担当するタイプとの違いは基本的にカラーリングのみであるが、宇宙戦専用であるためメインの手持ち武器はコロニー用の実弾兵器(マシンガン)に対し、ビームガン装備になっている。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争』第2話

ジム・スナイパーⅡ

■Height: 18.0m/Weight: 45.0t

■Notes: ジムの統合性能を強化し、中距離圏での精密射撃をコンセプトに大戦末期に少数のみ生産された高級機。ミノフスキー電子散布下での高精度射撃を目指し、主にミニコターやセンサーなどに新技術が投入されているが、その成果には疑問が残る。ジェネレーター出力、機体の運動性能も強化されているため武装としては高出力のザールト・ビームライフルが標準装備されている。スカーレット隊に2機配備。

■First Appearance: 『機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争』第4話

ジム(寒冷地装備型)

■Height: 18.0m/Weight: 44.7t

■Notes: 「コマンド」や「スナイパー」と違い、これはジムの後継生産型を範疇でカスタマイズした「だけ」の機体。機体自体はただの「ジム」であり、北極基地配備のため、防寒用の装備を機体に内蔵し、ジェネレーター出力やアクチュエーターの運動性能低下を抑えるためのヒーターを内蔵している。このため、一部バックパックの装甲形状などが異なる。そのヒーターに出力をとられるために手持ちの武器も実弾兵器のマシンガンへと変更されている。

■First Appearance: 『機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争』第1話

ガンキャノン量産型

■Height: 17.5m/Weight: 51.0t

■Notes: コア・ブロック・システムを併し、特殊な砲撃支援型のモビルスーツとして再設計されたガンキャノンの最終量産型。砲撃時には砲台部分に設置された支持脚を展開するなど、試作型で指摘された砲撃時の機体の安定性の確保などの問題が改良されているが、随分的な位置付けにあるジムのキャノンタイプに比べ生産コストがかかりすぎるため、正式の量産には至らなかった。スカーレット隊に1機配備。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争』第4話

MOBILE SUIT GUNDAM 0080

War in The Pocket

○機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争



ガンキャノン量産型

ゲルググ



キリング中佐

リック・ドムⅡ

グレイファントム

■Notes: サイド8へ派遣された連邦軍新鋭モビルスーツ部隊「スカレット隊」の母艦である、ベガス強襲艦母艦。連邦の戦艦ではじめてモビルスーツの運用を積極的に考えてつくられた艦船だが、「アレックス」の実験設備を考へてのことかスカレット隊を構成するモビルスーツは支援用の機体ばかりであり、艦中ブアーによる動員にあっさり全滅してしまふ。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争』第4話

ゲルググ

■Height: 19.2m/Weight: 40.5t

■Notes: 宇宙空間での機動性を強化したゲルググのマイナーチェンジ版。その高機動な機動性と新設計された手持ち兵器大型ビーム・マシンガンの威力で熟練パイロット向けの高級機として戦争末期に少数が生産、実験記録された。サイド6でのガンダムNT・1奪取作戦にもこの機体が動員されているが確認されているが、これは作戦指揮をとっているのがモビルスーツ開発で主導的な役割を果たしたグラナダ基地であることが大きい。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争』第2話

リック・ドムⅡ

■Height: 18.6m/Weight: 45.6t

■Notes: リック・ドムの後継生産型。主な変更点はコックピットシステムなどのコントロール系。その他の点では基本的に前期型と同一の機体だが、両部などに数箇所姿勢制御用のスラスターが追加されている。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争』第2話

キリング中佐

■Notes: グラナダの駐在武官でガンダムNT・1奪取を目的とするルビコン作戦の指揮官。キシリア配下の情報機関から出向しているらしく、捨て駒としてサイクロプス隊を送り込む一方で、基地司令の意向を無視してリボーコロニーへの無攻撃を強行。基地司令に反対を受けるとこれを暗殺して基地の指揮権を掌握する、というひどく強引な行動をしている。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争』第2話

グラーフ・ツェッペリン

■Notes: リボーコロニーの無攻撃のために派遣されたグラナダ基地所属のジオン艦隊旗艦。チベ級の旧式艦だが、装備を高出力の新型メガ粒子砲に置き換えている。実際にはリボーへたどり着く前に連邦軍艦隊と遭遇し、交戦状態に陥り、そのまま降伏。コロニーへの無攻撃はおこなわれず、その計画の存在も表沙汰にはされなかった。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争』第5話

グレイファントム

グラーフ・ツェッペリン

第1話「ガンダム強奪」

ア・バオア・クー陥落後、ジオンの脅威は去ったかに見えた。が、同国両翼をもくろむエギーユ・デラーズは、デラーズ・フリートを結成。「星の屑」作戦を開始し、連邦軍のトリントン基地に潜入させたアナベル・ガトーに核を搭載したガンダム2号機を奪取させる。テストパイロットのコウ・ウラキは、暗戦の判断で1号機に搭乗、ガトーに立ち向かう。

第2話「終わりのなき追撃」

コウはソロモンの悪夢と恐れられたガトーの宇宙脱出を阻み、一矢を報いる。だが、ガンダム開発担当技術者ニナ・パープルトンの呼びも空しく、ガトーは2号機とともに何処かへと消える。この戦いで上官のアレンが戦死。新米少尉のコウは、初陣で戦慄をなめる。

第3話「出撃アルビオン」

ガンダム開発計画を指揮するコーウェン中将は、敵の核弾頭の使用阻止をシナプス議長に指示。バニング大尉の腹心の部下、モンシア、ペイト、アデルも加わり、アルビオンはガトーの追跡行に入る。だが、1号機のパイロットの座をめくってコウとモンシアが対立。二人は独断入りの懲罰を受ける。ガトーはアフリカのキンバライド基地に向かっていった。

第4話「熱砂の攻防戦」

アナハイム社の技術員を装っていたジオンのスパイ、オービルがコア・ファイターIIで逃亡。アルビオンはその飛行経路から基地の所在を察知する。しかし、キンバライド基地司令ノイエン・ビッターの必死の抵抗で、ガトーは2号機ともどもHLVで宇宙へと脱出する。

第5話「ガンダム、星の海へ」

アルビオンは2号機を追って宇宙へと船出。コウとニナの仲は急接近する。一方、ガトーの乗ったHLVは、デラーズと合流。核を入手したデラーズは連邦に宣戦布告し、連邦艦隊に攻撃を仕掛けてくる。コウは1号機を駆って出撃するが、重力下仕様のため、ジムより劣る性能に苦しむ。そこへゲルググを操るデラーズ・フリートの女僚シーマが襲ってくる。

第6話「フォン・ブラウンの戦士」

1号機を空間戦闘用のフルバーニアン仕様へと換装するため、アルビオンは月のフォン・ブラウンに入港。ニナは徹夜で修理に取り組むが、コウは己の未熟さを責め、街をさまよう。そこで出会ったジャンク屋を営む片腕の男、ケリィをジオンの元パイロットと知りつつ、彼の復讐にかける情熱に心ゆさぶられコウはモビルアーマー（MA）の修復を手伝う。

第7話「蒼く輝く炎で」

フルバーニアンのテストファイルを消化したコウは、ニナをデートに誘おうとする。が、口ごもった拳が向、ニナを怒らせてしまう。そんな中、恋人ラトラーの制止を振り切り、ケリィが修復されたMAヴァル・ヴァロを駆ってガンダムに勝負を挑んできた。断腸の思いでケリィと戦うコウ。コウは勝ち、ニナにずっと側にいてほしいと思いを伝える。

STORY DIGI

第8話「策謀の宙域」

コンバイトでの連邦の観艦式直前。艦隊のグリーン大將はなぜかシーマと接触を図っていた。アルビオンはデラースの襲来とばかりに、シーマの旗艦リリー・マルレーンを攻撃。戦闘後、バニング大尉は偶然、敵の作戦計画書入手し、デラースの恐るべき目的を知る。だが、シーマ機の攻撃で傷ついていた大尉の機体は突然、爆発。計画書とともに宙に散る。

第9話「ソロモンの悪夢」

観艦式を控えたソロモン宙域に2号機を駆ったガトーが突入してきた。それを阻止すべく、出撃するコウ。が、時すでに遅く、ガトーは一年戦争で散ったジオンの英霊たちへの万機を込め、連邦艦隊に核列弾を発射。連邦艦隊は一気に撃沈され、壊滅的打撃を受ける。

第10話「激突戦域」

連邦艦隊の残骸が散乱した宇宙で、コウとガトーは激突。死力をつくした戦いに、1号機、2号機はともに大破する。一方、移送中のコロニーに爆薬を仕掛けたシーマ艦隊は、ミラーを爆発。コロニーの重心を狂わせ、月に落とすのだ。シナプスは、コンバイトで襲撃はデラースの「星の屑」作戦の本質ではないことを直観。戦闘行動の続行を決定する。

第11話「ラビアンローズ」

アルビオンはガンダム3号機獲得のため、アナハイム社のラビアンローズに接舷する。が、ナカト少佐率いる警務部隊は3号機の受け渡しを拒否。焦るコウたちを尻目にシーマは月面のレーザ基地からビームを発射。コロニーを地球へと進路変更させる。3号機の開発責任者ルゼットは、ナカトの凶弾に倒れながらも同機をコウに託す。

第12話「強襲、阻止限界点」

地球へのコロニー落着を防ぐことができる阻止限界点は刻々と迫る。が、ここにきて連邦のジャミトフ大將は、地球軌道艦隊の出動を要請するゴープエンを排斥。シーマはデラースを監視し、突然の攻撃中止を宣言する。連邦と内通したシーマの裏切りは予定の行動だったのだ。唖然とするガトーに、デラースは死をもって「星の屑」作戦の続行を命令する。

第13話「駆け抜ける嵐」

ガトーの攻撃で、連邦のソーラ・システムIIは破綻。コロニーは地球への落下を続ける。コア・ファイターIIで飛び出したニナはガトーがコロニーの軌道修正を行うのを阻もうとする。二人がかつて恋人同士だと知り、呆然とするコウ。ガトーは最後、艦隊に待取し宙に命を散らしていく。ジオンの亡霊は去り、コウは北米基地に赴任、再びニナに迎えられる。

劇場版「機動戦士ガンダム0083 ジオンの残光」

一年戦争終結後、ジオン再興を目指すデラース・フリートは、核を搭載したガンダム2号機を奪取。地球へのコロニー落としを狙った「星の屑」作戦を発動。連邦のデストバイロット、コウはそれに1号機で立ち向かう。OVAと異なり、本編はニナの回想の形で語られる。

ST #001~013
GUNDAM 0083
● The Movie of The GUNDAM 0083

MOBILE SUIT GUNDAM 0083

STARDUST MEMORY

◎機動戦士ガンダム 0083 スターダスト・メモリー

一年戦争が終結してから3年あまりが過ぎ、社会も戦後の混乱から脱しはじめ、人々が戦争の記憶そのものを薄れさせはじめている時代。オーストラリア、トリントン基地に一部の軍艦が入港した。ベガス級強襲揚陸艦アルビオン。

新型モビルスーツのテストのために入港したこの艦艇から、新たな動乱の歴史が刻まれるとは、まだだれも予想していなかった。これはのちに「Zガンダム」で描かれるグリプス戦役と一年戦争争つてエピソードとして構想された物語である。

コウ・ウラキ

■Notes トリントン基地に配属された任官したのモビルスーツ・パイロット。「モビルスーツマニア」で、その趣味が高じて軍人になったようなひどく「戦後病」な職業軍人。新人の訓練を兼ねた形で、新型モビルスーツの実験評価試験のためのテストパイロットとしての赴任だった。だが、ジョーン専務「デラズ・フリー」による新型ガンダム試作2号機の強奪事件によって基地は混乱。襲撃時にガンダム試作1号機に搭乗したことからそのメインパイロットとなり、長い追撃戦を戦うことになる。彼はその戦いの中で、アナハイム・エレクトロニクスから派遣された技術者コナ・バーブルトンに惹かれていくのだが

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』第1話

ガンダム試作1号機 (ゼフィランサス)

■Height: 18.0m/Weight: 39.7t

■Notes 連邦の新型モビルスーツ開発計画でつくられた試作型ガンダム1号機。最初の「ガンダム」の基本設計を踏襲した機体で、コアブロックシステムの両極端、より柔軟な汎用性を目指したパーツ交換による宇宙、地上での機動性向上などがコンセプトになっている。そのため、最大の特徴はその総合性能のバランスのよさと優れた運動性である。ビームライフル、ビームサーベルなど「ガンダム」タイプの基本装備がされている。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』第1話

ガンダム試作1号機・デラズ・フリー

ガンダム試作1号機

コウ・ウラキ

ガンダム試作1号機 フルバーニアン

■Height 18.5m Weight 43.2t

■Notes ガンダム試作1号機の宇宙用装備形態。脚部、胸部、肩部パーツが宇宙機動用に換装され、コアブロックに姿勢制御用スラスターブロックが追加され、宇宙空間での高度な機動性を実現。

First Appearance: 機動戦士ガンダム0083
スターダスト・メモリー 第6話

ニナ・パーブルトン

■Notes 月の巨大企業、アナハイム・エレクトロニクスから新型モビルスーツ開発プロジェクトのために派遣されてきたモビルスーツ開発技術者。専門はソフトウェア開発のようだが、現場好きでメカニック系も一通りはこなす。出向先のトリントン基地で新型ガンダムの整備、開発、データ収集を担当していたが、試作2号機強襲事件の勃発でアルビオンに随行。ガンダム試作2号機をコウゴとともに追う。月でのアナハイムとの接触時にはアルビオンを指示されるが、この社会を批判、アルビオンと最後まで行動をともにする。過激な追撃行の中で素直でまっすぐなコウゴの気持ちに好意を抱くが、かつて月で恋人であったアナベル・ガトーが敵であることを知り、心を激しく揺るがせる。

First Appearance: 機動戦士ガンダム0083
スターダスト・メモリー 第1話

ガンダム試作3号機 (デンドロビウム)

■Notes 連邦初のモビルアーマーとして開発されていたガンダム試作3号機。宇宙空間での拠点防衛用につくられた機体であるため、地球でのテストは不要とされ、ドック底「ラビアンローズ」に留置されていた。この形態での運用では機密な情報が必要条件となる。

First Appearance: 機動戦士ガンダム0083
スターダスト・メモリー 第11話

ガンダム試作3号機 (ステイメン)

■Height 18.1m Weight 4.0t

■Notes 「デントロビウム」のコアとなるモビルスーツで、独立しての運用時には「ステイメン」と呼称される。「モビルアーマーのコア」としてモビルスーツを使う」というこの発想はコアブロックシステムを思わせるものであり、連邦軍のモビルスーツ運用システムの基本思想が変わっていないことが理解できて興味深い。「ステイメン」自体も宇宙空間での戦術を主眼にした機体として開発されており、フルバーニアンと同様の宇宙空間での機動性の実現がそのコンセプトになっている。単体での武装として用いられたのはビームライフル、フォールディングバズーカなどで固定武装として、ヒームサーベルがつくのも「ガンダム」を基盤している。

First Appearance: 機動戦士ガンダム0083
スターダスト・メモリー 第11話

ガンダム試作1号機
フルバーニアン

ガンダム試作3号機(ステイメン)

MOBILE SUIT GUNDAM 0083

STARDUST MEMORY

機動戦士ガンダム 0083 スターダスト・メモリー

ノイエ・ジール

アナベル・ガトー

■Notes かつて「ソロモンの悲劇」と呼ばれる名を馳せたジオン公国のエースパイロット。ソロモンの戦役を生き延び、ア・バオア・クーで連邦艦隊へ特攻をかけたところをデラースの戦術で命を拾い、以後「ジオン再興」のためにデラースに忠誠を尽くす。ア・バオア・クーでの敗戦以降は一時月に身を隠していたが、3年後にジオンの残存勢力を再集結させたデラースの召喚を受け、デラース・フリートに合流。デラースの指揮する「星の嵐」作戦のためにトリントン基地を襲撃し、ガンダムを奪取した。古風な武人気質を持つため利己的なシマを纏うが、その一方誠実な性格も持ち、それが月でのニナとの生活につながった。最終的には自分の「武人としての誇り」を全うするため連邦艦隊に特攻して果てる。

First Appearance: 機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー 第1話

ノイエ・ジール

■Notes アクシズ艦隊がデラースへの手土産として持ってきた巨大モビルアーマー。のちのシャアの反乱で使われたアルバ・アジールとはサイコミュ搭載を除き、同様のコンセプトで設計されたと思われる。コンセプトとしては宇宙空間での強襲が目的であると思われ、戦艦並みの出力のメガ粒子砲の大火力と強襲用のクローアームの組み合わせは、ビーム兵器を無効化する「フィールド」、高い加速力と相まって宇宙空間での艦隊戦を演習するのに充分な戦力を実現した。クローアームにもビーム砲が搭載されており背面コントロールを兼ねることもあり、フルレンジでのビームの撃ち合いが可能だが、その反面最もフィールド搭載の場合、攻め手に欠く部分はある。

First Appearance: 機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー 第11話

ムサイ級巡洋艦後期生産型

■Notes ジオン公国の主力戦艦の後期生産型。デラース・フリートでも主力となっている。トリントンでの試作2号艦奪取のためこのうちの1艦（バール・グント）が地球圏へと派遣され、ガトーはコムサイで地上へと降りた。当初はこのコムサイを再利用し軌道上に打ち上げることによってデラース・フリートへ帰還する予定であったが、これを破壊されたためガトーはアフリカへと転戦。

First Appearance: 機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー 第1話



エギーユ・デラース

ムサイ級

アナベル・ガトー



グワデン

ガンダム試作2号機

エギーユ・デラーズ

■Notes キレンの崩壊の部下として一年戦争を戦ったジオンの勇将。キレン・ザビに心酔し、その遺志を継ぐために「デラーズ・フリード」を結成する。キレン・ザビの意思を継承することから、彼のグループはスペースノイドの主権獲得というジオン・ダイクンの思想をベースにするアクシズに結集するもうひとつのジオン独立軍団と、思想的に多少色合いを異にするのだが、基本的には交流は保っていたようで、このもうひとつのジオンの存在が彼の捨て身の「星の真」作戦実行への原動力となっている。武人風の厳格な理想主義者でシーマの利己的なエゴイズムをも教化できると信じたが、逆にそのために命を落とす結果となる。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』第1話

ガンダム試作2号機 (サイサリス)

■Height 18.5m/Weight 54.5t

■Notes 連邦軍のガンダム開発計画でつくられたガンダムタイプ試作2号機。これは1号機とは異なり、「ガンダム」と呼ばれているものの、先行するガンダムタイプのモビルスーツの設計コンセプトを引き継いだものではなく、一年戦争後爆出したジオンのモビルスーツ開発技術投入したつくられた局地戦目的の重モビルスーツであり、戦後体制の中で宇宙民（スペースノイド）の再決起を恐れる地球連邦が抑圧力としての「板」の戦術的利用を再開するために試作した非常に特殊なモビルスーツである。この目的のために機体は運動性などはもとより耐熱、耐放射線防衛の充実が求められ、武装も「振動弾」バズーカ以外には基本的にビームサーベルのみというシンプルな設計になっている。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』第1話

グワデン

■Notes *かつてのジオン公国軍の高級士官専用艦だった「グワジン」タイプの軽艦で、デラーズ・フリード旗艦、ア・バオア・クー以来のデラーズの軍艦であり、「星の真」作戦実行にあたってデラーズはこの艦のブリッジから指揮をとった。作戦中に起こったシーマの裏切りによって艦自体が彼の私兵に占拠されるが、これに怒ったガトーのノイエ・シールによりブリッジを崩壊されそのまま艦自体が沈む。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』第1話

MOBILE SUIT GUNDAM 0083

STARDUST MEMORY

◎機動戦士ガンダム 0083 スターダスト・メモリー

チャック・キース

■Notes コウとともにトリントン基地に赴いた米米モビルスーツ・パイロット。同期のよしみで常にコウと行動をともにしており、彼が「ガンダムを見にいこう」とコウを誘ったことが物語のキッカケのひとつとなる。女好きのC調な性格の男で、アルビオン入港後はしばらくは二ナにつきまといていたが、なにをどうしたのか、月へ入港後は整備クルーのモーラとステディな仲になっていた。常にモンシアたち3人組やバニングに敬慕されているが、運の良さは並外れているらしく、なぜか死なない。

First Appearance: 機動戦士ガンダム0083
スターダスト・メモリー 第1話

パワード・ジム

■Height: 18.0m Weight: 46.6t

■Notes ジムに新型のバックパックを搭載し、機動性強化を図った実験機。トリントン基地ではアナハイム・エレクトロニクスと共同でこのような既存の機体の強化用試作パーツの開発テスト、データ収集もおこなっており、事件が起るまでは連邦のモビルスーツ実験基地としての機能が期待されていたと思われる。

First Appearance: 機動戦士ガンダム0083
スターダスト・メモリー 第1話

サウス・バニング

■Notes コウたちの機嫌の上賓であり、トリントン基地のテストパイロットたちのまとめ役。一年戦争で活躍したベテランのMS乗りであり、トリントンが壊滅し、アルビオンに2号機海軍命令が出されたあとはそのモビルスーツ隊の隊長に就任した。当初ガンダム1号機のパイロットと考えられていた人物だが、ガトー隊襲撃時のコウの1号機への適性を見て彼をそのパイロットに抜擢。優秀なパイロットとしてのみではなく、アークの強いパイロットたちを掌握してよくシナプス監察を補佐したが、「星の解」作戦の秘密をつかんだところで戦死。

First Appearance: 機動戦士ガンダム0083
スターダスト・メモリー 第1話

キース

パワード



チャップ・アデル

■Notes: トリントン機滅後にアルビオンへの補充パイロットとして派遣された3人組のひとつ。もとバニングの部下で慎重で生真面目な性格しており、コウたち新人への指導や反感もあまり見せない。しかし、積極的に彼らに味方するわけでもないところを見ると、単に面懐が優しいのだろう。乗機はジム・キャンノンⅡ。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』第3話

ペルナルド・モンシア

■Notes: アデルと同じくアルビオンへの補充要員。腕に覚えのある古参パイロットでガンダム1号機のパイロットの素を習っているため、事あることにコウにからむ。二ナに一喝し、彼女を付け狙すが、こちらまもったく相手にされず、なんとなくくっついたふたりの姿が赤計コウへの風当たりを強くした。意外としつこい性格のようで延々とネチネチやっていたが、最終的にはコウのパイロットとしての適性を認めていたようだ。乗機はジム・カスタム。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』第3話

アルファ・A・バート

■Notes: アデル、モンシアとともにやってきたモビルスーツ・パイロット。モンシアとはケンカ友達のような仲で、新米たちと彼の対立をおもったりもするが、モンシアとの「隙け」でコウに懸けるなど比較的早くからパイロットとしてのコウは認めていたようだ。モビルスーツ小隊指揮官としては落ち目だが有能な人物で、チャックやコウの不成熟部分を附けて補佐する。

乗機はジム・カスタム。
First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』第3話



ジム・カスタム

■Height: 18.0m, Weight: 42.0t

■Notes: ガンダムタイプで削られた技術者をジムにフィードバックさせることでつくられた熟練パイロット用の高機動機。高いレベルでバランスのとれた扱いやすい機体である。そのぶん性格的に突出した部分はなくコウに「特長がないのが特徴」といわれる。武装的には専用ライフルが生産された他は基本的にジムと同様。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』第3話

ジム・キャンノンⅡ

■Height: 18.0m, Weight: 47.1t

■Notes: ガンキャンノン機をベースに開発された中距離支援型のモビルスーツ。ガンダムN.T.1で試験的に採用されたチャップ・アーマーに近い構造の装甲を採用することで、先行する機体の運動性の劣悪さを解消している。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』第4話

エイバー・シナプス

■Notes アルビオン艦長、連邦軍上層部に「敵造がきかない」といわれる生真面目な人物で、軍の腐敗を感じとり、心中で密かに嘆いている。トリントンに2体のガンダムを運び入れ、そのまま強奪事件に遭遇したことから、結果的にガンダム2号機と「星の鋼」作戦をひたすら追い続けることになった。直接の上層であるコーウェン中将与ともにテラーズの「星の鋼」阻止のための熱戦に戦うが、ジオン残党以上に連邦軍上層部の陰謀によってその行く手をばまれてしまい、けっさくよく彼らの努力に対して返されたのは非常に報われない結果でしかなかった。

First Appearance: 機動戦士ガンダム0083
スターダスト・メモリー 第1話

アルビオン

■Notes 新開発モビルスーツの母艦として用いられたペガサス級7番艦。集光セイルによるレーザー推進など、それまでのペガサス級に比べ宇宙空間での使用を考えた装置が追加されている。これはおそらく連邦軍が戦後も「戦乱の温床」として「宇宙」をとらえていたためだろうが、その危機感でこの艦が「宇宙民の反乱」を追うことになったのは皮肉である。さらに皮肉なのはこの「隠蔽された動向」以後、もっとも真摯に動乱を追いかけ続けたこの艦が、軍上層部の謀略の結果生まれた「ティターンズ」に没収されたことである。

First Appearance: 機動戦士ガンダム0083
スターダスト・メモリー 第1話

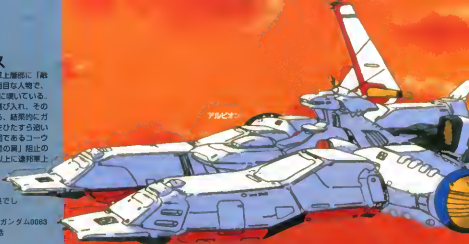
ウィリアム・モーリス

■Notes アルビオンのブリッジ・クルーのひとり。常に沈着冷静にシナプス艦長を補佐する。アルビオンにおいては副官的な役割の人物が、First Appearance: 機動戦士ガンダム0083
スターダスト・メモリー 第1話

ピーター・スコット

■Notes アルビオンのブリッジ・クルー。士官学校出たての「戦後世代」のひとり。担当はおもに索敵などのオペレーション。同僚のジャクリーヌにからかわれている。

First Appearance: 機動戦士ガンダム0083
スターダスト・メモリー 第1話



MOBILE SUIT GUNDAM 0083

STARDUST MEMORY

機動戦士ガンダム 0083 スターダスト・メモリー



アム・バリア

イワン・バサロフ

■Notes アルビオンの軌道士官。艦の操舵をおもに担当する役割。デラース・フリートの移動コロニー艦長の船をシナプスのものにもたらし、「星の洞」作戦の全貌を解き明かすキッカケをつくった。

First Appearance: 機動戦士ガンダム0083
スターダスト・メモリー 第1話

ジャクリーヌ・シモン

■Notes 「スーパーモデル並みの顔体を持つアルビオンのオペレーター。あまり単人らしくない人物で、余計なことをいっては艦長から叱責されている。あまりパイロットたちとの直接的な交流はないが、宇宙に出すばかりで交戦しているコウの身体を気づかう。

First Appearance: 機動戦士ガンダム0083
スターダスト・メモリー 第1話

アクラム・ハリダ

■Notes アルビオンのブリッジ・クルーのひとり。担当は軌道ナビゲート。

First Appearance: 機動戦士ガンダム0083
スターダスト・メモリー 第1話

モーラ・バシット

■Notes: アルビオンのメカニックのチーフ。女たてらにその目体でメカニックチームを仕切る女性。仕事柄エンジニアの影に惹かれ合ひ、友人となる。ガトーの訃に苦悩するニナの喪家にいち早く気付き、コウに彼女を気づかうよう頼むが、けっさくニナは暴走。最後は悲劇を生んでしまう。

First Appearance: 機動戦士ガンダム0083
スターダスト・メモリー 第1話

コア・ファイターⅡ

■Notes: ガンダム1号機に両舷採用されたコア・ブロック・システムで中核を担う可変戦闘機。試作1号機自体が正式採用されなかったため、この機体も予備を含めほんの数機が生産されたのみである。

First Appearance: 機動戦士ガンダム0083
スターダスト・メモリー 第1話

コア・ファイターⅡ-Fb

■Notes: 1号機の宇宙用装備に合わせてコア・ファイターも大気圏内装備から宇宙用装備へ換装され、飛行翼がはずれスラスターボットが取り付けられた。この機体はオプションパーツによる汎用性の実現という本機コンセプトを象徴するものだろう。

First Appearance: 機動戦士ガンダム0083
スターダスト・メモリー 第6話

コア・ファイターⅡ-Fb

コア・ファイターⅡ

ヴィリィ・グラドール

■Notes ガンダム試作2号機を奪取し、宇宙へと脱出を果たしたガトーを回収したムサイの艦隊。ガトーと2号機をデラース・フリートへと送り届ける途中、シーマの艦隊と接触し、彼らから予言「歓迎」を受ける。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』 第5話

マーネリ准将

■Notes 連邦軍トリントン基地の基地司令。横領の封印を解き「出来れば2度と使われなければよいが」と海するが、ガトー率いる2号機奪取を目的とするジオン残党隊の急襲により戦死。この攻撃でトリントン基地の連邦軍部隊は実質的に壊滅している。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』 第1話

ディック・アレン

■Notes トリントン基地に配備されていたテストパイロットのひとり。コウ、キースと同じ小隊に所属するベケランで「ガンダムのパイロット」についてバニング相手に雑口を叩くが、その晩に基地がジオン残党に急襲。初出撃のキースを叱咤しながらガトーに奪われた2号機を追撃するが、このときの戦傷で戦死。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』 第1話

ザクⅡF2型

■Height: 18.0m/Weight: 42.0t

■Notes: ジオンの名作モビルスーツ、「ザク」の後期生産型。ジオンのモビルスーツ生産設備を吸収した連邦政府は、戦後ここで捕獲したモビルスーツをトリントン基地のような設備に送り、性能テストのために使用していた。ザク自体はこの時期にはもう完全に旧式のモビルスーツとなっており、その運動性の鈍さにコウやキースは熱感をもちます。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』 第1話

MOBILE SUIT GUNDAM 0083

STARDUST MEMORY

◎機動戦士ガンダム 0083 スターダスト・メモリー

ヴィリィ・グラドール

ディック・アレン

マーネリ



ザメル



ドム



ドム

ドム・トローパー

■Height 18.5m Weight 44.8t

■Notes ドムの砂漠戦仕様を発展させた地上戦での運動性、加速性を高めたカスタムタイプの「ドム」。ホバーシステムが強化されたことで運動性が格段に強化され、フィルターが外部に突出した形状になったことで整備性が向上している。武装は基本的に「ドム」と同様のバズーカ、ヒートホーク、シュツルム、ファウストなど。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』第1話

ドライゼ艦長

■Notes 轉送用に用意されたコムサイを破壊されたガトーがアフリカのキンバリー基地へ逃窜するために彼を回収した潜水艦ユーコンの艦長。トリントン基地襲撃に参加した部隊の輸送も彼が担当した。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』第1話

ノイエン・ビッター

■Notes アフリカでジオンの残存兵力をまとめキンバリー基地を守り続けたジオンの少将。自らの存在意義を問いつつ隠れていた3年間に意味を持たせてくれた、とガトーに感謝し、彼を手配するために動いてアルビオンに叛意をかける。復讐のために生きた彼は、残された部下に対しては降伏するように言い残す。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』第4話

ニック・オービル

■Notes デラース・フリートがアナハイム経由でアルビオンに送り込んでいたスパイ。真向きはアナハイム・エレクトロニクス技術者として行動し、トリントンに潜入するガトーを手引き、基地壊滅後もミナとともにアルビオンに誘われるが、パニングにその正体を暴露されて予備のコアファイターで艦を脱出。彼の行動から基地の所在を知られることを恐れたビッターの指示で仲間の手で撃墜される。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』第1話

ラバン・カークス

■Note トリントン基地のテスト、パイロットのひとり、パニング、アレンに続くナンバー3だったが、ガトーの襲撃で戦死。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』第1話

ザメル

■Height 27.0m Weight 75.0t

■Notes 長距離砲撃用につくられたジオンの巨大モビルスーツ、一種の歩兵戦台。機能的には完全に僚機に対する遠距離射撃を行なうためのもので、近距離には適さない。武装もカノン砲やミサイルなど遠距離戦武器がメイン。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』



ラバン・カークス

ザメル

MOBILE SUIT GUNDAM 0083

STARDUST MEMORY

◎機動戦士ガンダム 0083 スターダスト・メモリー

ヴァル・ヴァロ

■Notes シオンが一年戦争末期に開発した宇宙用の高機動モビルアーマー。コンセプトとしてはおそらく「宇宙用のグラブプロ」とでもいうべきもので、これにアッザムに試験的に取り入れられていた電撃兵器が「プラスマ・リーダー」として付加されている。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』第6話



ヴァル・ヴァロ



ヴァル・ヴァロ

ラビアンローズ

■Notes アナハイム・エレクトロニクスが所有する宇宙戦艦の修復、整備をおこなうためのドック艦。連邦とアナハイムの提携関係により形式上は軍に貸与されており、連邦軍部隊が艦内に駐留している。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』第11話

ルセット・オデビー

■Notes アナハイム・エレクトロニクスの開発設計技術者で、ガンダム試作3号機の開発責任者。「星の異」作戦の危機にガンダム3号機が必要だと、早くコウラの気持ちに同調し、アルビオンのクルーに協力したためナカト少佐の手で射殺される。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』第11話

ケリィ・レズナー

■Notes かつてソロモンでともに戦ったガトーの戦友。戦争で片腕をなくし、いまは月面都市フォン・ブラフンの地下層でジャック屋を営む。同様している女性があり、彼女を捨て靴いをとった彼の決断が、のちにあきらかになるニナとガトーの姿に重なる。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』第6話

ドラッグジェ

ゲルググM

■Height 19.2m/Weight 45.1t

■Notes これといって一年戦争時のものと異なる訳ではないが、戦後の技術を利用して武装やジェネレーター出力の面でパワーアップが図られている。シーマの部隊では実体弾型のマシンガンや武器として使用していた。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』第5話



ゲルググ



ドラッツェ

■Height: 29.8m, Weight: 23.9t

■Notes: デラース・フリートがザクのパーツを流用して作り上げた宇宙戦用のモビルスーツ。基本約には数合わせでつくられた駄当生産品だが、あえていうなら突撃型の機体だといえるだろう。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』第5話

アナハイム・エレクトロニクス

■Notes: 『月面のフォン・ブラウン市に本拠を構えるモビルスーツ・メーカー。戦後ジオンの技術を大量に吸収して巨大化し連邦の軍事技術開発のほとんどを担当するようになった。そのいっぽうで、旧ジオン勢力や連邦内部の異分子とも通じているといわれ、「動乱を輩で降る死の商人」との声も聞かれる。デラース・フリートの反乱に際しても、デラース側へも武器供与をおこなっていたのでは、といわれている。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』第5話

カリウス



ナカト少佐



ハスラー少将

カリウス軍曹

■Notes: かつてのガトーの部下でデラース・フリート自決後もガトーの補佐役として行動をとる。ガトーにとってはその心腹を認める数少ない人達であるらしく、彼に対しては珍しく前向きなセリフを漏らしている。ガトーの跡目で最後の戦いから二子を連れて脱出した。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』第8話

ナカト少佐

■Notes: ラビアンローズの連邦軍駐留士官のトップで、上層部の意向を受けアルビオンから要請されたガンダム試作3号機の引き渡しを拒否した。強行しようとするコックとルセッを命令違反として銃殺しようとするが、逆にアルビオンのクルーに艦を制圧される。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』第11話

ハスラー少将

■Notes: アクシズから「星の例」作戦の見届け人として派遣された将校。デラースの意を受け、生き残った将校の回収にあたる。「手土産」としてガトーにノイエ・ジールを与え、その遺志にしたがい、二ナに自分の涙を渡させる。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』第10話

MOBILE SUIT CUNDAM 0083

STARDUST MEMORY

機動戦士ガンダム 0083 スターダスト・メモリー

ジム改

■Height: 18 cm, weight: 42.

■Notes: 一年戦争時に活躍した連邦軍の量産型モビルスーツ「ジム」のマイナーチェンジ・バージョン。実質的には後期生産型。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』第1話



パケナム

リリー・マルレーン

バスク・オム

■Notes: のちのティターンズの戦艦指揮官。西暦の上昇、ジャミトフ・ハイマンとともに連邦軍内部の腐敗の暴露として積極的に事件を拡大しようとする。シーマによる暴切りを演出し、彼らとの共闘を支持。コロニーの地球落下を阻止するためにソーラー・システムⅡの崩壊を指揮するが、けっきょくこれは防げずに終わる。すべての事件が終わったとき、事件の真相を隠蔽し、ジャミトフと敵は自分たちの権力の象徴としてティターンズを結成した。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』第5話

ワイアット大将

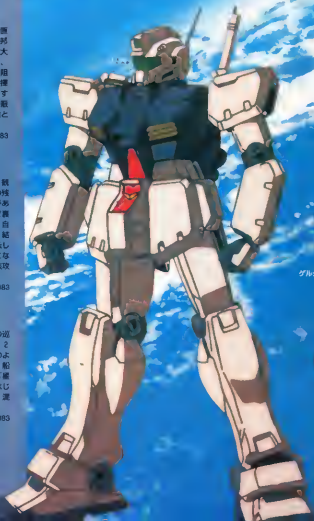
■Notes: 連邦軍の艦隊を率いた大イベント、旗艦式の指揮をおこなう連邦軍司令官。ジオンの残党の戦力を削り、デラースによる宣戦布告がある中、旗艦式の実施を強行。そのいっぽうで暴切りを求めるシーマとの接触をはかるなど、自分の権力に惹かれた無定見な人物。このため、結果的に連邦軍内部の「宇宙民の脅威」を宣伝しようとする一部の閣議に買収されたかたちになり、旗艦式の最中にガンダム試作2号機の植込撃を受けて死亡した。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』第5話

リリー・マルレーン

■Notes: シーマの軍艦であるザンジバル級の出陣艦。本来の彼女の艦隊はこれを旗艦とし、2隻のムサイで構成される。ほば、宇宙海賊のような生活を送ってきた彼女の艦隊だけあり、船内は悪趣味なまでに飾りたてられている。「星の異」作戦の結果として、コロニー落下がほじまった際にこの艦隊は連邦へと帰還したが、混乱する戦局の中で撃沈されている。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』第5話



グランドガンダム艦隊

ゲルググM指揮官用

■Height: 19.2m Weight: 45.1t

■Notes: シーマの最初の乗機であり、通常型のゲルググとはカラーリングが異なる他、ビームマシンガンを手持ち武器として持つ。これらの装備は彼女の艦隊がそれまでいかに「生き延びてきたか」を物語るものであり、正式装備との違いは、山城や海城が手持ちの武器を使いやすいようにつくりにかえるのに似ている。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083
スターダスト・メモリー』第5話

シーマ・ガラハウ

■Notes: 「星の嵐」作戦実行のためにデラースが艦隊指揮官として召集したジオンの元佐官。一年戦争時にはその卓越した艦隊指揮能力とモデルスーツパイロットとしての技量で知られていたが、戦後は無類の徒となり生かす道を選んでおり、民間船を襲うなどの海賊行為で生き延びてきた。そうした姿の如くした生々張りにガトーからは毛嫌いされているが、移動隊の指揮官がどうしても必要だったデラースは彼女をあえて登用し、結果的にこの決断が裏目に出て、シーマの連環への罠返りを許すことになる。もっとも、戦争が終わって3年も経つ中でいまだに理想を燃える連環のほうがかどうかといえば浮世はなれた存在であり、飽くまでエゴイスティックに自分のために戦うシーマのほうが『戦場の傀儡戦』を代表しているのだともいえるだろう。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083
スターダスト・メモリー』第5話

デトローフ・コッセル

■Notes: リリー・マルレーン艦長をつとめるシーマの有能な副官。移動コロニー艦隊を指揮し、軌道変更を成功させた功労者のひとり。彼女のグワデン突入に同行し、ブリッジの占拠に役立ち、この行動によって実戦責任を負ったリリー・マルレーンは艦隊での行動を断り、華沈されてしまった。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083
スターダスト・メモリー』第5話

ガーベラ・テトラ

■Height: 8.0m Weight: 46.7t

■Notes: シーマの最後の乗機であるウソメイクのモデルスーツ。カムフラージュのため外装がジオン風に改裝され、カメラシステムもモノアイに置き換わっているが、これはアナハイムからシーマに秘密裏に送られていたガンダム試作4号機を改裝したもの。開発コンセプトは宇宙空間での突撃機であり、そのため加速を得られる外付けのブースターがオプション装備される。戦闘密地に到達してからは基本的に格闘戦がメインで構想されているため、手持ち武器はビームマシンガン、ビームサーベルと武装的な特徴はさほどないが、機動性と薄い装甲で火力をおびっている。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム0083
スターダスト・メモリー』第13話

デトローフ・コッセル

シーマ・ガラハウ

ガーベラ・テトラ

Guest Characters & Mechanisms

Check LIST

	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	映画Ⅲ		31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	映画Ⅲ
アムロ															シャア														
ハヤト															ララァ														
カイ															ギレン														
スレッガー															キシリア														
ブライト															ドズル														
ミライ															デギン														
セイラ															マ・クベ														
フラウ															ウラガン														
カツ、レツ、キッカ															マリガン														
ハロ															ドレン														
オスカ															デミトリー														
マーカー															トクワン														
オムル															コンスコン														
ジョブ・ジョン															シムス														
タムラ															ラコック														
サンマロ															ゼナ、ミネバ														
マサキ															パロム														
ハワード															フラナガン														
バンマス															デラミン														
テム・レイ															ジンバ・ラル														
レビル															シャリア・ブル														
ゴッブ															バタシャム														
熱ム・ブルム															アサクラ														
ベルガミノ															トワニング														
ワッケイン															ダルシア首相														
ティアナム															セシリア・アイリーン														
モスク・ハン															ジオン・ズム・ダイクン														

31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 映画Ⅱ 映画Ⅲ

ガンダム	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
ガンキャノン	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
ガンタンク	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
コア・ファイター	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
Gパーツ	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
コア・ブースター	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
GM	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
ボール	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
マゼラン	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
サラミス	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
コロンプス	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
バブリク	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
ハルク	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
ソーラ・システム	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
ザク	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
リック・ドム	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
ビグロ	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
ザクレロ	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
ブラウ・ブロ	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
ビグ・ザム	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
キャン	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
シャアゲルググ	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
エルメス	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
ゲルググ	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
ジオング	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
ムサイ	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
チベ	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
グワジン	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
ザンジバル	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
ドロス	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
ガトル	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
ジッコ	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
バソク	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
ソーラ・レイ	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43

	08小隊	0080	0083
ガンダム	●	●	●
ガンキャノン (各種)		●	
ガンタンク (各種)	●		
コア・ファイター (改良型)			●
GM (各種)	●	●	●
ボール (改良型)	●		
ベガサス 駆動艦		●	●
マゼラン (改良型)			●
サラミス (改良型)			●
ミデア (改良型)	●		●
コロンプス (改良型)			●
ザク (各種)	●	●	●
グフ (各種)	●		
ドム (各種)	●		●
リック・ドム (改良型)		●	●
ズゴック (各種)		●	
アッガイ	●		
ゲルググ (改良型)	●	●	●
ムサイ (改良型)	●	●	●
グワジン (改良型)			●
ザンジバル (改良型)	●		●
ガウ (改良型)	●		
レグزن	●		
コムワイ (改良型)	●		●
ニューコン 敵潜水艦		●	●

Mobile Suit Pilot List 2

◎モビルスーツ&主要メカ、パイロット一覧

■=08小隊
=0060
その他=0083

[illegible]

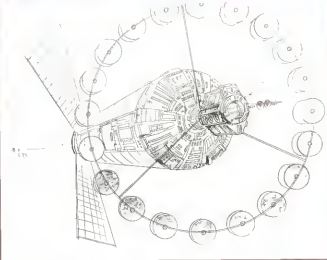
THE DESIGN WORKS OF GUNDAM

The Second Part of The One Year War UC0079-0083

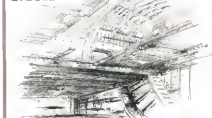
サイド6のスペースコロニー

■ 単しかコロニーが完成していなかったサイド7を除き、唯一サイド単位で、戦争初期のジオン軍の高ガス攻撃を免れたコロニー群。一応中立を宣言してはいるものの、このサイドの行政を司るランク政権はジオン寄りといわれ、攻撃目標から外されたのも、それを利用してジオンがここを補給基地として用いたかったからだとも伝えられている。ララァがこの地に滞在していたのも、ジオンにおいてニュータイプの研究を一手に任されていたフナガン艦隊が、対外的な窓口を担っていたからで、本来の意味で中立を宣言していたならば、そのような行動は制約されていたに違いない。ただ連邦の庇護を期待できない状況下では、ランク政権の選択も無理からぬものともいえる。

■ 外観全貌



■ 宇宙港 (内)



■ 郊外



■ スーパーマーケット



■ 本館



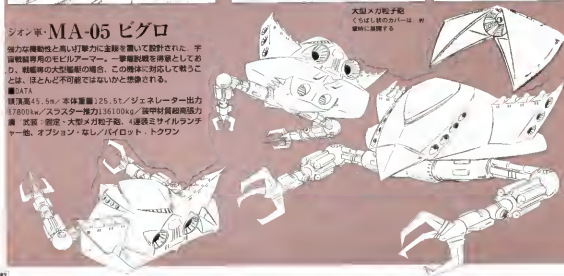
ジオン軍・MA-05 ビグロ

強力な機動性と高い打撃力に主眼を置いて設計された、宇宙戦専用のモビルアーマー。一撃離脱を得意としており、戦艦等の大型艦船の場合、この機体に対して戦うことは、ほとんど不可能ではないかと想像される。

■ DATA

頭頂高45.5m / 本体重量125.5t / ジェネレーター出力17800kW / スラスター推力136100kg / 装甲材質超硬強力鋼 武装：固定・大型メガ粒子砲、4連装ミサイルランチャー他、オプション・なし / パイロット・トクワン

大型メガ粒子砲
くちばし状のカバーは、射撃時に展開する

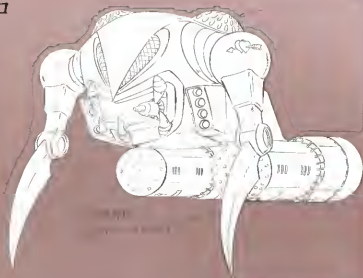


ジオン軍・MA-04X ザクレロ

ビグロと同様のコンセプトで開発が進められていたが、完成度が低く、実戦での使用には耐えられないと判断され、廃棄が予定されていたもの。その経緯にBパーツを装備して出撃したアムロのガンダムに奇襲に遭い、バスターを予測されて撃破された。

■DATA

頭頂高不明、本体重量不明/ジェネレーター出力不明/スラスター推力不明/装甲材質不明/武装 固定・拡散メガ粒子砲、4連装ミサイルランチャー、ヒート砲、オプション・不明、パイロット：デミトリ



ジオン軍・MAN-03 ブラウ・プロ

初めてサイコミュを搭載した、ニュータイプ用モビルアーマー。ただし実験機的性格が強いため、通常人でも操縦可能。

■DATA

頭頂高60.2m/本体重量1735.3t/ジェネレーター出力74000kw/スラスター推力1760000kg/装甲材質超高性能鋼/武装：固定・有線誘導式メガ粒子砲、オプション・なし/パイロット・シムス、シャリア・ブル

■ブラウ・プロ(内)コクピット

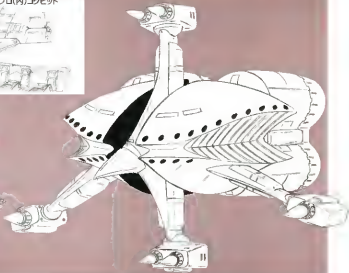
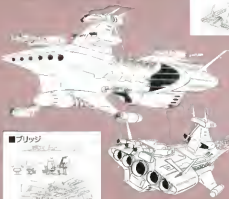


ジオン軍・

宇宙重巡洋艦 チベ

高い推力を持つエンジンを備え、武装も強力なことから、主に艦隊指揮艦などに用いられていた。重巡洋艦の名称に相応しい戦艦艦。主力艦のムサイと比べると戦艦数は極めて少なく、そのほとんどは戦終の中で撃沈された。

■ブラウ・プロ(内)コクピット

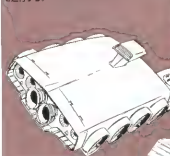


■ブリッジ



○軍 輸送船 バゾク

ジオン軍の新鋭輸送艦。以前に登場した旧式艦のバリアと比べると、倍以上の補給物資を搭載することができると、前線への物資の運搬に大きな役割を果たしていた。前後にコンテナを持つ独特な形状をしているため、理論的には同時に4隻の艦艇に対して補給可能だが、これはさすがに衝突の危険が伴うため、通常は2隻を上限にして作業を進行する。



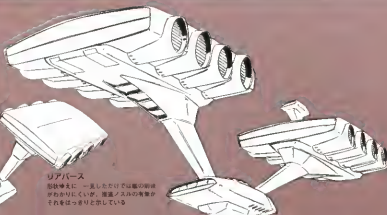
マゼラン&ワラミス ロケットブースター

前線陣を覆われた宙域軍が、高い宇宙での戦力を確保するためには、地上高射を撃退する必要がある。それらの打ち上げに用いられた。



宇宙監視機

作業用アームの他、機体を固定するための脚部が特徴的。作業の効率を高めるため、オーブンデッキ方式を採用

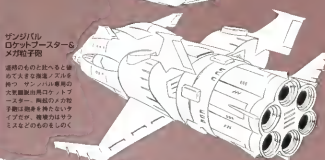


リアバース

形状ゆえに一見しただけでは艦の新鋭がわかりにくい。推進ノズルの有無がそれをはっきりと示している

ザンジバル ロケットブースター& メガ粒子砲

通常のものと比べると極めて大きな推進ノズルを持つ。ザンジバル軍用の大気圏脱出用ロケットブースター。無敵のメガ粒子砲は砲身を持たないタイプだが、砲撃力はサラムスなどのものをしのぐ



■除損部分



民間宇宙船

サイト間の移動などに用いられる。小型の民生用宇宙船。もちろん人型兵器



ジオン内入艦

艦艇同士での移動などに使用される。ジオン軍の標準的な艦艇小型艦



私用宇宙船ハルクとTV局の中継船

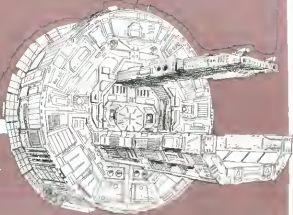
機内設備を確保して居住性を考えたカムフラージュ家の私用宇宙船と、世界の境目に飛び出すTV局の中継用宇宙船



ハルク

宇宙浮きトック

戦争商人のヘルカミンがサイド6の上空に待機。大型艦艇も使用可能な着陸用プラットフォーム



ヘルカミンの浮航艇

危機を脱却するための多量の推進力を搭載可能なしん、ごく小型の光艇



中継船



サイド6内のエレカシャがララを待たに急ぎたいものと、父の元に向かうとしていたアムが使用していたもの

エレカバス

サイド6内を運行していた乗合バス。凶悪な移動には、これが一番適している



宇宙ビーコン

サイド6の戦争を示すために用いられていたものの、機内と対向レーザーを放射している



民間所のノーマルスーツ

左がコロニーの整備など作業隊事務用の、行動性を重視したタイプで、右がカムフラージュなどの一般人が着用していた、安全性を求めたモデル、それぞれに一長一短がある



ショーン画ノーマルスーツ

シムス中尉が着用していた、ショーン軍の技術者や整備、戦闘での運用性能は高いとされる

地球連邦軍・スレガー・ロウ

リュウの死亡によって生じた欠員を埋めるために、ホワイトベースに配属された密術士官。しかしパイロット訓練を受けていたため、すぐにGファイターに乗り込むことになる。一見するとアバウトな性格のように思えるが、実は誠実な人物である。



ジオン軍・ララァ・スン

ニュータイプの影響を持つため、シャアに拾われた少女。彼女はそんなシャアに尊敬を感じ、さらには愛するようになる。だが、それがアムロをも巻き込んだ、大きな不幸を招くことになろうとは……。



華やかな衣装の中に潜む強い意志。それが彼女を不動の存在にした

カムラン・ブルーム

安穩とした生活の中に迷うことしか考えなかった彼にとって、ミライの言葉はあまりに重かった。だがそれが15年後の彼に……。

テム・レイ

サイド6で、偶然の再会を果たしたアムロの父。しかしそこには、良くも悪くも強固な意志を持った、かつての父の姿は無かった。

■ジャンク屋



コンスコン

キシリア配下の特務。それゆえにシャアに対して強烈なライバル意識を持つ。だが彼の不幸は、アムロが目覚め始めたこと……。

ベルカミノ

サイド6でジオンと連邦の、双方を相手にして財をなした戦争商人。これを才に振れているという良いのだろうか？

ドクワン
ビグロに奪り
取られた
ガンダムを
奪回し、
人々を
救った

デミトリー

ドクワンの仇をとるため、
単身ザクザクに参入して、
カウインに戦いを挑んで来た

コワル

テスト運用中のプラウ・プロトを盗み出した。シムスの部下としてガンダムに参戦してしまふ

ハイロント
カムランの乗るロケット
機を盗み取った

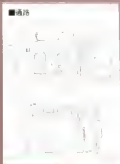
■ブロック



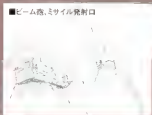
■脱出ボットがある部屋



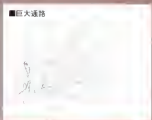
■通路



■ビーム砲、ミサイル発射口



■巨大通路



■フロモン内部

小部屋を改造した客室とはいえども、内部の居住性は非常に高い。一般兵士と比較すれば、訓練場にはあるものの、ドスルが率のセリと子族のミルバを連れてきていたのは、その基地の環境に満足していたからであろう。何回かの戦闘から、基地自体の建設は完成には行われていたことは間違いないが、それによってこのような基地を維持していたことは、オンの能力が決して侮れるものではなかったことを示している。

■巨大通路



■グラナダ内部



シオン軍・月面基地 グラナダ

キシリア配下の突撃機動軍の拠点。ア・バオア・クーとともに、シオン軍の最終防衛ラインを構成している。進攻するにあたって連邦軍はこの基地を迂回してア・バオア・クー側に進んだが、それも月面の豊富な資源を用いて厳重に防衛された。このグラナダを陥落させるよりも、その方が被害が少ないと計算した上でのことではないかと想像される。そのため無端で戦争終結後も残り、地球連邦政府に反意を語る者たちの拠点として用いられることになった。

■グラナダ外観



ジオン軍・MA-08 ビグ・ザム

迫り来る連邦軍艦隊を前にしてソロモンに配備された、超大型モビルアーマー。開発1号機とはいえども、大型メガ粒子砲は一撃で戦艦を撃沈し、対ビーム用電磁波網はあらゆる長距離ビーム攻撃を無効にする、恐るべき代物であった

■DATA

頭頂高59.6m / 本体重量1021.2t / ジェネレーター出力140000kw / スラスター推力580000kg / 装甲材質超鋼強化力鋼 / 武装：固定・大型メガ粒子砲、メガ粒子砲、脚部大型クロー、対ビーム用電磁波網、オプション：なし / パイロット：ドズル・ザビほか



■コクピット

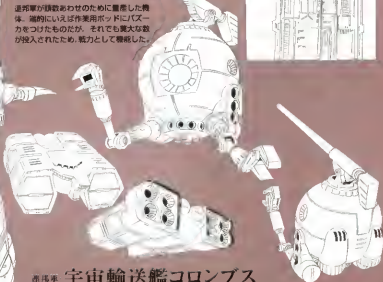


■格納庫



連邦軍・RB-79ボール

連邦軍が試験あわせのために重造した機体。端的にいえば作業用ボッドにバズーカをつけたものだが、それでも莫大な数が投入されたため、戦力として機能した。

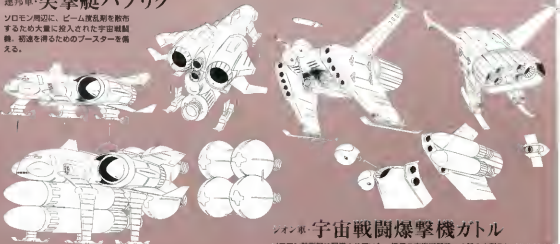


連邦軍 宇宙輸送艦コロンブス

輸送システムも備えるが、第一目的は大量のペイロードを効率的に輸送することに特化して建造された、観戦式の大巨艦。ソーラ・システムの移送に用いられたほか、量方ながら多くの場面で活躍した

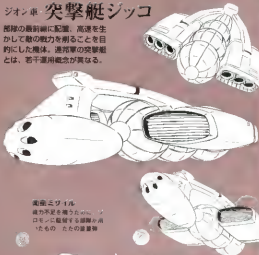
連邦軍・突撃艇パブリク

ソロモン周辺に、ビーム嵐を散布するため大量に投入された宇宙戦闘機。初速を得るためのブースターを備える。



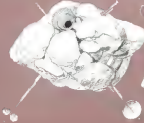
ジオン軍 突撃艇ジッコ

艦隊の最前線に配置。高速を生かして敵の戦力を削ることを目的にした機体。連邦軍の突撃艇とは、若干運用概念が異なる。



電磁ミサイル

電力不足を補うため、ソロモンに設置する部隊が用いたもの。たまたま設置



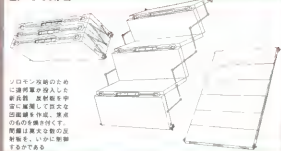
電反動タイプル

発射力までの射撃も考慮して、両手に仕込まれた射撃機。ライフルで、メカニカル・弾薬庫を開く。似たようなものを採用している。→ズルが採用

ジオン軍 宇宙戦闘爆撃機ガトル

ソロモン防衛陣に配備されていた。汎用の宇宙戦闘機。4基の大型ミサイルや10連装小型ミサイルランチャーを持つ。原本はミノフスキー粒子散布下の近接戦闘が考慮される以前の設計だが、限定された領域内での戦闘では、いまだに有用である。

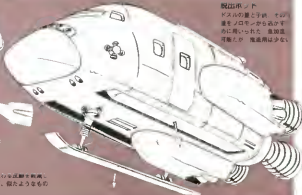
■ソーラ・システム



ソロモン防衛のために連邦軍が投入した新兵器。反射板を宇宙に展開して巨大な防護壁を作成、着点のものを撃つ。防護は最大多数の反射板を、いかに撃破するかである

脱出ユニット

ドスルの数と手続。ソロモンから逃がすのに用いた。急加速可能だが、電磁波は少ない



ジオン軍・ゼナ&ミネバ・ラオ・ザビ

ソロモンを脱出後、終戦時に小惑星帯に逃亡するドズルの妻子。しかしゼナは早世、残されたミネバはザビ家の唯一の生き残りとなる。だがまさかそれが、後に大きな災厄をもたらすことになるのでは……



ゼナの侍女

ゼナとミネバに付き従っていた女性たち。彼女のような者たちが傍らにいたことからも、ドズルの剛気さやうかがうことができる

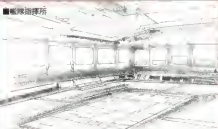
ティアンム

ソロモン空軍戦術を指導した提督。ホワイトヘースが属する第13独立空軍の指揮官でもある



ラコック

ドズルの副官として、よく働いていた男。直情曲心の者。冷静にサポートしていた



艦隊指揮所

バロム

劇中に唯一、たノコギンを助うため、ウラナダで捕獲された艦隊に乗り込んでいた、ジオン軍の要員。ザビ家の暗黒なと関係ないかのように、語る数、ていたことから、裏切を軍人なのかも知れない。



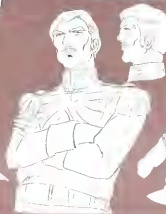
■カズ、レイ、キッカ



大人虎のノーマルスーツに押し込められた、チビっ子三人組もっとも、だからといって彼らが静かにしているわけもなく、彼らなりに騒ごうとするのが早業らしい。

シン

ジオン軍機動隊に投入された、連邦軍でヒルズ・ノム部隊のパイロット

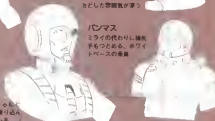


マウキ

ホワイトベースに乗り込んでいる少年。おどおどした雰囲気がある。

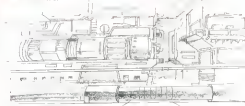
バノマス

ミライの代わり、機動隊もつとめる。ホワイトベースの乗員。

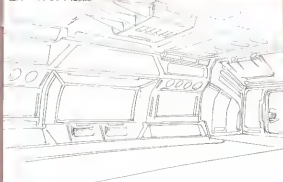


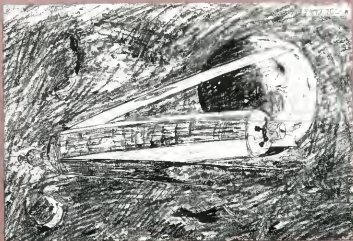
マイヤー・ドズルととも、ドブ・ザムに乗り込んでいたジオン兵

■第2デッキ(内)



■スペース・ランデブー





テキサス・コロニー

以前は観光と教育によって、収益を上げていたコロニー。しかし戦いの余波で設備被害とミラーの調動装置が故障したため内部の砂漠化が進み、一部の保守人員を残して無人と化している。それを利用して、シャアはここでエルメスの運用実験を行おうとしていた。

■宇宙港側



■宇宙港内監視所



■ザンジバルが停泊した宇宙港



■エレベーター



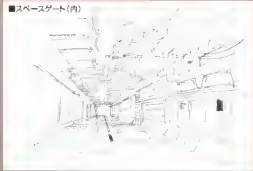
■テキサス・コロニー（内）



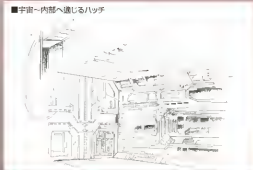
■牧場



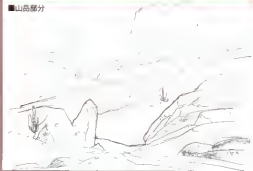
■スペースゲート(内)



■宇宙～内部へ通じるハッチ



■山岳部分



■スペースコロニーの残骸

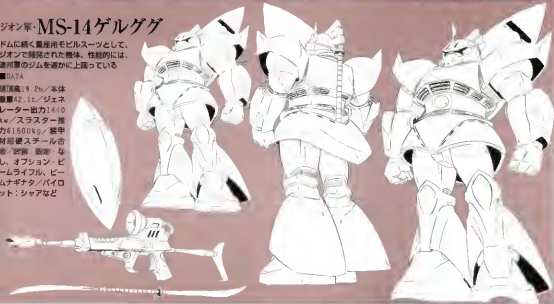


ジオン軍・MS-14ゲルゲグ

ドムに続く量産用モビルスーツとして、ジオンで開発された機体。性格的には、連邦軍のジムを逆かに上回っている

■DATA

頭頂高19.2m/本体重量42.1t/ジェネレーター出力1440kw/スラスター推力61500kg/装甲材質超スチール合金/武装固定・なし、オプション・ビームライフル、ビームナギナタ/パイロット：シャアなど



ジオン軍 MAN-08 エルメス

サイコミュによる、完全なワイヤレス・オールレンジ攻撃を可能にした、唯一のニュータイプ専用機。だがサイコミュによって暴走されるララの悪性が、アムロのニュータイプへの覚醒を加速することにもなった。

■DATA

全高85 4m / 本体重量163 7t / ジェネレーター出力4200kw / スラスター推力645200kg / 装甲材質超合金鋼 / 武装 固定・メガ粒子砲、オプション・ビットパイロット ララァ



頭部装甲は、ワイヤレスサイコミュの電波を受信するために、特殊な形状のアンテナが取り付けられている。このアンテナの形状は、機体の運用環境に特化したものといえる。

■コクピット



ビット

メガ粒子砲を装備したライブ



ジオン軍 宇宙戦艦グワジン

ジオン軍宇宙艦隊の旗艦ともいえる戦艦で、ネームシップのグワジンの他にグレート・デゴン、アサルムなどが確認されている。莫大な推進力と食料等を搭載できるため、単独で小惑星帯まで到達することすら可能である。

■艦橋



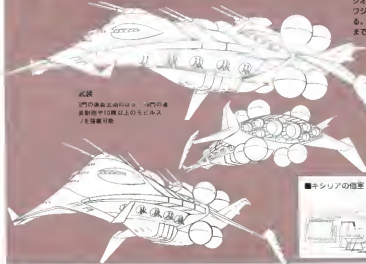
軍の象徴として、艦橋にそれと相応しい広さと構造を備えていることがわかる。

■キシリアの信室



武装

3門の連装主砲のほか、4門の連装副砲や10機以上のモデルスノを搭載可能



ジオン軍・MS-15 ギャン

ゲルググと次期量産モビルスーツの雄を争い、接近格闘戦に主眼を置いていたために散れた機体。しかし、限定的な環境下での性能は高く、それを惜しんだキシリアにより、完成していた試作機がマ・クベに与えられ運用された。

■DATA

全高19.9m / 本体重量52.7t / ジェネレーター出力1360kw / スラスター推力56200kg / 装甲材質超硬スチール合金 / 武装 固定・ビームサーベル、専用シールド、オプション：なし / パイロット：マ・クベ

■近接格闘



コロニーのゲートに、やはりマ・クベが掛けているトラップ



■デキサコロニー付足の浮遊機

マ・クベがトラップを仕掛けていた。だがコロニータイプとして目撃のつづあったアムは、それを克服する



ニードルミサイル

専用シールドに多数が仕込まれている。小型ミサイル。主に攻撃に用いる



ハイドポンプ

こちらもシールドに搭載されている。小型の浮遊機。歩調のように使用可能



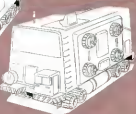
馬車

ジオン軍のトラップ。フラクガン博士の移動に用いた。馬や牛を動かす。本来は、歩調のよいものであろうと思われる



マグネット・コーティング車

ガンダムの行動範囲を向上するために、電磁コイルの磁場をスカー・ハン博士が用いた機材



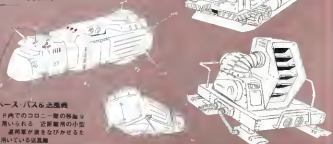
トランプ

シャアからサイファに渡された。金塊をおさめていたケース。そこには魔のセイラへの愛情と、悔しさが見える



スペース・バスと送風機

サイド内でコロニー層の移動などに用いられる。近距離用の小型機と、遠距離が動く必要を必要とするために用いている送風機

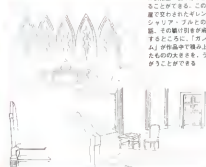


ンオン軍 シャリア・ブル人劇

ほとりでも多くのニュータイプを戦線に投入したいジ
オン軍が、自軍の中から見つけ出した人物。しかし彼
をキシリアの元に送り込んだギレンの真の狙いは他に
あり、そんな確論に巻き込まれたことが、美画な彼の
大きな負担にもなった。



■ギレンの部屋

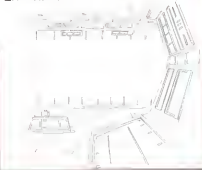


巨漢さを誇りせるギレン
の執務室。彼の好みを窺
うことができた。この執
務室で交わされたギレンと
シャリア・ブルとの命題
。その駆け引きが展開
するところに、「ガンダ
ム」が作品の中で最も上げ
たものの大さきをも、うか
がうことができる。

■機庫室



■スペースゲート



■モス・ハン博士

アムロの機庫に反
応しきれなくなっ
たガンダムに改造
を施すために派遣
された。マフネッ
ト・コーティング
と称ばれる技術を
完成させた機組工
学の新鋭。



■マフベ

彼ら手を汚すことには容れない。あ
えてパイロット・スーツに身をな
れん。それはあくまでキシリア
に解する道義を断つために過ぎな
かった。

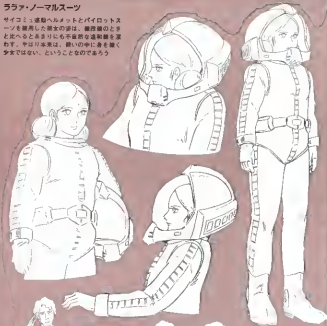


■マフベの血

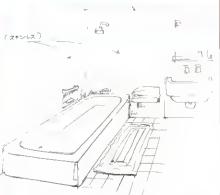
達が受ける白熱の炎の中でも最
高の志願。地上を飛んで受けてい
たものとは異なる。死の瞬間！
まで。その行く末をこたわりな
げた事は、裏でもあった。

ララァ・ノーナルスーツ

サイコミュ連動ヘルメットとパイロットスーツを着用した彼女の姿は、機体機とのときと比べるとあまりにも不自然な違和感を覚える。やはり本来は、顔の中心に身を置く少女ではない、ということなのだろう



■ホワイトベース・バスルーム



■ホワイトベース・医務室

■公王ジオン・ズム・ダイクン
臨床のベッド

連邦軍士官

占領地、連邦軍によってコンバートの名を奪取された旧ソ連軍で、最新の戦術の知識や、戦術的素養などに定着していた人物

フナガン博士

ジオンにおいて、ニュータイプに関する研究を一手に任されていた野、戦術の練り方は不明

■医務室



■シャアとセイラが買った家



■バタシャムと同僚(右)

定数の経験のないフラウのエルメスを守る任務を多えられながらも、その隙にふり目を狙い打ちにして、彼方に下がったパイロットたち、彼らの抱いた感情こそが、目と目、心と心

宇宙要塞 ア・バオア・クー

月面基地のグラナダと並んで、ジオン本拠ワイド3の絶対防衛ラインを構成する、軌道上の要塞。ふたつの岩塊が接続された特異な形状をしているが、内部にはモビルスーツを始めとした多数の兵器が出撃に備えている。サイド3が比較的強固な密閉型コロニーによって構成されているとはいっても、内海されてしまえば打つ手が存在しないのは明らかなため、連邦軍の進路ルートが判明した時点で、ジオン軍は最終決戦の場をここに設定したのだった。

■宇宙要塞ア・バオア・クー



■ガンダムが半壊した通路



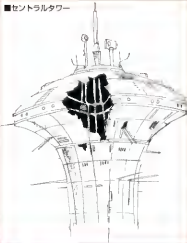
■アムロとシャアが決闘する室内



■ホワイトベースが不時着した場所



■セントラルタワー



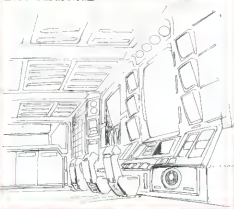
■ギレン・ザビ大尉の執務室



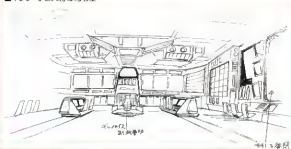
■アムロとシャアが出会った通路



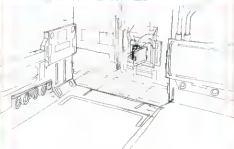
■ギレン・ザビ大尉の司令室



■ギレン・ザビ大尉の司令室



■アムロに誘導されセイラが左へ進む通路



■ギレンの椅子

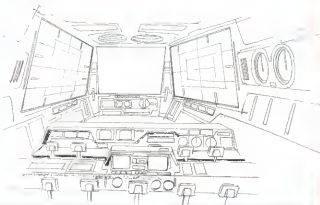


ギレンの椅子の下に置かれていたと推測されるため、実際に描かれてはいるが、同じ宇宙要塞のソロモンよりも絵的に充実した設備を描いているア・バオア・クーの内部。そこはいくつものブロックによって仕切られているうえに、多量の通路が走っており、複雑な通路の中では、さながら迷宮のような迷路を描いていた。ララァの案内に導かれたアムロの視線がなければ、内部に入り込んでしまったセイラを助めとしたことが断出下ることなどは、ほとんど不可能だったことは間違いない。この要塞内には新機軸であるジオン共和国の手によって造られることになり、さらにその中にはティターンズの拠点として用いられることになった。

■Gファイターからセイラが侵入した入口とどった通路



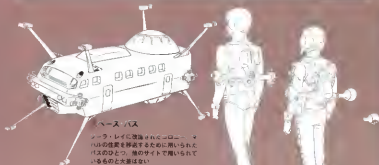
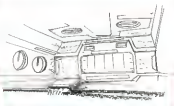
■ソーラ・レイ制御室



ジオン軍・ソーラ・レイ

優勢な連邦軍を一気に殲滅することを目指して、ギレンが連合を進めた超巨大レーザー砲ソーラ・レイ。密閉型コロシアムと、その発電システムを併用して放たれた光波は、一瞬にして連邦軍艦隊の1/3を消滅させるのだった。しかし、その光を感じ取ったアムロは叫ぶ「あれは懐しみの光だ!!」と――

■ソーラ・レイ・コントロールルーム (グワジン内)



■スペースバス

ソーラ・レイに改修されたコロニー・マハの性能を補正するために用いられたバスのひとつ。他のサイトでも用いられているものと大差はない

連邦軍制式武器

アムロがシャアと戦った時に用いた銃。戦場の情を鑑み、これはガンダムの手に渡されることになる

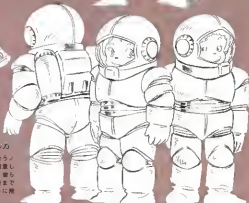


■ガンダムの銃

ようやく無事にニュー・マール・ニュー・マールに着いた3人組。彼らの心の声は、最後までア・バオア・クーに閉じこめられていた

ランドムーバー

重力下での移動に用いられる。正体はガス駆動装置。宙の部分の圧力センサーによってコントロールする



■スペース・バス発着場



■ホワイトベース 出入口ハッチ



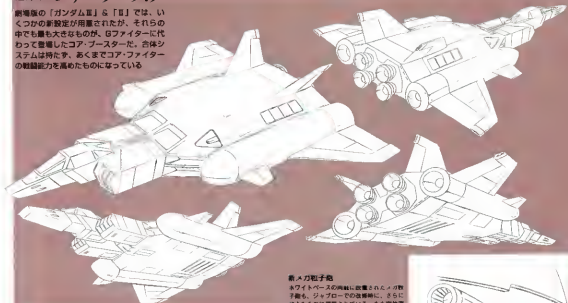
■ホワイトベース左後部エンジン脱線部



新設定メカ&キャラクター

連邦軍・コア・プースター

劇場版の「ガンダムⅡ」＆「Ⅲ」では、いくつかの新設定が用いられたが、それらの中でも最も大きなものが、Gファイターに代わって登場したコア・プースターだ。合体システムは持たず、あくまでコア・ファイターの戦闘能力を高めるものになっている



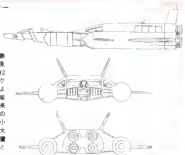
新メカ粒子炮

ホワイトベースの両舷に設置されたメカ粒子新兵器。ジャブローでの戦闘時に、さらに威力向上に改造されている。また実験機を用いた主眼は、外観上からわかる変更はされていない



■コア・プースター 三视图

コア・プースターを側面・正面・後面から見た形状。メカ粒子砲2門を載せた増設パックを連射したことにより、全長が約2.5倍に延長され、運動性も従来の数倍ポイントとしての用途を押し広げた小艦隊の中心から、より大艦隊を導いたものに置き換えられていることがわかる



■コア・プースター 車輪

機体を上回る重量を持ったコア・プースターハックが搭載されたため、重心も後方に移動しており、量産時に用いる車輪はすべてバネの弾力を用いるように仕様が変更されている。この通りに、設計者の苦心の結実を見る事ができる



ガンダム・ガンキャン 足の裏

これまで不明だった、両足の裏の裏に設置されたバーニアの形状。なおガンタンクはガンキャンに置き換えられた



リック・ドム・バーニアドムに、バーニアを追加して宇宙航行としたものがリック・ドムだが、これまで不明だったそのバーニアが置かれた



ミラージュ 3E

シャアがウラタと乗っていたエレカも、ガルウィングライプのものに変更されている

ララァ・スン

新と旧軍兵の手によって描かれた、ララァの
意図する設定。TVシリーズ制作時には、最終
の事情により図られなかった



シャアと鳳

デキヤス・コロニーで、シャアが乗っ
ていた船にも、設定が用意されている
TVでは両船のカットはない



ジオン・ズム・ダイクン

シャアとセイフの父。ニュー
タイプの出産を囑み、ジ
オンの機嫌に幸くした



シャアと鳳
の戦い
のシーン

フナガン博士と研究員

バリエーションよりも、新しい研究員
兵を持つ人物に設定されたフナガ
ン博士と、新たに用意された研究員



■ゲーム用ガンダムコクピット前



ザムシア高橋
ジオン公団の官
用。新設定
機時には、機
の
設定として
機に
機いた



■ガンダムコクピット右後方



アサツツ

ノーラ・レイの通
車に設定してい
た。ジオン軍の機
体機。実質的に
よの海軍によっ
てノーラ・レイは
運送された

トウニング

ヤンリアがデレ
の機で機いたとき、機
を機した機

センリア アイレー

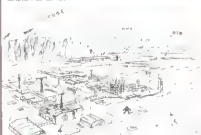
デレンの機。小機では機入
に機されている

美術設定

連邦軍北極基地

NT-1を宇宙に上げるために用いらた、重機物打ち上げ設備を持つ基地。本来ならばこのような基地は、地球の自転速度を生かすために赤道に近い場所に設置されるのだが、シオン軍によって世界各地の施設が占拠・破壊されたため、立地に關する不利を承知で、人目につきにくいような場所に建築されたのではないかと想像される

■北極軍基地外観



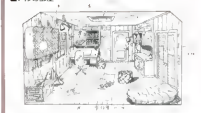
■排水配デッキ



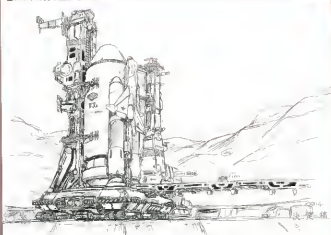
■アルとクリスの家



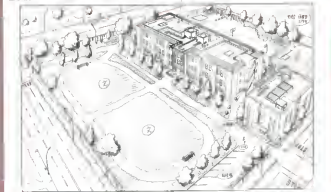
■アルの部屋



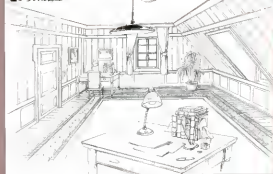
■シャトル打ち上げ機



■学校

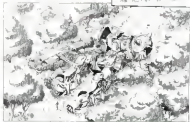


■クリスの部屋



高級サイドローは、いつか壊れるかわからないという事実と、また同じコロー居住者として、独立を望む事柄は両部であることから、中立的な場所でもジオン公国よりの姿勢を示して、いざいざと過激な事をしを畏れを覚悟するに、一致し態度を変えたようにある。でなければ、何ていふ状況、試練もこの地で実現しようなどとは考えなかったに違いない。

■ザクの落ちた所



■ガンダム工場



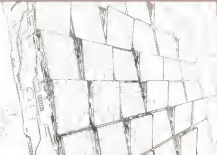
■ジオン特務隊の偽装工場



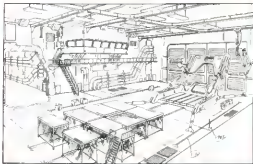
■ピンクエレファント店内



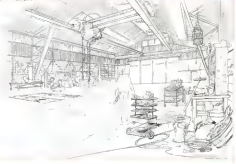
■ミラーUP



■ガンダム工場内部



■特務隊工場内部



サイド6

直接、大規模な戦闘に巻き込まれていないサイド6の住民にとって、戦争に関する危機意識は低い。そのため内部では、ごく普通の生活が営まれている。それが清水を囲むような

ものであることを、心のどこかで何となく感じる。バーニィや戦艦をくぐり抜けてきたサイクロプス隊の面々の目に、果たしてその光景はどのように映ったのだろうか。

モビルスーツ

連邦軍RX-78NT-1 アレックス

高い戦果を上げ続けるアムロに用事された、連邦軍としては初めてのニュータイプを顕現して作成された機体。設計段階から、機体の各所にマグネット・コーティングやリニアシートなどの新技術が採用されている。アレックスの要諦が呼ばれている。

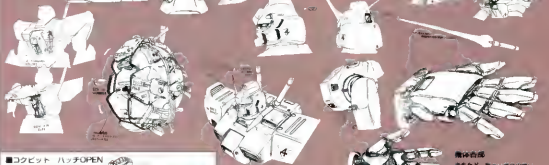
■DATA

頭頂高18.0m/本体重量40.0t/ジェネレーター出力1420kw/スラスター推力132000kg/装甲材質ルナ・チタニウム/武装 固定・移動バズカン、ビームサーベル、胸部ガトリングガン、オプション・不明/パイロット：クリス



■チョバムアーマー

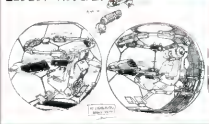
省却装甲を装備した状態のNT-1ガンダムとしては、4号機にある



ガトリングガン

内蔵型弾薬兵器の乏しさを補う目的で導入された、50mmガトリングガン。胸部に内蔵

■コクピット ハッチOPEN



機体内部

各部など、多くの部分の改良も改良されているが、テスト段階のものが多い



ジオン軍・MS-18E ケンプファー

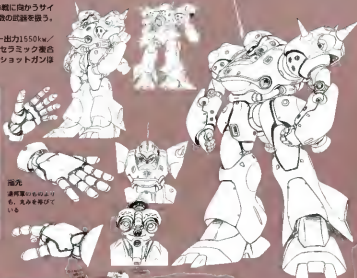
“ルビコン作戦”と名付けられた、NT-1の破壊作戦に向かうサイクロプス隊に配備された特種用モビルスーツ。多数の凶器を扱う。

■DATA

頭頂高17.7m/本体重量43.5t/ジェネレーター出力1550kw/
スラスター推力158000kg/装甲材質チタン・セラミック複合材/武装：固定・詳細不明、オプション・専用ショットガンほか/パイロット：ミーシャ

■展開状態のケンプファー

ハンガーにて展開・解体中のケンプファー。サイドロッドはパーン状態で導入せねばならなかったため、爆発した直前までこれを展開していた



砲丸

通称軍用砲丸のふりも、丸みを帯びている

ショットガンを構え、ジャイアント・バズキャッシュルムファウスを襲行している

ジオン軍・MS-06FZ ザクⅡ改

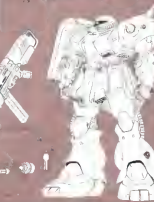
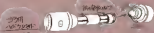
大戦末期に投入された、ザクの改良型。頭部形状が異なるモデルも存在する。

■DATA

頭頂高17.5m/本体重量56.2t/ジェネレーター出力976kw/スラスター推力79500kg/装甲材質チタン・セラミック複合材/武装：固定・なし、オプション・ザクマシンガンほか/パイロット：バーニィほか



ザクマシンガン
従来のドラムマガジンのものとは異なる



■ザク ハッチOPEN



■大きさ対比表



モビルスーツ

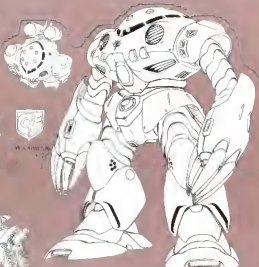
ジオン軍 MSM-07E ズゴック E

従来のズゴックを強化したバージョン。クローアームの大型化など、特に攻撃力の向上が著しい。

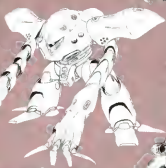
■DATA

全高18.4m/本体重量69.5t/ジェネレーター出力2570kw/スラスター推力12000kg/装甲材質チタン・セラミック複合材/武装:固定・ビームカノン、クローアーム、オプション:なし/パイロット:シュタイナー

■ズゴック コクピット



機上での投射兵器を弾化するため、オプションで大型ミサイル発射機



ジオン軍 MSM-03C ハイゴック

ゴックを設計段階から、全面的に見直して作成された機体。ガンタムのハイパーハンマーすら受けとめたパワーは継承されている。

■DATA

全高15.4m/本体重量54.5t/ジェネレーター出力2735kw/スラスター推力8600kg/装甲材質チタン・セラミック複合材/武装:固定・メガ粒子砲、両腕、オプション:ハンドミサイル、ユニット/パイロット:アンディ

水中航行距離を伸ばすブースターパック

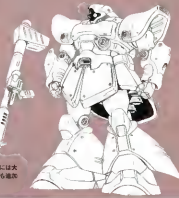


ジオン軍 MS-09R2 リック・ドム II

ドムの派生型として誕生したリック・ドムに、さらに宇宙での使用に適した改修を施したモデル。増加プロペラントタンクが装着可能。

■DATA

全高19.6m/本体重量45.6t/ジェネレーター出力1219kw/スラスター出力11000kg/装甲材質チタン・セラミック複合材/武装:固定・駆動ビーム砲、オプション:ジャイアント・ボウ、スラスター



両腕スラスターには大型スラスターを追加

ジオン軍 MS-14JG ゲルググJ

増加燃料タンクを兼ねたスラスタバックを追加することで、機動性と航続距離を増加。さらに浸透性の高いビームマシンガンを設置したゲルググの後継モデル。

■DATA

頭頂高19.2m/本体重量40.5t/ジェネレーター出力1490kw/スラスタ推力178500kg/装甲材質チタン・セラミック複合材/武装：オプション・ビームマシンガン

■コクピット内部



機体各部
バーニアの数も増え、細かい運動性も高い

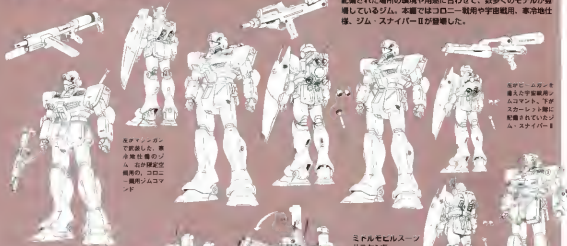
スラスタバック

これの装備により、機動時間が大幅に向上した



連邦軍・RGM-79ジム (バリエーション)

配備された場所の環境や用途に合わせて、数多くのモデルが登場しているジム。本編ではコロニー専用や宇宙戦用、寒冷地仕様、ジム・スナイパーIIが登場した。



左はカスタムガンで武装した、寒冷地仕様ジム。右は探検空母用の、コロニー専用ジムコマンド

左はジム・スナイパーIIを構成する宇宙戦用ジムコマンド。下はスカレットIIに配備されていたジム・スナイパーII

連邦軍・RX-77D ガンキャノン (量産型)

ガンキャノンの先行量産タイプ。両腕のキャノンが、格納式のものに変更されている

■DATA

頭頂高17.5m/本体重量51.0t/ジェネレーター出力410kw/スラスタ推力93500kg/装甲材質チタン・セラミック複合材/武装：固定・キャノン砲、頭部バルカン、オプション・フルバクマシンガン



ミナルセビルスーン ドラクエンE

作戦やコロニー襲撃での機動行動、戦い場所での機動など、さまざまな用途に耐えうるため、ミドルMSには多くの種類が存在する



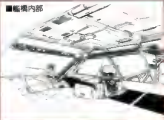
艦船&ゲストメカ

グレイファントム

ホワイトベース級の後期
建造艦。とはいっても、
ほとんどの部分がリファ
インされ、より戦術的な
イメージを持つ外観に変
わっている。NT-1を回
収するためサイド8に入
港



■艦橋内部



グラーフツェペリン

ゼビルスーツの運用を容易にするなど、機本
的に改造された量産型艦艇への後期建造タイ
プ。推進器も大型のものに置き換わっている
ため、加速性能も大幅に高くなった。

■グラーフツェペリン
ブリッジ
ディテール



■グラーフツェペリン発進デッキ



■グラーフツェペリン艦橋



■グラーフツェペリン発進デッキ



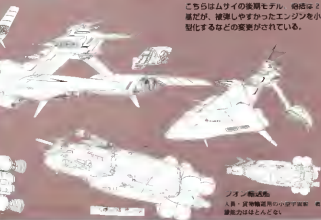
☆戦艦の艦橋を3つにすることをめぐって、艦橋
設置も変更している

■グラーフツェペリン艦橋



☆後援機も

☆イカロス型コ
ンテナを搬入
するために使用



ジークフリート

こちらはムサイの後期モデル。俗名は2
基だが、増強しやすかったエンジンをも
小型化するなどの変更がされている。

ノオン輸送機

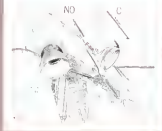
人員・貨物輸送用の小形宇宙艇。機
体能力はほとんどない

ユーコン99

ジオン軍地球投送部隊において、対地攻撃やモビルスーツの運搬などの大きな役割を担い、数多く使用された汎用大型潜水艦。



■シャトルのブースター



大型シャトル

尾端で用いられている、所定中のシャトル。大量の人員を移送可能なだけでなく、大型貨物も移送可能なバッチも備えている。

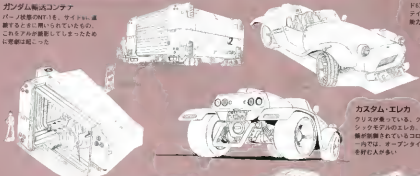


新画船

コロニー内や月面など、宇宙航行に用いられている民間の宇宙船。戦争があっても、人々の往来は続くため、このような船も行き来を続けている。

ガンダム輸送コンテナ

パナソニックのMT-1を、サイド6に運搬するとき用に作られたもの。これをアルが盗取してしまったために争戦は起こった。



リアヘリ

コロニー内部の警備にリア（サイド6）軍が用いているヘリ。ノン・ティルローター型の機体で、機銃搭載力も備えている。



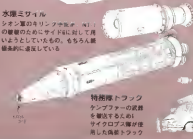
カスタム・エレカ

クリスが乗っている、クラッシュモデルのエレカ。天候が調整されているコロニー内では、オープンタイプを好む人が多い。



水陸ミョール

ジオン軍のシンクやバク（水陸）の搬送のためにサイド6に対して提供しようとしていたもの。もちろん最終的に没収されている。



特殊隊トラック

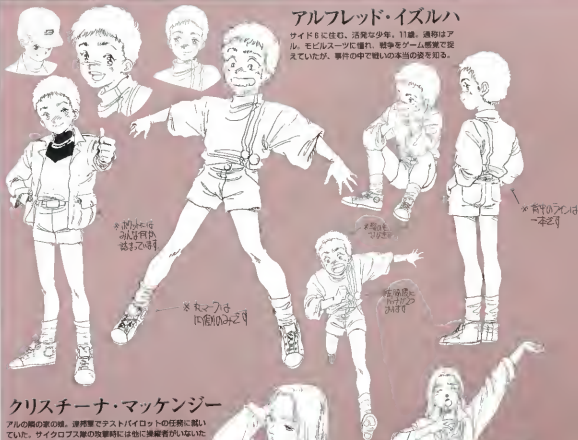
ケンパファターの武器を搬送するためのサイクロプス隊が使用した特殊トラック。

装甲兵員輸送車

北緯基地などで用いられている。過剰軍の装甲兵員、4機が整備されている。

アルフレッド・イズルハ

サイド6に住む、活発な少年、11歳。通称はアル。モビルスーツに憧れ、戦争をゲーム感覚で捉えていたが、事件の中で戦いの本当の姿を知る。



クリスティーナ・マッケンジー

アルの隣の家の姉。海軍軍でテストパイロットの任務に就いていた。サイクロプス軍の攻撃時には他に操縦者がいないため、懐れない戦艦に出ることになった。愛称はクリスで、階級は中尉。



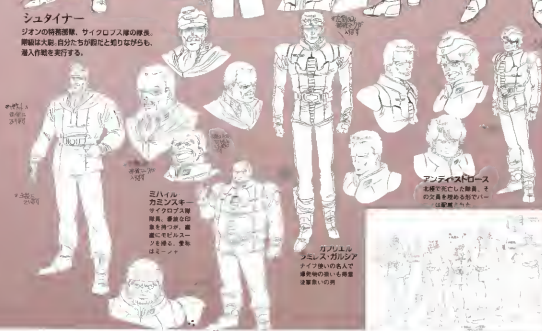
バーナード・ワイズマン

生徒動員令で召集されたジオン軍の新兵で、階級は伍長。偶然NT-1の情報を入手したため、プロ集団のサイクロプス隊に配属され大いに戸惑う。愛称はバーニィ。



シュタイナー

ジオンの特務部隊、サイクロプス隊の隊長。階級は大尉。自分たちが敵だと知りながらも、潜入作戦を実行する。



アンティストロース

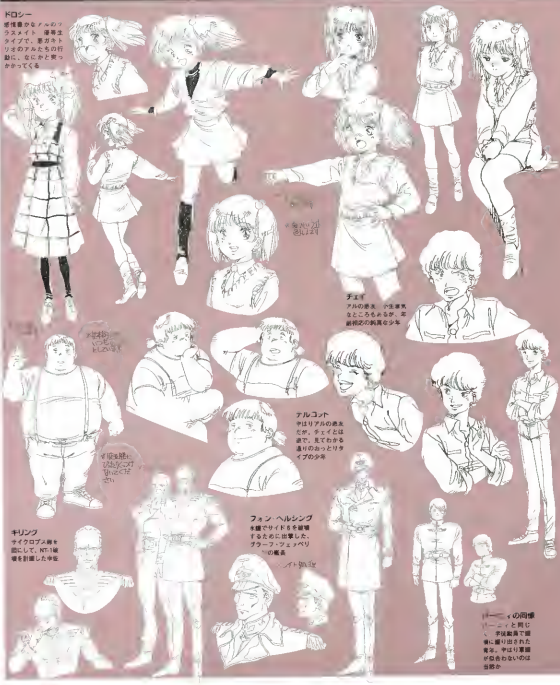
北極で死亡した隊員。その欠員を埋める形でバー
は配属された。



◎サブキャラクター

ドロシー

感情豊かなアルのラ
ラスメイト 優等生
タイプで、悪ガキト
リオのアルたちの行
動に、なにかと突っ
かかってくる



24/24

手工

アルの恋人。今生事無
なところもあるが、年
前相恋の純真な少年

大塚 45
いつも
トシカ

すばる星に
ひびくまで
うたえつた
さし

テルコメ

やはりアルの過去だが、チエイとは逆で、見てわかる通りのおっとりタイプの方。

フォン・ヘルシング
水罐でサイドを破壊
するために出撃した。
ブローフ・ツェッペリ
の戦艦

1940

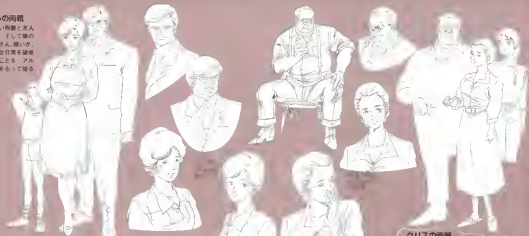
キリング

サイクロブス菌を
菌にして、NT-1破
壊を助成した虫販

「ニーニヤの同僚
ニーニヤと同じく、学徒隊員で戦場に送り出された青年。やはり草園が似合わないのは当然か」

アルの両親

優しい両親と友人
たち。そして姉の
お姉さん。親いび、
そんな日常を破壊
すること。アル
は命をもって償う



クリスの両親

家族を助けるため。とうとう
クリスは、ふたりの最期の戦いのように
ある



ディック

子供たちに対し
て、いろいろな
ことを語ってみ
せる科学者



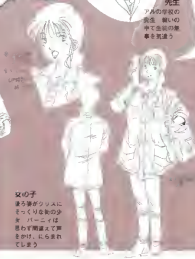
バーテンの祖父

ジョンの連絡員。だが、
親いび話しいもつた
ということも知っている



先生

アルの学校の
先生。親いびの
中で生徒の教
育を営もう



父の子

まろきグリスに
まぐりな歩
を。バーニーは
悲しむ声で
を掛け、にらま
れてしまう



リーア軍兵士

彼を食ってはいら
ない。両腕の機械は大
したものではない



作事

導入しエディター
プス制を扱う。マ
イットの列車と

連邦軍・トリントン基地

ジオンによるコロニー落とし作戦により、ほぼ無人になったオーストラリアに設けられた基地。核爆弾が貯蔵されており、新型機の重力下テストにも用いられている。

■トリントン基地「アルビオン」臨時ドック



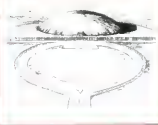
■オーストラリアトリントン基地



■MS格納庫・前



■核貯蔵庫



■ゲート



■模擬戦地のドーム・周辺



■模擬戦地のドーム(内)



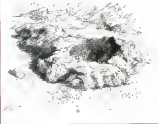
■模擬戦地



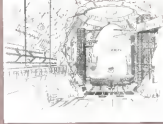
■岩だらけの荒野



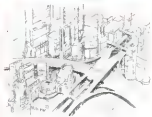
■キンバライド基地



■HLV格納庫



■月 フォン・ブラウン市・高速道路



■アレイの家・屋敷の周辺



■アナハイム・テスト工場



■月面 レーザー発振システム



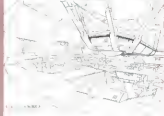
■月面 レーザー発振ステーション



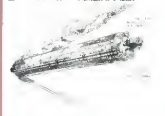
■大会議場



■コンペイ島(内)司令部 後部



■スペース・コロニー大気圏突入・破壊



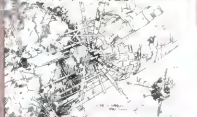
■デラズ・フリート・ベース 宇宙港 UP



■デラズ・フリート ベース中心部



■デラズ・フリート ベース 宇宙港



デラズ・フリート

ギレン心酔する元ジオン軍大佐エギーユ・デラーズが、残存部隊を結集して作り上げた組織。
 陥落空域に茨の罠と名付けた基地も作り上げており、その力は侮りがたい。

連邦軍・RX-78GP01 ガンダム試作1号機

一年戦争後の軍備再編成の中で、連邦軍が進めた新型機の開発により、いくつかの機体が生み出されたが、このGP01はその中のひとつで、究極の汎用性能を追求したもの。

■DATA

全高18.0m／本体重量39.7t／ジェネレーター出力1790kw／スラスター推力108000kg／装甲材質ルナ・チタニウム／武装：固定・頭部バルカンほか／パイロット：コウ・ウラキ



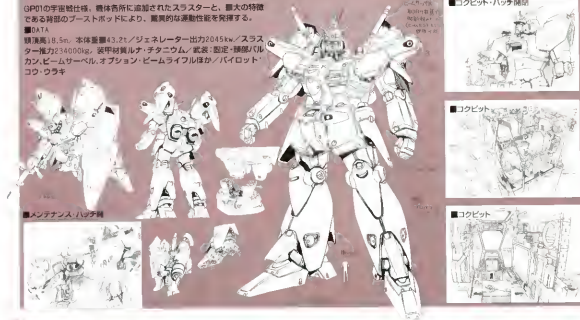
連邦軍・RX-78GP01Fb

ガンダム試作1号機フルバーニアン

GP01の宇宙戦仕様、機体各所に追加されたスラスターと、膨大の特徴である背部のブーストボッドにより、驚異的な運動性能を発揮する。

■DATA

全高18.5m、本体重量43.2t／ジェネレーター出力2045kw／スラスター推力234000kg、装甲材質ルナ・チタニウム／武装：固定・頭部バルカン、ビームサーベル、オプション・ビームライフルほか／パイロット：コウ・ウラキ



■コクピット・ハッチ開閉



■コクピット



■コクピット



■メンテナンス・ハッチ開閉



連邦軍・RX-78GP02A ガンダム試作2号機

GP01が白兵戦性能を協議しているのに対して、核弾頭を用いた強襲に主眼を置いて設計された機体。

■DATA

頭頂高18.5m/ 本体重量54.5t/ ジェネレーター出力1860kw/ スラスター推力155200kg/ 装甲材質ルナチタニウム/ 武装 固定・アトミックバズーカほか/ パイロット アナベル・ガト

核攻撃時

今般システムを内蔵するシールドと、特殊なコクピットシールドによって、機体は保護されている。

連邦軍・コア・ファイターII

GP01に採用されている、新型のコア・ファイター。基本的に両腕カプセルであることには変わりはないが、初代ガンダムのおときにはAパーツに含まれていたメインスラスターを備えるようになった。これは脱出を容易にするためでもあるが、コア・ファイターの機体によってGP01の汎用性を高めるという発想に基いている。

本機初装

フルバーニアへの改修時に、ブーストロケット装置型に変更された。

連邦軍・RX-78GP03S

ガンダム試作3号機ステイメン

武闘家であるオーキスと合体して攻撃を行い、格闘時には脱出ポットになるべく開発された機体。しかしリアルバスターを装備するなど、単体での性能も高い。

■DATA

頭高18.0m / 本体重量41.6t / ジェネレーター出力2000kw / スラスター推力188000kg / 装甲材質ルナ・チタニウム / 武装・固定・ビームサーベル、オプション・ビームライフルほか / パイロット: コウ・ウラキ

腕部
オーキスから武器を引き出す必要があるため、2段式を採用

■コクピット・ハッチ

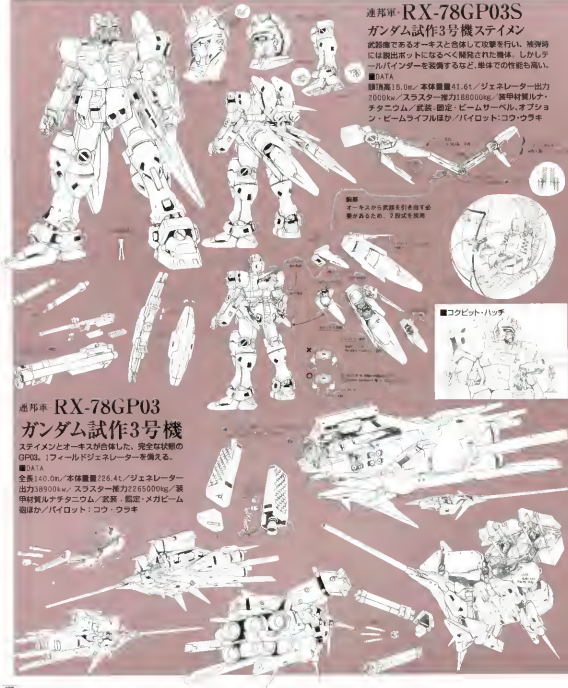
連邦軍・RX-78GP03

ガンダム試作3号機

ステイメンとオーキスが合体した、完全な状態のGP03。1フィールドジェネレーターを備える。

■DATA

全長140.0m / 本体重量226.4t / ジェネレーター出力389000kw / スラスター推力2265000kg / 装甲材質ルナチタニウム / 武装・固定・メガビーム砲ほか / パイロット: コウ・ウラキ



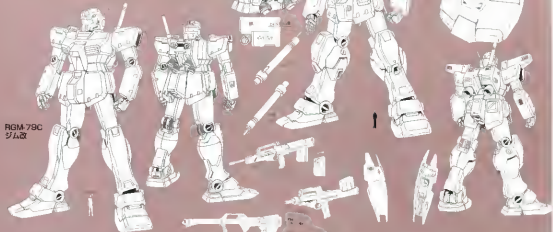
連邦軍・RGM-79・ジム改

何作、各種強化型が登場するGMだが今回はジム改とエース/パイロット用のジム・カスタムとの2機種が登場した。

■DATA

頭頂高18.0m/本体重量42.0t/ジェネレーター出力1420kw/スラスター推力67480kg(以上、GMカスタム)

RGM-79N ジム・カスタム

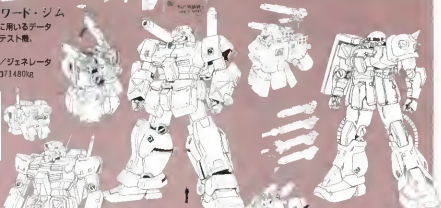
RGM-79C
ジム改

連邦軍・RGM-79・バード・ジム

新ガンダムGPシリーズの設計に用いるデータ採取用に、数機だけ作成されたテスト機。

■DATA

頭頂高18.0m/本体重量46.6t/ジェネレーター出力1650kw/スラスター推力1480kg

連邦軍・RGC-83
ジム・キャノンII

問題があったため、ほとんど生産されなかったジム・キャノンの後継機。増加装甲を装着している。

■DATA

頭頂高18.0m/本体重量47.3t/ジェネレーター出力1420kw/スラスター推力59480kg



MG-06F2 連邦軍仕様ザクII

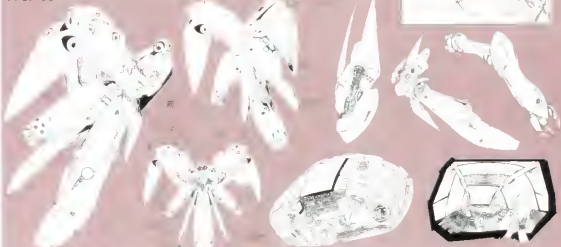
一年戦争終結後、連邦軍はシオン軍から多くのモビルスーツを接収したが、その一部は戦況を考慮して廃棄された。

デラース軍 AMA-X2 ノイエ・ジール

アクシズからデラース軍に譲渡された、ヒーム攻撃に主眼を置いた試作モビルアーマー。オールレンジ攻撃が可能だがサイコミュは搭載していない。

■ATA

全長16.6m、本体重量98.2t ジェネレーター出力75800kw スラスター推力1938000kg、武装 固定・メガカノン砲、有線クローアームほか、オプションなし



シーマ艦隊 AGX-04 ガーベラ・テトラ

シーマがアナハイム・エレクトロニクスから譲り受けて入手した最新鋭機。外観はジオンのもののようだが、実はガンダム試作4号機とも呼べる機体。

■DATA

頭頂高18.0m、本体重量46.7t/ジェネレーター出力1710kw/スラスター推力216000kg、装甲材質ルナ・チタニウム、武装・ビームマシンガン

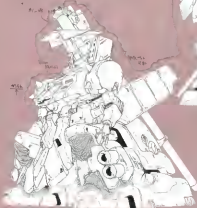


旧ジオン軍・YMS-16M ザメル

折り畳み式の大口径カノン砲を持つ、移動砲台とでも呼ぶべき機体。

■DATA

全長27.0m/本体重量75.0t/ジェネレーター出力1080kw/スラスター推力61800kg



デラーズ軍・MS-21C ドラッグフェ

デラーズ軍が生産したオリジナル・モビルスーツ。とはいえ、ザクとガトルの再利用品。

■DATA

全長29.8m/本体重量23.9t/ジェネレーター出力596kw/スラスター推力117500kg



■コクピット(前)



■コクピット

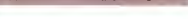


旧ジオン軍・MA-06 ヴァル・ヴァロ

ケリィが隠していたもの。アッザム・リーダーを発展させた、プラズマ・リーダーを装備している。

■DATA

全長68.0m/本体重量254.1t/ジェネレーター出力26030kw/スラスター推力710000kg



旧ジオン軍・MS-06F2 ザクⅡ F2型

ザク・シリーズの中で最も評価の高かった06Fに、さらに改修を施したモデル。右の兵装はドム・トロローベンと共通して使用。

■DATA

頭頂高17.5m/本体重量49.9t/ジェネレーター出力986kw/スラスター推力53400kg



旧ジオン軍・MS-09F/TROP ドム・トロローベン

デザート戦仕様でドム。防塵フィルターなどの砂塵対策が施され、冷却システムも強化されている。

■DATA

頭頂高18.5m/本体重量44.8t/ジェネレーター出力1199kw/スラスター推力47200kg



シーマ艦隊・MS-14FS ゲルググM(シーマ用)

旧ジオン軍の海兵隊に配備されていたモデル。ビームライフルやビームサーベルの使用が可能。

■DATA

頭頂高19.2m/本体重量40.5t/ジェネレーター出力1490kw/スラスター推力89500kg

デラズ軍・MS-09RⅡ リック・ドムⅡ

リック・ドムのあらゆる性能を向上させた機体。大戦末期に生産が始まったため、極めて少ない。

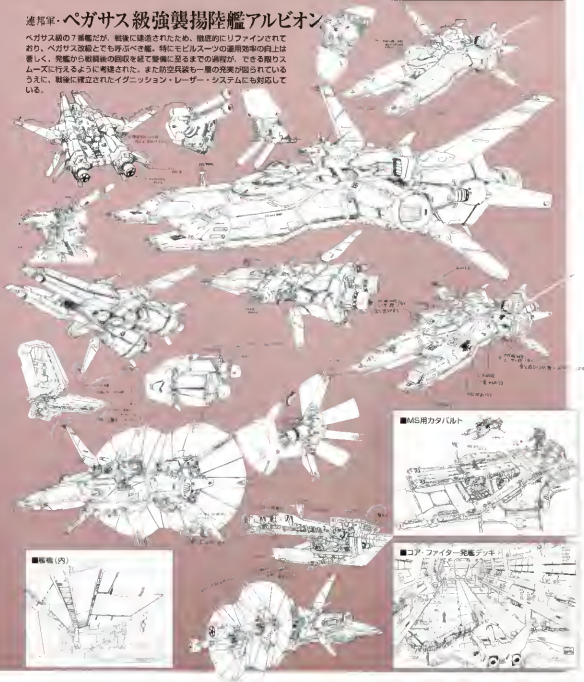
■DATA

頭頂高18.6m/本体重量45.6t/ジェネレーター出力1219kw/スラスター推力110000kg



連邦軍・ペガサス級強襲揚陸艦アルビオン

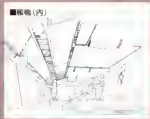
ペガサス級の7番艦だが、戦後に建造されたため、徹底的にリファインされており、ペガサス改級とでも呼ぶべき艦。特にモビルスーツの運用効率の向上は著しく、完艦から戦後後の回収を経て整備に至るまでの過程が、できる限りスムーズに行えるように考案された。また防空兵装も一層の充実が図られているうえに、戦後に確立されたイグニッション・レーザー・システムにも対応している。



■MS用カタパルト

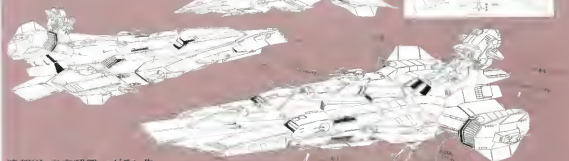


■艦橋(内)



連邦軍・大型宇宙戦艦バーミンガム

地球連邦政府の力を誇示するための艦艦式に合わせ
て運用した、旧ジオン軍のグワジン級にも匹敵する
大型艦。いまだ完全には、大艦巨砲主義からの烙印
が図れていないようである。



連邦軍・宇宙戦艦マゼラン改

主推進器が強化され、対空兵装も増やされている
しかし一年戦争時に艦隊の中軸としてとして運用さ
れたものの、その多くが撃沈されたため軍再建計画
の中では軽視されており、後にほとんどが退役する。

連邦軍・ベガス級強化揚陸艦
グレイファントム

アルビオン以前に建造されたベガス級強化揚陸艦
艦。こちらはまだ、ホワイトベースとあまり変わら
ない構造をしており、アルビオンでは上部甲板に移さ
れたモビルスーツ発艦カタパルトの位置も従来通り。



連邦軍・宇宙巡洋艦サラミス改

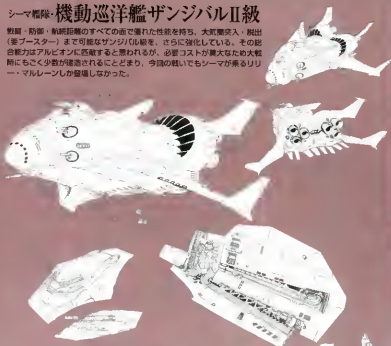
あまり変更が見られないマゼラン級に対して、戦
術的な防空能力の強化が行われている。サラミスの改
造タイプ。

連邦軍・宇宙輸送艦コロブス改

連邦軍が保有する輸送艦の中で、最大輸送容量を
誇る。そのため複数建造されていて、その中の1隻は
ノーラ・システムII制御用の専用艦に改造された。

シーマ艦隊・機動巡洋艦ザンジバルII級

戦闘・防御・航続距離のすべての面で優れた性能を持ち、大気圏突入・脱出（亜ブースター）まで可能なザンジバルII級を、さらに強化している。その総合能力はアルビオンに匹敵すると思われるが、必要コストが莫大のため大戦時にもごく少数が建造されるにとどまり、今回の戦いでもシーマが乗るリリィ・マルレーンしか登場しなかった。



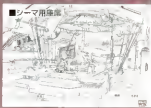
■ブリッジ



■ブリッジ2

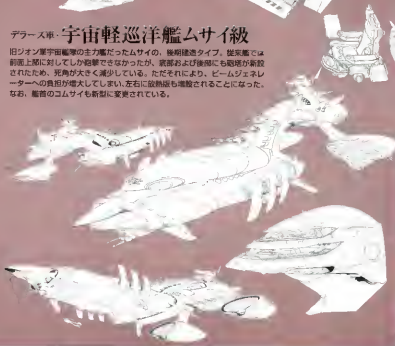


■シーマ用座席



デラース軍・宇宙軽巡洋艦ムサイ級

旧ジオン軍宇宙艦隊の主力艦だったムサイの、後期建造タイプ。従来艦では前面上部に対してしか砲撃できなかったが、底部および後部にも砲塔が新設されたため、死角が大きく減少している。ただそれにより、ビームジェネレーターへの負担が増大してしまい、左右に放熱塔も増設されることになった。なお、艦首のコムサイも新型に変更されている。



■ブリッジ



■MS格納庫



ゲストメカ

コマンド・ビートル

モビルスーツの戦闘時に用いられる。連邦軍の指揮・監視・データ収集用車両。トリントン基地に配置されている。



MS運用用ホークフット

ユーコンから発達した地上戦闘用モビルスーツを、陸地まで移送するのに用いていた。コウピットもあるが、サブ・フライト・システムと四脚のように、モビルスーツからのコントロールも可能ではないかと思われる。



四脚時状態
(1/100スケール)

ミデア

一年戦争終結直前に、カンタムNT-1を北極星まで輸出したのに貢献した。ライプワース軍輸送機。



宇宙砲搭載

機体室の壁面に宇宙砲を内蔵。多量の推進剤を貯蔵。

ユーコン改

ネオン軍の汎用遠距離偵察に用いられるモデルが多量に存在した。

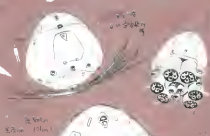


コムワイⅡ

特殊なムサイに準拠されている大型コムサイの、大気圏突入用ブースター装置状態。ハナチガフルオープン前に変更されている。



■H-LV内部



H-LV

旧式の重機体打ち上げロケットで、正式名称はHeavy Lift Vehicle。大気圏突入カプセルとしても使用可能。ネオン軍機内偵察が占拠するキャンパライト基地に、1機だけ残っている。



防空用戦闘人工衛星

地球防衛圏に多数配備されている。連邦軍の無人兵器。3基レーザー戦と、2基のミサイルボットを装備

監視船

コロニーの移動に同歩している。コロニー会社の監視用兵器

偏航輸送船

アークス軍が使用。多数の部隊が、異物コンテナに積載されている

ソーラ システムII

ソロモン衛星群の中心に据えられたものは、折り畳み式のミラーだったが、準軍事力の有状のものに改造されたため、反射率の指標が減少している

キレンの胸像
ブラス・フロントの胸像がクアン内蔵に飾られているもの、ブラス文装が強く、恐ろしいまでのグリーンへの染み入りやがえる

連邦軍制式拳銃
アムロたちが用いたのと同じもの、モデルヌーンの機庫にもある

旧ジオ軍制式拳銃
連邦軍のものとはほとんど、異なる化されているように見える

ミラー保護装置

機庫式衛星に据えられて受け取れた、真の“星の塵”作戦にて使用。破壊する2基のコロニーの塵心を守るために用いられた

■コマンド・ビートル(内)

■コマンド・ビートル(内)

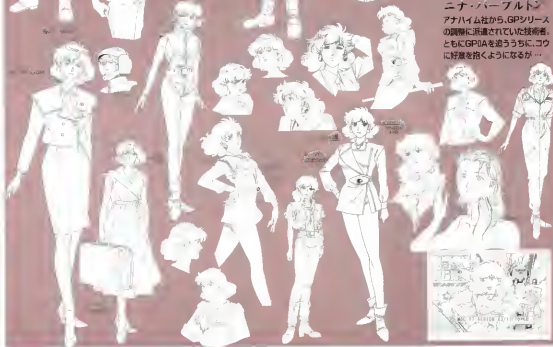
コウ・ウラキ

トロント基地での訓練中にカ
トラーの襲撃を受け、そのとき
GP01に搭乗したことから、そ
のメインパイロットとなる



ニナ・バーブルト

アナハイム社からGPシリーズ
の訓練に派遣されていた技術者。
ともにGP01Aを追ううちに、コウ
に好意を抱くようになるが...



チャック・キース

コウの同期のパイロット仲間。



星野憲のキース
機嫌の悪い「性
格」で、当初は二
人にこなをか
けていたが、い
つの間にかそ
うと思われな
っていた

エイバー・シナプス

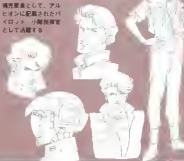
真面目な性格のアルビオンの艦
長。だがそれゆえに彼は疎まれ、
秘密の艦隊を運ぶことになる。



エイバー・シナプス
艦長

アルファ・A・バート

補充要員として、アル
ビオンに配属されたパイ
ロット。小隊指揮官
として活躍する



チャップ・アテル

バートやモンシア
とともに、アルビ
オンに補充要員と
して配属された



チャップ・アテル
パイロット



モロー・バシット
パイロット



モロー・バシット

アルビオンの整備班を率いるだ
けあって、剛毅な性格の女性。
だが繊細な部分も合わせ持つ。



サウス・バニング

コウたちの部隊の上
官。トリントン基地
の機務班も、ともに
アルビオンに乗り込
んで、戦い場を導く



ベルナルド・モンシア

OPRのパイロットの弟とニ
ナを思うが故に、コウに準
いながら勇敢な兵士

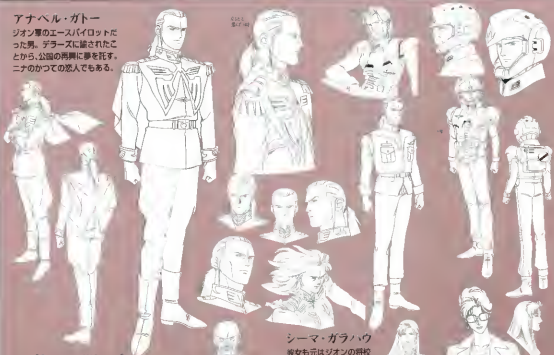


◎デラース軍メン&サブキャラクター

アナヘル・ガトー

ジオン軍のエースパイロットだった男。デラースに譲られたことから、公国の再興に夢を託す。ニナのかつての恋人でもある。

0103
5/140



エギーユ・デラース

ギレンの元で戦い疲れた、元ジオン軍大佐。部下たちの彼への信頼は厚く、それがデラース軍の結束の原動力になっている。

シーマ・ガラハウ

彼女も元はジオンの将校だが、デラースのような主義主張は持たない利己主義者である。



ポプ

ガトーと一緒にザメルに乗り込んで、アルビオン脱走を助けたパイロット



アダムスキー&ゲイリー

アラス軍パイロット、ドム・トロペンに乗り、ガトーの指揮するGP02と戦った。最終作戦に参加してはい



ドライゼ

ガトーたちのトリントン基地への帰還を支援した、ユーコン0821の艦長



ノイエ・ピンター

ガンバパイロット。基地に連れ戻された。ノイエ軍の指揮官。GP02を宇宙に上げるために奮戦する



ウォルフガング・ヴァール

宇宙で調査中。ガトーの部下。彼の死後、命令を守って連戦に参戦する



フィッシュ・フーデル

ガトーを倒した。アラス軍の指揮官。アラスに送り届けられた。ユウ・ユウの艦長。ガトーの部下でもあり



ローフ・コンセル

戦線より早く戻り歩くとする。ノイエ軍の指揮官。あること。阿呆い



ユーリー・ハスラー

ハマーンの部下に就いた。ノイエ・メーデルを率いて「星の戦」作戦を見届け人としてアラス軍に派遣された。アラスの将校



カレ・ス

一連の作戦中、ガトーの部下として参戦し続けている。非常に実直な兵



フルト

ノイエ軍の将校。アリスのシャックルを助けていた。アリスが身の上。たが



キンバライト基地の兵士たち

キンバライト基地の兵士たち。新しい兵士も入隊に連れて来られ、新しい兵士も入隊に連れて来られ、新しい兵士も入隊に連れて来られ



■ジオン軍階級表



■ジオン軍階級表



◎その他サブキャラクター

バグン・ハワロフ

11ヶ月前のアルビオン
軌道研習士官 機転を得意



アクトム ハルタ

戦艦を指揮するアルビ
オンのブリックロー、そ
のためバサロフとともに
戦っている

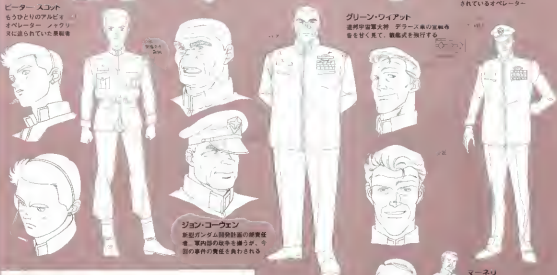
ウィリアム・モーリス

シナプス戦艦を操縦する
ブリックローのひとり、
攻撃部隊で、滅亡に
直面した妻と見えない

ジャクウェス・シモン
機動シナプス戦艦に配置
されているオペレーター

ピーター スコット

もうひとりのアルビ
オオペレーター ナック
スに送られていた乗組員



ジョン・コーウェン

新型ガンダム開発計画の総責任
者。軍内部の戦争を繰うが、今
回の事件の責任を負わされる

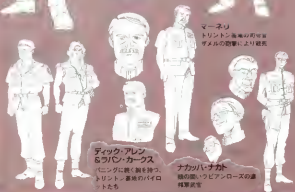
グリーン・ウィアット

連邦軍空軍大尉 デラース島の空戦中
を甘く見て、戦艦式を飛行する



連邦軍艦級表

艦名	艦長	乗組員	備考
アルビオン	バグン・ハワロフ	11ヶ月前のアルビ オンの乗組員	
ブリックロー	アクトム・ハルタ	戦艦を指揮する	
シナプス	ウィリアム・モーリス	シナプス戦艦を操縦する	
デラース島	グリーン・ウィアット	連邦軍空軍大尉	
ジャクウェス	ジャクウェス・シモン	機動シナプス戦艦に配置されているオペレーター	
ピーター	ピーター・スコット	もうひとりのアルビ オオペレーター	
ジョン	ジョン・コーウェン	新型ガンダム開発計画の総責任者	
ディック	ディック・アレックス	ベニングに続く艦を持つ、 トリントン基地のパイ ロットたち	
ナカソ	ナカソ・ナカト	緑の艦、ウビアンローズの連 邦軍士官	



ディック・アレックス

ベニングに続く艦を持つ、
トリントン基地のパイ
ロットたち

ナカソ・ナカト

緑の艦、ウビアンローズの連
邦軍士官

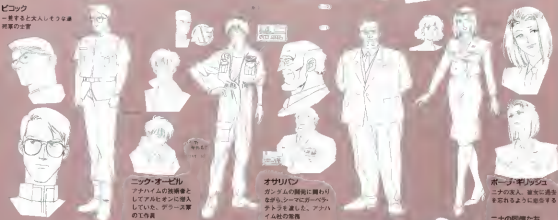
ケリィ・レスナー

は胸をきつめつたヴァル・グッロを両方しようとする。ゴターの設定



ピコック

一着すると大人しそうな
將軍の士官



ニッケ・オービル

アナハイムの技術者としてアルビオンに導入していた、デラース軍の工員

オサリバン

ガンダムの開発に関わりながら、シームにガーベラ・テトラを運んだ、アナハイム社の密使

ルセット・オナビー

口紅の商業責任者。商業
をわけていた機嫌をコウ
に託す



フレア・ハクセル

ニテたちの上司、GP
シリーズ開発を指揮し
ている人物

ボー・ギル・シロ

ニナの友人。彼女に過激
を犯るようになりする

ニナの同僚たち

アルビオンの入港を聞いて
駆けつけた、アナハイム
の女子社員たち。なぜ
か美人隊。

ファム・ファタル=ララの登場。ララはアムロに「キレイな目をしているのね」と言う。「ブレンバード」では、ヒロインの比喩がブレンを見て「かわいい目をしている」と言うのだが、初対面で顔を覚えるロマンチズムも、また面影癖のひとつなのか。ララの目は、瞳孔の光がなくて感情の読みにくい不思議な目。これは「イデオン」におけるバフ・クランの描写につながっているが、実はそれ以前の「ダイターン3」でもクロスというキャラクターが色トレスで顔に光のないキャラクターとして、美彩を放っていたのだった。

敵艦同志が隣にたまる中立地帯の皮肉に熱くなるハヤト。こういう感情を、後半になっても丁寧に描くことを怠っていない。なんだか、だんだん戦争を遠くで手いっぱいになってきたかなという印象もあるのだ。

今回もまた、かつて非情だった父の哀れに傷つくアムロ。劇場版の「めくわい宇宙」や、小説「密会」(角川書店)でも描かれていたが、テム・レイはアムロと別れたあと、ガンダムの黒い羽をテレビで見て高揚した気分のまま、階段から落ちて死んでしまう。これを救いと見るべきなのか? テム・レイの至親ぶり、哀れな科学者のようすを追真に満ちて演じた声優・清川元夢の聲は、近年紫色に染められていて、とてもキャラクターに似ているのが印象的だ。

そして、シャアとアムロの出会い。シャアの芝居がかかった動きは、いつみてもツッコミ甲斐がある。アムロの非礼をたしなめているが、人に名を問う前に自分がまず名乗れよーとが言いたくなる。いつも彼だけ舞台上の人物を見ているような印象なのだが、そういうアクセントの付け方に、エンターテインメントを意識しているのを感じる。見栄をさるロボットもののパターンといい、新々と受け書かれる歌舞伎的な作法を、近年排撃しようとする演出家もあるのだろうけれど、日本人の伝統芸?としてこういうものは残してほしいと思う。

さらにカムランとミライとスレガール。サイドBを出るときに盾になることを申し出るカムランに、その本気ぶりをなじるミライ。そしてミライを愛するスレガールという、なんだかメロドラマチックな展開に。モチモチのミライ。ぼやぼやしている間に、彼女ととられちゃうブライトとはにくく倒れない。

サイド6を出るホワイトベースを、境界ぎりぎりまでコンソングが攻撃を開始した。異常に感覚が発達したアムロは、脅威の勢

いでドムを倒していく。変化がわかりはじめていた。

第35話「ソロモン攻め戦」

サイド6から出たホワイトベースは、輸送艦コロプスから補給を受けたのち第3艦隊と合流、ドズル中將率いる宇宙軍ソロモン攻略の先鋒をとるようになった。ジム、ボール、モビルスーツの大群、地球防衛軍突撃艇バブリク、ジオン軍ガトル敏精機などの壮大な宇宙戦が展開される中、ハヤトは負傷。連邦は新兵器ソーラ・システムでソロモンの第6ゲートを攻撃し、内部に侵入。その頃シャアは捜索に急いでいた。

いよいよ本格的な難題のはじまり。作品世界では当然深刻な展開なのだが、見ているほうは無数の戦闘艦艇、モビルスーツが宇宙を運んでいく様にも心奪われてしまう。ビーム弾までがショーのスポットライトのごとく美しく思える。またカイの「セイラさん、愛してるよー」のちゃかしたセリフは、戦場の緊張とか信頼感がまったりと込められていて耳に残る。ハヤトが負傷したとき、難儀なのに一瞬かっこボヤーンとしているのが逆にリアルな感じを受ける。

この回の意外なチェックポイントは、最後までミライに未練を見せるカムラン。やけにいてないに描かれたキャラクターだが、資料監督はロマンアルバム「機動戦士ガンダム」(徳間書店)で、カムランにだけ「愛してる」というセリフを放棄にはかせていたと回想している。描くうちに大切になっていったキャラらしい。「結局、カムランの存在あたりから『ガンダム』って出発しているんです。随の主人公かもしれませんね」とまで書いている。ガンダムの物語というのは男に対して、すがってものからしっかり自立しようよということに終始するってことなのでしょう。案が深いとしか言いがありません。それに比べてアムロは「私たちとは違うのよ」(フラウ)と言われるほど、ドンドン変わっていくのだった。

それから、気になるキャラクターはマサキ軍曹。ミライにチョコイ似の女性。サンマルコさんは今回も黒ブチメグネで登場。ドズルの美人な奥さん、ゼナも登場。子供のミネバは母似でよかったと視聴者をホッとさせた。「行け、ゼナ。ミネバと共に」というドズルのセリフを聞くに、ジオンの人たちは芝居がかかった同僚性なのかと思ってしまうけど、そのミネバには「Zガンダム」で、最愛なキャラクターとして再び会える。



ファム・ファタル
運命の女、青い目の女。フィル・ネワールの秘書やハードボイルでも、裏では、秘密をばくち屋を運営させる密女として描かれる。セラッパでなくセイトでも、あめいもミライも、ファム・ファタルだったと思えるかも知れない。



ショーのスポットライトのごとく「Zガンダム」でも、イオンガンダムでも、シャアをばくち屋にしようとする。青い目の演出が裏に隠れて、でた瞬間にだてて、敵軍、敵軍の人間が死んでいっているのだから。



マサキ軍曹
ホワイトベースの機師兵で、おそくスレガールと結婚。ジブアールで戦死したものと描かれる。映画「めくわい宇宙」では新合シーンに登場している。



最愛なキャラクターとしてこの回はまだ乳歯が芽生えたと思える。ミライ、ザビ、Zガンダム、Zガンダム、ジオンの機師兵サンマルコとして再登場するのは、母が宇宙に飛べたらうわ。



ドズルの登場シーンに、人面となくデモン像の五・ゼンギンに似ていた風が……



サイコミュ

フナガン艦隊によって意識された、一機の試験機を操縦。ニュータイプの能力をバスの例で例示して見解し、ビストなどの前線ビーム兵器を獲得することができる。このシステムが、ニュータイプ戦士の特殊・兵器・兵器の対比性によって生まれたと見られ、さつうの人間に押し付けられるのではなく、人間と機械の新しいプラットフォームと見られる。

第36話「恐怖! 機動ビグ・ザム」

ドズルは、大型モビル・アーマーのビグ・ザムに乗って連邦軍を迎え撃つ。Gアーマーに乗ったスレッガーが接近戦で奮闘するが、壮絶な最期を遂げる。ガンダムのビームサーベルが、Gアーマーの攻撃で損傷を受けたビグ・ザムを貫く。その刹那、ドズルが見せたすさまじい闘志にアムロは恐怖する。

ソロモンは落ちたが、またひとり大切な仲間スレッガーを失ってしまった。戸田重子の歌う「今はやすみ」が優しく、哀しく宇宙にこだまする。ミライとスレッガー。闘いの中でふとあれあう想い。なくられて参ってしまうミライ。強い男に女は弱いのでしょうか。「今の気持ちを表さないほうがいい」と忠告するスレッガーって、大人のようにミライの中にお母さんを見ていたのかもしれない。アウトローとして生きてきた強者も、やっぱり人の子だったということ? ミライに声をかける今回のプライトは、少し成長したようすで登場。ただ、戦闘中に「俺はいつまでも待てるよ」はないだろう。とはいえ、やがてふたりは結ばれる(Ζガンダム)わけだから、すべてはスレッガーのおかげなのかもしれない。

ところで、ドズルの思念が形をとって悪魔のように見えるシーンは「デビルマン」のよう。以後、ララァとアムロの心の邂逅などで使用される表現の試験的なものかと思うが、ちょっと違和感っぽい感じは否めない。ここで「ジオンの栄光、この俺のプライド」と叫ぶドズルって、決して闇というわけではないと思うから。ここはアムロが怖がらなくてはいけないという点で、闘いさの出現表現だったようだ。

第37話「テキサスの攻防」

ソロモン戦で脱出した艦隊の掃討をしていたホワイトベースは、暗黒空域テキサスにてマクベのガンムの攻撃を受ける。その頃、同じくテキサスにはシャアとララァがおり、フナガン艦隊でのサイコミュの最終テストをおこなっていた。ガンダムとガンムが闘う中、シャアはゲルググの試作品で加勢に向かい、ララァはその闘いを見守る。マクベはシャアの応援を拒否し、一人で闘うが、ガンダムの性能というよりアムロの力の急速な進歩には追いつかずビームサーベルにやられる。そのとき、アムロとララァの共鳴がはじまった。

ソロモン戦が終わり、ひとときの休息を得るクルーたち。舌で健康状態を見たり、命びろいあとのいいお風呂があったり、「病人の格好というものを」をハットが強いられたり。プライトはミライに「闘き役」を申し出て、アムロとフナワも久々にゆっくり語り合う。それぞれキャラクターのこれからが、こんなさりげない行動からみえてくるような、演出のきめ細かな回。「こわいくらいにたまくになった」とフナワに言われるアムロは、マクベのごさかい作戦など、いとも簡単に驚くほどに成長している。

「大佐が私の心をさわった感じなんです」「父親はやめにしてくれなさいか」というララァとシャアのやりとりも、なかなか深いものがある。以後も彼らの大人な会話は続かれ続けるが、そんなふたりの関係に、アムロという存在が介入することで、事態は不得な方向へ。ラストの、アムロとララァの共奏を示す金属音は、ナイスチョイス。また、こんなにもしリアスな展開なのに、マクベの騎士風なモビル・スーツや意にくだるくだりなどは一貫してユーモラス。ガンムの中世騎士風なフォルムって、ターンAガンダムの走りなのでは?とも思えた。

第38話「再会、シャアとセイラ」

テキサス・コロニーでの戦いと再会のドラマ。しかし、あんなにひどい砂嵐なのに、ララァはヘルメットも着せず、いつものヒラヒラの服で平気なのはニュータイプだから? 「アムロは大丈夫、生きているわ」と確信するミライ。台本では「マテルダさんのときもわかった」というようなセリフもあったが、これはカットされている。失うものが多い人ほど寛量していくのだろうか。シャアとアムロの闘いは「シャア、読めたよ」と、アムロに歩があるが、ガンダムの反応がアムロに追いつかず、かろうじてダミーの標的を記してシャアは退却する。

そして「やることで筋違いじゃなくて?」。セイラと、シャアの再々会。無縁ふたりの秘密を聞いてしまうプライト。セイラはプライトが知っているのをわかっていて、わざと会話を続けていたのか。そのあたり、気になるところだ。デラミン率いるチベ、ムサイ艦をホワイト・ベースと共に討ち取ったマゼランだったが、ホワイト・ベースがテキサスにガンダムを押しにしている間に、ザンジバルに攻撃され、乗る。シャアが逃したセイラ児の金塊が宇宙に漂い、セイラは涙する。ラストのナ



マクベは手裏剣のロックの本を指し、シェイクスピア「マクベス」からのネーミングであるとか。機動の重宝をもったキャラクターで、機動の重宝の持ち主。TVシリーズでは「ウラナ」の機動をキリッアに奪取されてくれ、あれはいいい(のん)という名をリブを演じて死んでしまったが、機動機はマゼランとつながり、ソロモンから機動に放出されている。その後の高機動とつながり、それをどこかで新機動コロナードとしての存在を全うしたのかもしれない。

EPISODE CHECK MOBILE SUIT GUNDUM



**ソーラ・システムと
ソーラ・レイ**
似たような名を持つが、両者はまったく別物。連邦のソーラ・システムが数億万機のミサイルを撃って木星を襲い、ソロモンに照射した黒光兵器であるのに対し、ジオンのソーラ・レイは、コロニー1號を丸ごと改造した巨大なレーザー砲である。

[illegible]

のレビル將軍と和平交渉を行うべく、みずから動いた。同じく、ギレンは国政を秘めてソーラ・レイを稼働させる。

この辺りの作中で感心するのは、実写と同じように、ちゃんと
後ろのピンを抜いたりしているところ。

シフトを気にするブライトにまかせましょ、というミライ。そんなミライのようすにも革新的片鱗を感じるもののあるブライトという描写も緩やかだ。エルメスをとんがり帽子と呼ぶゼンスはグッド。ホワイトベース=「木馬」といひ、愛称(?)の付け方がナイスです。出撃時にカイが「俺たちの痛ところ」がなくなるんじやないだろうな」とつぶやく。痛れるところ、は弱點としても重要なセリフである。ちびちゃんたちも子供用のノーマルズーツを着用してもっているのは、これらのハードな戦いを暗示しているのか?

後半は、再びガンダムとエルメスの闘い。

ララは、家族も放牧も、守るべきものが何もないアムロの
生き方を指摘する。そんなララは不自然だと、ララの発想
の強さ。ここまで来ているのに、互いのモチベーションは合
致しないのである。ガンダムがずっと描いてきた人間同士の
わかりあえなさが、ここにきて集約された。

シアアのゲルクグ、セイラの乗ったロワイターも入り乱れて、スピード感あふれる戦闘シーンが、シューティングゲームの快楽と重なる。セイラの姿を見て、スキをついたジャアをガンダムにサーベルが真っ向とする刹那、エルメスがかばって入る。悲痛な叫びを強してララが散る。「人は変わっていくのね、私たちと同じように」「時が見える。」「今はおやすみ」の取返。「明日あたりは必死で、月に歸ろうは怖い」

ザンジバルとホワイトベースの壮絶な闘いに、ホワイトベースが勝利するも、とりかえしのつかないことをしてしまったアムロはダメージを拭えない。その一方で、ギレンはデギンのいる空域にソーラ・レイを照射する。

第42話「宇宙要塞ア・バオア・クー」

ギレンが放ったソーラ・レイで、その空域にいた連邦軍もジオン軍も壊滅状態となった。ギレンの独裁的演説が再びとどろく。「今こそ人類は明日の未来に向けて――」。

ホワイトベースは、ギレンの拠点であるア・バオア・クーでの最終総戦に向けて出撃する。ハヤトとフラウの新たな関係、

カイのいやらしい笑い方をとがめるセイラ。今や通称の取巻の核となったホワイトベースでは、不思議と連続したような空気が流れていた。「ガンバッチねー、倡じてるからねー」とカウ、バツ、メッカの無邪気な言葉が響く。

反対に、ジオン軍の内情は混乱状態。キシリアは、父親しのギレンを射殺、いっさいの指揮を自分がとると宣言する。かつこいいしーンだ。撃たれたギレンが艦内を回ろうのを見て「ギレン総帥じゃないのか?」とささやく部下の呆然とした口調もいい。こういってジオン側の事件で、一瞬防衛が甘くなったのを、密に察知するプライトも優秀な指揮官。でもニュータイプではないらしい。学生動員まで行われたジムやボールの大編隊と、すっかりたのもしくなったアムロ、セイラ、カイ、ハヤトたち。そんな連邦軍とジオン側の力の差は歴然としていた。そんな中、シャアはサイコミュの性能を取り入れたモビル・スーツ、ジオングに乗る。これはシャアの専用機中、唯一の赤くないモビル・スーツ。それだけ、もはや余裕などないということをも物語るのだろうか。足がついていないのをいぶかしがるシャアに「おんなの娘です」とエンジニア。しかし、このジオングって口からビーム出し続けるさまが、けっこうアマンガチックなんだとか。自分もニュータイプのはずだとあせるシャアと、アムロの剣決のときは近づいていた。

第43話「脱出」

ア・バオア・クーの激しい攻防が続いていた。「外からドンパチやったってラチあかないのよねえ」と元気なカイもたのもしい。そのカイと会話するハヤトも然り。しかし、エンジンをやられたホワイトベースは不調だし、白兵戦の体勢をとる。フラウ・ボゥも筆頭をとった。

アムロとシャアの闘いも続く。本当の敵はザビ家のはずなのに、シャアの心はもはややぶらう方向に向いていた、とにかくラアを救したアムロを討つ。ついにふたりは生身であいまみえることになる。ニュータイプといえども体を使った戦闘は訓練があるはず、と、フェンシングで戦うふたりに、セイラが割って入る。「ふたりが闘うことなんてないのよ」。

シャアの錯乱ぶりは、また悲劇である。こういうどうしようもない感情は、トリトン、ザンボット3、イデオン等々富野アニメを常に流れている。脱出まぎわのキシリアの前に立ったシャ

アの「ガルマ、私の手向けた。蜂となかよく暮らすがい」という捨てセリフ。誰が聞いているわけでもないのに、最後までこんなセリフで幕を落とすシャアのひねくれもの風合いは相当なものだ。セイラへの「いい女になるのだな、アムロ君が野んでいる」というセリフもさまざまな解釈を生んだ。セイラは結局、周囲に翻弄されるばかりのかわいそうなキャラクターで終わってしまう感じだ。

こうした、様々なやらせなさをあふれさせながらも、ガンダムのエンディングは一般の希望を残す。アムロのささやきで、ホワイトベースのみんなが救われるシーンに視聴者は大いにホッとした。「僕の大好きなブラウ」と語りかけるアムロに、人を想う大人の余裕が備わったのが感じられるのも嬉しい。しかも、締めはカツ、レッツ、キッカ。「小さな防衛戦」でみせた可能性がここで結実、3人の子供の力が芽生えるというみこみなストーリー構成には感服せざるをえない。

「僕には帰れるところがあるんだ」。涙するアムロ。けれど、ナレーションはあくまで涙々とひとつの出来事を締めくくる。「宇宙世紀0080。この闘いのあと、地球連邦政府とジオン共和国の間で、終戦協定が結ばれた」。

機動戦士ガンダムⅢ・めぐりあい宇宙編

TVシリーズ終了から、約2年の歳月を経て公開された劇場版3部作の完結編。30話のジャブローでのエピソードを回想シーンとして映しながら、31話以降、最終回までのストーリーを改めて語り直したもので、ニュータイプとして覚醒するアムロに焦点をあて、TV版のテーマをよりストレートに描いている。

TV版の後半、素気で降臨したアニメーション・ディレクター＝安彦良和がほぼ全面的に作画作業をやり直しているため、新作カットの量は3部作中、もっとも多い。それも、戦闘シーンが迫力を増しただけでなく、ブライトのシャツを縫うミライ（しかもサンライズ・マーク付き!）、シャアのキスを受けたあとのララの表情ほか、なげない部分にも気を配った描写が目立つ。さらに、セイラの入浴シーン、ギレンの美人秘書＝セシリア・アイリーンの登場、ガンキャノンやコバアスターの機体のマーキング、エンディングにちらりと見えるシャアラしき人影といった、映画版の余裕を感じさせるようなフ

ン・サービスの絵柄もあちこちに見られる。

その反面、あくまでTVシリーズと同じ内容であるため、打ち切りによって変更になる前の“本来のガンダム”の形を見ることはできなかった。かわりに、TV放送と平行して発行開始された小説版3部作では、その片断を伺い知ることができる。衝撃的なアムロの死、セイラとアムロのより密な関係性など、小説でしか描けなかった“大人のガンダム”を、富野健監督が改めてアニメ化したとしたら——あれから20年を経たいま、そんな空想をしてみるのも決して無駄ではないだろう。

機動戦士ガンダム第08MS小隊 ラスト・リゾート

完成したアブサスとの死闘で片足を失ったシローと、それを支えて共に戦場から姿を消したアイナ——。何となく衝撃的なラストを迎えた「08小隊」のエピローグとして発売されたOVA。冒険、ムサイから脱出する子供たちの緊迫感あふれるシーンから、シローの行方を探すミケルとキキの珍道中(?)。そして、ジャングルの中で暮らす少年たちとの奇妙な邂逅。さらに意外性十分で、同時にホッとさせるラストまで、戦争ドラマの醍醐味を満喫させてくれたシリーズのエピローグに相応しい内容になっている。結果が舞台になっているため、どうしてもベトナム戦争を連想してしまう部分もあるが、一方で、ジャングルのあちこちにモビルスーツや宇宙艇の残骸が転がっていたり、駐留している連邦軍兵士と物売りのやりとりなど、「ガンダム」の物語で初めて“戦後の風貌”が、きちんとした形で描かれた作品としても注目である。

なお、巻末付録の「宇宙世紀年表」は、『モビルアーマー開発 ジオンの野望2』と「一年戦争 終戦」の2本立て。



締めはカツ、レッツ、キッカ
アムロだけがまだ死んでいないと知り、眠るブライトたち。それを背景に、3人の子どもたちが「そう、ちゃんとね」「いい、そでね」「大丈夫だったさ」とアムロを祝福し、カウントダウンをするシーンだ。TV、映画版を通じて最も感動的なシーンのひとつである。いつかよくなって君がハロウの彼も微笑ましい。

第1話「戦場までは何マイル？」

'88年に発表された本作品は「ガンダム」初のオリジナルビデオ(OVA)作品であり、一年戦争を舞台にはいるが、作品の制作自体は「機動戦士Zガンダム」、「機動戦士ガンダム ZZ」のTV放映、「機動戦士ガンダム:逆襲のシャア」の劇場公開がすべて終わったあと、いわば富野監督によるシャアとアムロを中心とする「サーガ」としてのガンダムが、ひとまず完結したのちにつくられた「新しいガンダム」だ。

スタッフ的にも、現在「劇場版新作を準備中の高山文彦を監督に据え、モビルスーツのデザインを「デザインワークス」と称して出渕裕が旧ガンダムのデザインを「リファイン」する形で一新、キャラクターデザインは「超時空要塞マクロス」の美樹本晴彦がおこなう、という「機動戦士ガンダム」放映当時「受け手」だった世代が中心。そこには「ガンダム」の世界をより当時の「ファン」の嗜好にあったものへと再構築しようという意志が感じられ、特に、出渕が本作で提示したデザインの「リファイン」という方法論は、以降のビデオ作品でも受け継がれていくことになる。

また構成に、大人向け小説誌で「美琴地機動地動」というファンタジーを書いてデビューした小淵泰介の結城恭介、脚本に「王立宇宙軍」を監督した山賀博之という、サンライズや「ガンダム」とつながりの希薄な人達によるストーリーテリングは、これ以降のビデオ作品と比較しても際立って特異なものだが、それゆえに僕自身も含めて、この作品を鑑賞しているファンは多い。

主人公がサイド8に居住するなんの憂鬱もない小学生の少年であること、登場する「ガンダム」が「主役メカ」というよりは、単なる狂言回しの役目しか持たされていないことなど、およそあらゆる面でロボットアニメ的な「快楽原則」から大きく外れたこの作品の性格は、第一話冒頭のサイクロプス隊による連邦軍北極基地襲撃、という比較的「ロボットアニメ」的なシーンからすでに明らかである。そこで描かれるモビルスーツ同士の戦いの描写はおそらくカタルシスの無いもので、機銃照射によって穴だらけになっていくモビルスーツの装甲は紙のようだし、崩れ落ちるジムの姿はまるで人間の死に様のように見える。そこにあるのはスピーディでゲームのような戦闘シーンではなく、爽快感はほとんどない。

こうしたスティックなMS戦の描写は、第一話後半のサイド8のシーンではますます顕著になり、戦争を異世界の出来事のように考える少年の視点から仰ぎ見られることで、一種独特のファンタスティックな風景を生み出す。こうした無価値な戦闘がシリーズ後半、ストーリーの中で少年にとって一転して生々しいものへと変わったとき、その幻想性は歌さど、私たちにあって期満深いロボットバトルは、その姿や意味をまったく違ったものに変わってしまうことになる。

第2話「茶色の瞳に映るもの」

こうしたスティックな描写は、なにもメカニックのそれに限ったものではない。ストーリーそのものが説明的なナレーションやセリフによって声高に語られることなく、キャラクターの「芝居」によって淡々と描写されていく。第一話で、主人公・アルの成績や、両親との関係で示される彼の家庭内の危機的な状況、学校や街中でのお話からうかがわれる「サイド8」という場所の特殊な政治的位置付け、第二話でのキリング中佐とシュタイナーたちの会話から推察できる、彼らの軍組織内での立場とジョンの追い詰められた現状。こうした情報は、すべてニューシネマ座のそっけない描写によって語られるだけでなく、劇中において過剰に物陰られることはない。

おそらくストーリーを流すだけのものにするならば、せいぜい中篇小説一本分程度に収まるのではないかとと思われるこの作品が、30分5本、3時間映とという長さを経ていくものに不思議と感じさせないのは、この「丹念な描写の積み重ね」という静かな「ストーリーの語り方」によるものだろう。そこには物語だけではなく、確かに息づいている世界がある。

第3話「虹の果てには？」

この作品が語られる際には、よく「心震る」という形容がなされる。確かに第三話におけるジョンの新兵バーニィとアルが徐々に打ち解けていくくだりや、アルの隣家の娘、クリスとバーニィが少しだけ心を通わせるシーンなどは、一種「心震る」ものである。だが、よく観ていけば、それらが単純にハートウォーミングなものではないことが理解できる。

張り切るアルに押し切られる格好で、連邦軍の秘密基地と作戦目的である新型「ガンダム」を発見したバーニィは、自分た

ちの行動が発覚することを恐れるガルシアから隠られ、シュタイナーから叱責を受ける、あたりの探索行のあとにこのシーンが挿入されることで、彼らがしょせんアルを利用していただけであることが示されている。バーニイにしても、虚栄心からアルに小さな嘘をつくし、アル自身も彼がジョンに買入れるものは、すでに描かれている家庭の事情から目を背けるためかもしれない。そして、クリスは彼らが奪取を目論む新型ガンダムのテストパイロット、バーニイの「敵」なのだ。

こうやって示された現実、彼ら3人の気持ちだけが純粋であればあるほど、ひどく残酷なものだ。そして、その「残酷な現実」がこの作品における戦争なのだ。

第4話「河を渡って木立を抜けて」

第4話で、この作品はブレイクポイントを迎える。それまで虚構の平和を保ってきた「現実」はその醜惡な姿をあらわにしはじめ、この巻の最後でバーニイは仲間であるサイクロプス隊を失い、アルは戦争が自分が思っていたような「カッコいいもの」では無いことを知る。

その「彼と己の序曲」といううべきストーリーの中で、連邦軍基地への潜入前にガルシアがさびげなく見せるバーニイへの気遣いは印象深い。隊長のシュタイナーをはじめ、サイクロプス隊は自分たちのやっていることがほとんど徒勞でしかないことを知っている。その絶望的な状況の中で、バーニイがはじめて仲間として受け入れられるこのシーンは感動的だ。それに比して、本来このシリーズ全体のクライマックスになるはずの新型モビルスーツ同士との対決はひどく呆氣ない。スカレット隊もミーシャが操るケンパフアームも、ひどく簡単に敗れていく。しかし、ミーシャの死はもはやファンタジックなものではない。それはシュタイナーやガルシア同様、ひどく生々しい血まみれの残酷な死だ。

第5話「嘘だと言ってよ、バーニイ」

第5話では、もう世界はそれ以前とは違ったものになっている。ジョンのひどく深い裏路を知らされたバーニイは、もはやアルに嘘をついてやり続けることも出来る。アルは「本当の戦争」に心ならずも熱れてしまったことで、もう夢の世界に逃げ込むことができなくなってしまう。彼のヒーローだったバーニイ

は逃げ出そうとし、アルはそれをなじる。そこではクリスですら天使のままではいられず、戦争の現実を突きつけられ、苦悩している。

脆弱な虚構の世界が崩壊したとき、アルが逃げ出そうとしていた家庭の崩壊に再建の光が示されるのはひどい皮肉だが、アルとバーニイがもう一度戦うことを決意する第5話のラストには、「機動戦士ガンダム」最終話でアムロがつかんだものにも似たちっぽけな「希望」が存在するようにも見える。まだこの時点では少しだけ救いは残されているのだ。

第6話「ポケットの中の戦争」

今回、十数年振りにこの作品を見直してみて、自分がこの作品の結末についてひどい記憶違いをしていたことがわかった。クリスが最後までバーニイの正体を知らなかったことと、バーニイがアレックスに決戦を挑む前に、コロニーに核攻撃をかけようとしていた艦隊はすでに連邦艦隊に拿捕されていた、という2点について、なぜかこれと正反対の結末だったように記憶していたのである。

僕の記憶が正しい加減なせいもあるだろうが、あまりの結末にショックを受け、無意識に結末を修正して覚えていたようにも思える。この結末ではバーニイはまったくの無敵死にでしかないが、少なくともクリスが彼の正体を知り、核攻撃の脅威が存在すれば、彼はヒーローとして死んだことになる……だが「実際にはそうではなかった」わけだ。

僕は高校生生のときバイクの死亡事故にいきあたったことがある。血を流して道路に横たわるその同世代の少年の体はひどく現実味れて見え、僕はまったく同情心を抱けなかった。劇中でバーニイの死体を確認する人間がいう「ひでな、ミンチだぜ」というセリフは、もはやバーニイがそのような「モノ」として扱われていることを示している。彼が人間であったことを知っているのはもはやアルだけで、クリスは地球へと去り、「戦争は終わった」と告げられる学校でアルは泣く。「またすぐ戦争になるよ」と慰められながら。

この作品は徹頭徹尾ロイズムとは無縁であり、そこには数いなどにもない。ただ「残酷な戦争」だけがある。そして、そのようなテーマを「ガンダム」を通して描けたのは、じつはこの作品だけなのだ。

ニュースを
急にアメリカン・ニュースで、
1980年代後半から90年代初期
にかけて風潮的に流れた反ハリ
ウッド主義の映画観を促す。フ
レッシュな想像と鋭いスタンスに
よる自由な作風から、「戦線」「戦
たに戦いはない」「イーサー・ラ
イダー」「衛星中のカーボーイ」
「明日に向かって撃て」「ソルジャ
ーブルー」など、アメリカ映画の
あらゆるジャンルにおいて風潮の
新風潮の作り手はあふ出す。直撃
的な作風が読み直された、その多
くが反体制的テーマを扱い、道
徳主義にもよつて距離的なメタワ
ークや暗喩的な表現で、能力者、
あるいはアパルチッド・エンティ
グなど、我々の視線を惹きつける。

第1話「ガンダム強奪」

「GUNDAM CENTURY
〜宇宙を拓ける戦士達〜」

81年に雑誌「OUT」の増刊号として発売されたムック。佐崎潤一とスタジオ高松を中心にした「ガンダム」世界を志向した雑誌の存在が外見のみでとらえ、数々の設定を有象、無象にした断片的な内容で、いわばTVシリーズの最終版の最大縮小版である。ジオン叛乱、メカニック解説、オリジナル劇場版「ホワイトドーブス・タイプ」に並んで、新作スタッフのエンセイヤインクビュー、家庭会館で掲載されている。

本作は「機動戦士ガンダムF91」の公開と同じ91年に発売が開始されたOVAシリーズの第2弾であり、当時「90年代のガンダム」を模索していたバンダイとサンライズのマーケティング戦略が、ある意味でよくわかる作品でもある。

劇場版の公開後、TVシリーズでの展開が予定されていたといわれる「F91」の方向での新たなメインストーリー構築。当時すでに巨大なマーケットとなっていた、ガンプラを中心とした世界で形成されたガンダムの「コアユーザー」をターゲットとした商品戦略。発売当時は、この後者コア層へのアプローチがこのビデオシリーズの位置付けだった。

もちろん、こんなことは観客側にはなんの関係もないことだが、現在のユーザーにとってこの作品のもっとも重要なポイントとなるメカデザイナー、カトキハジメの参加はじつはこうした作品自体の位置付けゆえのものだ。この時期のカトキは、模型雑誌「月刊モデルグラフィックス」での連載企画「ガンダムセンチネル」のデザインによってファンの間で知られていた。彼と「設定協力」の名目でシリーズ前半に参加している。あさのまさひこ（「ガンダムセンチネル」で企画プロデュースを担当）のようなアニメ業界とその周辺から少し外れた地点に位置していた人間を、オフィシャルな映像作品のスタッフに積極的に起用した背景には、すでにこのころ「ガンダムのコアユーザー」が独自の文化を形成してきていたことが事情として反映している。これは「0080」における若手や外部スタッフの起用とは似て非なるものだ。

みのり書房から発売されたムック「ガンダムセンチネル」や「ガンダムセンチネル」のような雑誌企画、プラモデルなどを通じて、この頃すでにファンの間ではアニメーション作品としての「ガンダム」を越えた独自の「ガンダムユニバース」とでもいうべき世界が生み出されていた。「ガンダムのコアユーザー」とは要はこのユニバースを支えている層であり、カトキやあさのの起用はおもにこうした「ファンカルチャー」としてのガンダムへの目配りとしてなされている。

そうして作られた作品は「ガンダム対ガンダム」というファン・フェイバリットな構図を中心に、オープニングに顕著に見られる「機動戦士ガンダム（ファースト・ガンダム）」へのオマージュを随所に散りばめながら、ガンダムユニバースの歴史

の空白を埋めるサイドストーリーを描く、しつぽにファンシッシュ（ファン的）な作品に仕上がった。画面的にも川元利浩、佐野浩敏という「Zガンダム」以降の作品を支え続けてきたスタッフがその才能を全開にしたかのような高品質な作画を提供しており、まさに「ハードコアガンダム」。ファンの間でこの作品が愛され続けているのも、おそらくこうした作品の性格のためだろう。

第一話で提示される主人公ウ・ウラキの性格も、こうした作品の在り方に見合ったものである。なぜなら彼は登場時から軍人というよりはモビルスーツマニアのように描かれており、こうした彼の性格が「戦後」という時代設定をうかがわせるとともに、現実の「ガンダムファン」たちの姿と重なるように仕掛けられているからだ（もっとも、こうした性格付けは後半、徐々に希薄化するのだが）。

これに対してコウのライバルとして設定されているアナベル・ガトーは、どうもゴツゴツしたよくわからないキャラクターである。文語遣いの、文章にしたら旧版名使いなどではないかと思われるセリフをしゃべり、やたら陰謀や思想にこだわる、ほとんど戯画的な軍人として登場する。彼は正真正正に非常に感情移入がしづらい存在であり、その人間的な部分が見えてくるのはおもにシリーズ後半からだ。

この作品のストーリーはある意味で、この戦前派と戦後派のふたりの世代的な対立関係を軸に動いていく。その軸でプロログにあたるこの一話と二話は、彼らのそれぞれの価値観を丁寧に描くところからはじまり、直接対決によって、その違いを決定的に見せるところで終わっている。

第2話「終わりのなき追撃」

この作品の特徴としてあげられる点としてもうひとつ、これも「ファンシッシュ」な点だが、はっきりとは説明されないがその背後に膨大な量設定を感じさせる描写やセリフ量がある。たとえば、第一話の冒頭でのデラースの台詞には彼とキシリアの間に確執があることが暗示されているし、この一年戦争のシーンに続く、ジムとザクを使った訓練シーンでは、この時点で舞台となるトリントン基地がどのような性格の設備なのかを示されており、それ以降の展開とここでの描写を考えると、この時期の連邦のモビルスーツ開発計画がほんやりと

見えてきたりもする。

こうしたファンへ向けた細かいくすぐりの存在はもちろんだが、一方でこの作品固有の問題として、こうした設定部分へのこだわりが強すぎて、キャラクタードラマとしての部分が弱い、という点があげられる。要するに、シリーズを通してのキャラクター描写にかなり一貫性がないのだ。特に二ナの性格は劇後までよくわからない。二話におけるジープでの出奔にしても、どういう動機で、なにが目的なのかが見えていてもさっぱりわからない。

これに対してガトーは第二話ではだいぶキャラクターが固まってきており、相変わらず劇画的で感情移入はできないのだが、ジョンの再興という観念に固執した人物として強烈な印象を残すことになる。特に劇中で見せる組織後継でノノボリのコウとの会話は面白ものであるとともに、彼らの違いを際立たせ、ガトーのキャラクターを確立した名シーンだと思う。

第3話「出撃アルビオン」

第三話は、全体の構成の中ではインターラードという位置付けのエピソードである。モンシア、アデル、ペイトの以降アルビオン側でレギュラーとなる3人のパイロットが登場し、コウはガトーの襲撃の爪痕の濃い基地の廃墟で自分の無力さを実感する。この辺からコウが軍人として、パイロットとしての自分の責任に目覚めていくのだが、いっぽうでストーリーの進行にともない、当初あったかわいげのある部分が失せていき、徐々に彼にも感情移入ができなくなっていくのが見えてかなり辛かった（十話以降で見せる彼のガトーへの偏執的なまでのこだわりは、ほとんど理解不能だ）。

このエピソードではガンダムのパイロットの産を離れ、第一話に続いて訓練場を舞台にモンシアとコウの勝負がおこなわれるわけだが、この部分でのメカニック描写はさすがにこだわってくらわれている。パイロット同士の対立関係もファーストガンダムに比べ、より劇集軍人としての意地のぶつかり合いとして描かれていて、オマージュを意識しつつ新しいことをやろうとしていることがわかる。

第4話「熱砂の攻防戦」

これはこのシリーズ全体にいえることだが、この作品の高い

評価の理由である「ファンニッシュ」な部分は、逆に一般の観客にとってはこの作品をわかりにくいものになっている。とはいえ、こういう部分は作品の発表メディアの性格にもよるわけで、ビデオオリジナルで発売されたこの作品の場合、こうしたバランスで適当なのだろう。

その中でもこの第四話のエピソードはジョン側のキャラクター、ノイエ・ビッターの存在のおかげで非常に熱まった物語になっている。敗戦から3年間、地上にとどまり敗残兵をまとめ続け、ガトーたちの「星の真」作戦に希望を託して死んでいく彼は、全体に感情移入しがたい人物が多いこの作品の登場人物の中では、例外的なストレートに感情移入できる人物である。ジョンの敗残兵がアフリカでボロボロのモビルスーツを組み上げながら生き残り、抵抗を続けている、という設定も、「ZZ」でのロンメルが存在につながることを意識してのものだろう。よくできた美しい物語だと思う。

しかし、この話に限ったことではないが、モンシアの奮闘と行動はデタラメだ。ここでの経緯で彼もコウを認めるようになった、という展開になるのなら、まだ納得できるのだが、次の話ではまた元にもどってしまうのだから。

第5話「ガンダム、星の海へ」

このエピソードではアルビオンはすでに宇宙に出ており、第四話から一週間が経過していることになっている。しかし、その間経過はわかるのだが、星塵でコウと二ナがいきなりラブラブ状態になっているのにははつきりって面喰らう。しかも、その舌の絡みも軽かぬうちに、わけのわからない理由で犬も喰わないようなケンカをやらす。この辺、あきらかに観客を納得させるようなエピソードが不足していて、見ていても落ちつかない。

いっぽうでガトーはデラースと合流し、シーマも初登場する。このキャラクターはシリーズ中でも屈指の存在感をもった魅力的なキャラクターだと思えるのだが、特に彼の強いデラースやガトーと彼女の組み合わせは巧まざるユーモアを生んでいる。シーマ退場後のふたりの会話など、大マジメなものであるにも関わらず、笑える。

もうひとつ指摘しておくならば、無重力下での戦闘訓練やシーマにより撃破された後のガンダム集塵の描写などで、のち

アッザム・リーダー
 みたいな武器
 かつての機体製造、アッザムの
 機体ワイヤー（アッザム・リーダー）
 をとつてに考案されたのが、ダ
 ル・ゾロのブラズマ・リーダーで
 ある。同じように機体を造んで
 ぶつかるという設定だ。

コンバイトウ
 ソロモン空軍艦隊のあと、機体運用
 部に選取されたソロモンの新しい
 隊員。『2ガンダム』では、ア
 バ・ターが「ゼタン」の」と登場
 されて登場する。

に「星の屑」作戦の真相で敵軍になる「ハードSF的」な推考
 が劇中に登場してきていることか。このあたりからこの作品
 の志向する方向性がはっきりしてくる。

第6話「フォン・ブラウンの戦士」

この六話とそれに続く七話、元ジオンの軍兵で片腕のケ
 リィ・レスナーとコウの出会いと別れを描いたもので、舞台は
 月へと移り、特にはじめの戦北を経験したコウがケリィとの
 出会いによって立ち回り、パイロットとして再生していく様が
 描かれるこの第六話はシリーズ中でもっとも印象的なエプ
 ソードとなっている。

ガンダムの大壁に責任を感じ、月面都市フォン・ブラウンを訪
 ねるコウ。自暴自棄になった末のケンカ沙汰から、かつての
 ジオンのパイロット、ケリィに救われる。表裏的には反発しあ
 い、ぶつかりながら培われていくふたりの奇妙な友情。この
 メインプロットにからませて、連邦に協力しながらモデラ
 ス・フリートへも武器供与をおこなっているらしいアナハイム
 の動きや、月に上陸したシーマの集結、ようやくはつきりと語
 られはじめたニナとガトーとの関係などがうまく描かれてお
 り、作劇的にもシリーズ最高の完成度を見せている。

玄田昌章が演じるケリィは月面で新生活を築きながらも、戦
 士としての自分が忘れられない漢（おとこ）として描かれ、道
 を見失い思い惑うコウと彼の出会いは、ファーストガンダム
 でのランバ・ラルやククルス・ドアンとアムロの出会いを思わ
 せる。あるいはこれは第二話でのガトーとコウの対話を、より
 深化させたものかもしれない。戦後派の人間がモトリアム
 な状況にはまったところで戦前派の大人に出会い、導かれる。
 ケリィはコウにとって、その意味で「もうひとりのガトー」なの
 だろう。

第7話「蒼く輝く炎で」

第七話はケリィ編の後編であり、コウとケリィで修復したヴァ
 ル・ヴァロが予想通り悲劇を演ぶ。
 脱走間際に姿を消したはずのコウの登場後の環境への順応
 が早すぎる気には、ニナとコウの再接近はニナにかか
 るアナハイムからのプレッシャーを含め、非常に納得のいくもの
 だ。しかし、コウはこの年齢になるまで女を映画に誘ったこと

すらないのか？ このあたりは理解できない。

一方、ケリィがヴァル・ヴァロで付いて出る機体とガンダムに
 決闘を挑む心情は、第六話で彼のキャラクターがじっくり描
 かれているため、共感と呼ぶものとなっている。

どうでもいいことだが、ヴァル・ヴァロが積むアッザム・リーダ
 ーみたいな武器は宇宙空間での戦闘ではなんの役に立つの
 だろうか？

第8話「策謀の宙域」

第2部の開始編。シーマが連邦軍上層部と接触を回り、連邦
 がこれを利用しようとしていることを示すシーンがあり、ここ
 で連邦軍内部で進行するなんらかの陰謀の存在がはじめて
 暗示される。

コンバイトウで軍の勢力開示のためにおこなわれるという観
 艦式、そのためにコンバイトウ宙域に向かう連邦艦隊旗艦へ
 と接触しようとするシーマの艦隊、これを知り、旗艦の救援に
 駆けつけるアルビオン所属のモビルスーツ部隊。このあたり
 の描写で、後半への非常に高密度な伏線が引かれているのだ
 が、まだ物語の裏側で何が起きているかはよくわからない。
 このシーマの部隊との戦闘で、コウたちの導師であるバニン
 グは「星の屑」作戦の実態を知るが、その秘密を明かす前に
 ダメージを受けた彼の機体はアルビオンへの帰還途上に崩
 壊してしまう。このエピソードの冒頭、戦闘訓練でコウはは
 じめバニング編を破壊するのだが、このシーンはバニングの
 死を暗示するものになっている。コウにのりこえられたとき、
 彼は宇宙に消える運命となったのである。

しかし、この人、アルビオンのメンバーの中ではシナプス艦
 長と並んで、数少ないまともな人だっただけに、この果
 敢ない死に方は気の通ずる。

第9話「ソロモンの悪夢」

連邦軍によって強行される観艦式、その裏で一刻一刻と進行す
 る「星の屑」作戦、その作戦の実態が見えないまま、第3話
 ジオンの兵力の各個撃破に連れられガトーのガンダム2号機を
 追いかけるアルビオン。混乱に陥じて、自らが勇名を馳せた
 かつてのソロモン、コンバイトウへと迫るガトー。

周旋がデラース・フリートとの全面戦争へ突入したことによ

て、それまでのどちらかといえばのどかな描写とは異なり、不眠不休の出撃、極限状態の艦内、揮毫への時間とシビヤな描写が連続する。ストーリー的に第8話は第二部のプロローグ的な役割であり、前半の追撃を中心とした冒険小説的な展開から「星の肩」作戦の実体とその影に隠された、さらに機密な情報を巡るミステリ的な物語へと変わった第二部がはじまりを告げるのは実質的にはここから。

第9話のラスト、遂にガトーは集結した連邦艦隊へとアトミックバズーカを放つが、その閃光は第一部から続いた追跡劇の終幕を告げるとともに、真の謎と陰謀の幕開けを告げるものなのである。

第10話「激突戦域」

第10話で表皮的に中心となるのはガトーのガンダム2号機とコウのフルバーニアン最終決戦であり、そこでのコウとガトーの意地の衝突である。ストーリーの開始時には水と油のように異質な存在だったこのふたりだが、「照喝」というキーワードはさぞ、ほとんど相互理解のようなものを感じようになっている。彼らが相打ちになった機体から脱出し、短い運命を果たすシーンはそのことをよくあらわしている。

だが、じつはストーリー的に重要なのは、その影でおこなわれているシーマの指揮する艦隊によるコロニージャックの実行のほうである。これが真の「星の肩」作戦の第一段階だということ、ニナの手でこのエピソードの最後に鮮明に明かされる。この辺りバリバリにSFテイストが入ってきて「なるほど、こういうことがやりたかったのか」と思わせられたが、その反面、この辺りの隠蔽さは理屈先行でちょっと無理も感じる（無人なんだからコロニーを隠さなくても……とか）。

第11話「ラビアンローズ」

「星の肩」にはまだ先があることを予感したシナプスの命令で、ガンダム3号機を手に入れるためにドック艦・ラビアンローズへ向かうアルビオン。第二部にはこのラビアンローズの存在や、アクシズからの派遣艦隊の存在など「Z」以降を予測した記号がふんだんにばらまかれ、ファンのハートをくすぐるようになっている。その一方でキャラクターがどんどんバラノイックになっていくのだが、このエピソードのゲスト、アナハ

イムの技術者ルセット・オデビーはそうした重苦しい後半ではオアシスのように感じられる人物。ますます理由っぽく解き明かされる「星の肩」の謎（しかし、月面のレーザー加速機がコレの伏線だったのには割りと感心した）や性格が堂々といくニナやコウに対し、非常にナチュラルで人間味にあふれた部分を作品に与えてくれている……死んじゃうんだけど。

第12話「強襲、阻止限界点」

物語はいよいよ大詰めに入り、地球へのコロニー墜しを阻止するため大車輪の活躍を見せるコウの3号機とアルビオン、そこに三度立ち上がるガトーのノイエ・ジール。阻止限界点の存在により、コロニー墜し阻止のためのタイムリミットが設定されたことで、このエピソードは独特のドライブ感とサスペンスを獲得している。

シーマの裏切りや、連邦軍内部の水面下の陰謀などでやたらと話が複雑化してしまっているため、多少散漫になっているせいはあるが、全篇がメカアクションで展開するこの十二話が実質的なシリーズのクライマックスといえるだろう。

第13話「駆け抜ける風」

そして最終十三話だが、このシリーズの善悪がわかるのはこのエピソード、ことにラストに関してだろう。あまりに「ガンダム」的なラストだが、コウたちの行動がほとんど無駄であったことはまだしも、コロニーでのニナの行動はまったく理解不能である。加えてあのラストの笑顔に至っては……（この部分は'92年公開の映画版「機動戦士ガンダム0083:ジオンの残光」では少し違ったものになっている）。

対立する価値観を代表するガトーとコウがともに敗北し、もっと大きな力（具体的にはラストで暗示されるティターンズの結成）に飲み込まれていく様を描いたこの作品は、ガンダムという素材を使って自分たち独自の「戦争」観を描いた「0080」と違い、若いクリエイターたちがあつたけの能力を注ぎ込んで自分たちなりの「ガンダム」を描こうとしたものだった。それ故そこには致命的ないびつさもあるが、また、あらがいがたい奇妙な魅力を備えている。やはりこれは、よくも悪くも「ガンダムファン」のための作品なのだ。

Text by Hiroshi Odagiri (0080, 0083)

アクシズ「Zガンダム」より悪逆すべし小惑星。一年戦争時は資源として利用されていたが、ジオン軍の再発見がここに出たため、争奪がたびたび発生し、ついにはハマーン・ネー・ジオン勢力の拠点となった。

ティターンズ「Zガンダム」より悪逆すべし小惑星のエリアート部隊で、指揮官はバスクラム。ジオンの残党討伐を名目に組織されたが、設立当初は、地球圏における連邦の権力強化と、スベースノイドによる民衆の再発見止であった。

Mobile Suit Gundam Filmography

機動戦士ガンダム (TVシリーズ・31話～43話)

NO	サブタイトル	シナリオタイトル	脚本	演出	監コンテ	作画監督	放映日
31	ザンパールの逆襲!	大いなる脱立ち	星山博之	久野弘	岸谷健	安原良和	79年11/3
32	強行突撃作戦		松崎健一	関田修	岸谷健	棚沢和雄	11/10
33	コンスコン襲撃	敵艦! ドザムの襲撃	山本博	貞光紳也	岸谷健	中村一夫	11/17
34	宙命の出会い	宙命の出逢い	星山博之	藤原良二	藤原良二		11/24
35	ソロモン友艦戦		松崎健一	久野弘	久野弘		12/1
36	恐怖! 襲撃ビグザム	流血の宇宙	松崎健一	関田修	岸谷健		12/8
37	テキサスの攻防		山本博	貞光紳也	岸谷健	中村一夫	12/15
38	激合! シャアとセイラ	デギン・ザビの帰還	松崎健一	藤原良二	藤原良二		12/22
39	ニュータイプ、シャリア・フル	ソロモン激戦、闘び	山本博	久野弘	岸谷健		12/29
40	エルメスのラファ		荒木芳久	関田修	岸谷健		80年1/5
41	光る宇宙	ラファ・時の矛	松崎健一	貞光紳也	貞光紳也		1/12
42	宇宙要塞ア・バオア・クー	山崩れたジオン軍	星山博之	藤原良二	岸谷健	中村一夫	1/19
43	激出	ガンダムよ永遠に	星山博之	関田修	岸谷健	山崎和男	1/26

声の出演

アムロ	古谷徹	ラファ・スン	潘恵子
ブライト	鈴鹿洋子	キシリア	小山ほみ(兼美)
ミライ	白鳥冬美	ギレン	田中崇(飯河方丈)
フアラウ	堀内まり子	ドズル	長塚芳人(郷土人権)
セイラ	岸上瑛	デギン	永井 一郎
カイ	古川登志夫	マ・クハ	堀沢兼人
ハヤト	鈴木道弘	ウラガン	ハ谷公次
スレノガー・ロウ	玄田哲章	マリガン	堀沢兼人
カヲ	白鳥冬美	コンスコン	永井 一郎
レツ	堀内まり子	カムラン・ブルーム	堀沢兼人
キナキ	井上 真	フラナガン博士	永井 一郎
ハロ	川口 靖	バロム司令	成澤昌
オスギ	鈴木道弘ほか	シャリア・フル	木匠止 一郎
マースー	古川登志夫ほか	シムス中尉	松谷和子
ノブ・アッシュ	堀沢兼人	モスタ・ハン博士	徳丸 定
オムル	飯谷幸男	トヴェニダ	佐藤正治
サンマロ	堀沢兼人	ナレーター	永井 一郎
レビル将軍	池田勝		その他
シャア	池田秀		



■機動戦士ガンダム0083 STARDUST MEMORY

NO	サブタイトル	脚本	絵コンテ	演出	作画監督
01	ガンダム降参	五武冬史	辻潤元子	高辺肇一郎	川元利治
02	終わりのなき追撃	五武冬史	今西隆志	今西隆志	渡辺志司
03	出撃 アルビオン	五武冬史	高辺肇一郎	高辺肇一郎	川元利治
04	結社の攻防戦	五武冬史	今西隆志	赤根和樹	渡辺志司
05	ガンダム、星の海へ	高藤明範	辻潤元子	辻潤元子	川元利治
06	フォン・ブラウンの戦士	高藤明範	高辺肇一郎	高辺肇一郎	渡辺志司
07	轟く輝く炎で	大沢幹秀	赤根和樹	赤根和樹	川元利治
08	突撃の空域	大沢幹秀	辻潤元子	高辺肇一郎	渡辺志司
09	ソロモンの悪夢	高橋良義	今西隆志	赤根和樹	菅野宏紀
10	悪魔総攻	大沢幹秀	高辺肇一郎	高辺肇一郎	川元利治
11	ラビアンローズ	高橋良義	赤根和樹	赤根和樹	渡辺志司
12	強襲、阻止限界点	大沢幹秀	今西隆志	高辺肇一郎	菅野宏紀
13	駆け抜けろ嵐	大沢幹秀	今西隆志	大沢幹秀	川元利治

制作スタッフ

[illegible][illegible][illegible]

1991年5月～9月 奔走

VISUAL/SOUND/NOVELS

Guide

Text by OSAMU NAGASHIMA

協力 資料提供 バンダイビジュアル(株)

キングレコード(株)

(株)ビクターエンタテインメント

VIDEO TAPE

TV版「機動戦士ガンダム」ビデオシリーズ

レンタル開始中(第1巻~第7巻) 以下続巻(全11巻)



1巻 第1話~第3話収録



2巻 第4話~第7話収録



3巻 第8話~第11話収録



4巻 第12話~第15話収録



5巻 第16話~第19話収録



6巻 第20話~第23話収録



7巻 第24話~第27話収録

LASER DISC

OVA「機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争」

1巻 4530円(税別) 2~6巻 各4500円(税別) (全6巻)

GUNDAM0080



1巻 第1話「戦場までは何マイル?」

GUNDAM0080



2巻 第2話「灰色の瞳に映るもの」



3巻 第3話「虹の果てには?」



4巻 第4話「河を渡って木立を抜けて」



5巻 第5話「嵐だと書いて、バーニィ」



6巻 第6話「ポケットの中の戦争」

DVA「機動戦士ガンダム0083 STARDUST MEMORY」

各4880円(税別) [全12巻]



1巻 第1話「ガンダム強襲」
第2話「終わりのなみだ」



2巻 第3話「出撃アルビオン」



3巻 第4話「無神の攻防戦」



4巻 第5話「ガンダム、星の海へ」



5巻 第6話「フォン・ブラウンの戦士」



6巻 第7話「書く書くみで」



7巻 第8話「無神の南境」



8巻 第9話「ソロモンの悪夢」



9巻 第10話「激文戦域」



10巻 第11話「ラビアンローズ」



11巻 第12話「強襲、阻止無界点」



12巻 第13話「駆け抜ける風」

EPISODE GUIDE1で紹介したTV版「機動戦士ガンダム」のソフトがLO-BDXに続き、ビデオでも登場していることはご存じだろうか。ただしこれはレンタル店向けのもので、基本的には一般販売はされていない。でもLDよりも普及率の高いビデオが存在しているということ、を、歓迎する人も多いのではないだろうか。本書を読んで思い起こした方だけでなく、「Zガンダム」等の以後のガンダム・ワールドを続けた作品や「Vガンダム」を見て、新たに「ファースト・ガンダム」をご覧になりたい方と想った方は、近所のレンタル店をチェックしてみるのもよろしいかも知れない。

このビデオには、基本的に1巻に4話収録(第1巻のみ3話収録)されており、全11巻で構成されている。なおジャケットは、LD-BDXの中ジャケットと同じものが用いられているが、販売の関係上LD-BDXが12枚で構成されていたため、残念ながら1枚だけ使用されていないもの(LO-BOX PART-2のDISC3)もある。

今回は、この「ファースト・ガンダム」の後半の他に、三作品の「ガンダム」を収録しているが、いずれも話題を呼んだDVAシリーズである。中でも「機動戦士ガンダム0083 ボケットの中の戦争」は、1989年に発売された全6巻の作品で、「ガンダム」としては初のDVAシリーズ、それも原作者の富野由悠季以外の手によって描かれる(監督・高山文彦)とのことで、発売前には賛否入り交った声が聞かれた。内容については解説を見ていただきたいが、結果的には心配の声は杞憂に終わり、アムロに渡される予定のニュータイプ用ガンダムという題材を飾りまぜつつ、一年戦争時のサイド6におけるエピソードを心情的に描いた

名作として、多くのファンを引き込むことになった。

もっとも、この心配は制作・発売側にも多少はあったと見え、キャラクターデザインに美樹本晴彦、メカニカルデザインに出渕裕、シナリオに山賀博之を採用するなどのほかにも多数の優秀な人材に参加を要請している。もちろんそこには、初のOVA「ガンダム」を最高のクオリティで制作したい、という理由もあったが、話題性を求める一面も存在したことは確かだと思われる。

なお「ポケットの中の戦争」のノヴェライズは、OVAシリーズの構成を担当した尾城敦介が執筆している。基本的な内容は同一だが、小説版ならばということで、エピソードだけは悲劇性を薄める異なるドラマが描かれているので、チャンネルがあったら皆さん自身の目で確認していただきたい。

もうひとつのOVAシリーズ「機動戦士ガンダム0083 STARDUST MEMORY」だが、こちらはよりディープなファンを意図した、全13話の物語として制作された。そのためモビルスーツを始めとしたメカニク類と、それらを用いた戦闘描写については、数ある「ガンダム」シリーズの中でも最高レベルのものになっている。もちろん、キャラクターが織りなすドラマや世界観描写にもこだわっていて、ラストに主人公が乗り込んでいたアルビオンのクルーに、「Zガンダム」に登場するティターンズの制服が配給されるシーンなどは、それが端的に示されている。

新たな作品が登場することに、広がりが増えていく「ガンダム」。多くのクリエイターとファンの力が注がれ、拡大はいつも続いている……。

劇場版
「機動戦士ガンダム0083 ジオンの残光」
9515円(税別)



OVA「機動戦士ガンダム 第08MS小隊
ラスト・リゾート」
4660円(税別)



NOVELS

「機動戦士ガンダム0080
ポケットの中の戦争」

尾城敦介 著/角川スニーカー文庫
定価 本体470円(税別)

機動戦士ガンダム0080
ポケットの中の戦争
結城恭介



「機動戦士ガンダム0083」上・中・下
今西隆志:監修 山口宏 著/角川スニーカー文庫
上・中巻 定価 本体500円(税別)
下巻 定価 本体580円(税別)



CD & RECORD

機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争

CD-SINGLE

OVA OP&EDテーマ	「いつか空に帰いて」「運い帰れ」 発売 キングレコード	KJGA-2106	905円(税別)
--------------	-----------------------------	-----------	----------

CD-SINGLE

機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争 Sound Sketch I	発売 キングレコード	KJCA-2041	1942円(税別)
機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争 Sound Sketch II	発売 キングレコード	KJCA-2042	1942円(税別)

機動戦士ガンダム0083 STARDUST MEMORY

CD-SINGLE

OVA OP&EDテーマ	「MAGIC」「THE WINNER」 発売 ビクターエンタテインメント	VIDL-41	903円(税別)
OVA OP&EDテーマ	「Evergreen」「MEN OF DESTINY」 発売 ビクターエンタテインメント	VIDL-88	903円(税別)
原画「機動戦士ガンダム0083 ジオンの残光」主筆	「True Shining」「Mon étoile」 発売 ビクターエンタテインメント	VIDL-111	903円(税別)

CD-ALBUM

機動戦士ガンダム0083 STARDUST MEMORY オリジナル・サウンドトラック 発売 ビクターエンタテインメント	VIDL-113	2913円(税別)
機動戦士ガンダム0083 STARDUST MEMORY オリジナル・サウンドトラック Vol.2 発売 ビクターエンタテインメント	VIDL-271	2913円(税別)
機動戦士ガンダム0083 STARDUST MEMORY ORIGINAL SOUNDTRACK BDX 発売 ビクターエンタテインメント	VIDL-40038-40039	4369円(税別)
機動戦士ガンダム0083 STARDUST MEMORY GUNDAM0083 CDシネマ ルンガ沖砲撃戦 発売 ビクターエンタテインメント	VIDL-270	2913円(税別)
機動戦士ガンダム0083 STARDUST MEMORY GUNDAM0083 CDシネマ2 宇宙の野望 発売 ビクターエンタテインメント	VIDL-351	2913円(税別)



OVA「機動戦士ガンダム 0080」
Sound Sketch I



OVA「機動戦士ガンダム 0080」
Sound Sketch II



OVA「機動戦士ガンダム 0083」
オリジナル・サウンドトラック



OVA「機動戦士ガンダム 0083」
オリジナル・サウンドトラック vol.2



OVA「機動戦士ガンダム 0083」
オリジナル・サウンドトラック・ボックス



OVA「機動戦士ガンダム 0083」
CDシネマ



OVA「機動戦士ガンダム 0083」
CDシネマ2

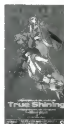
OVA
「機動戦士ガンダム
0080」
OP&EDテーマ



OVA
「機動戦士ガンダム
0083」
1〜7話
OP&EDテーマ



OVA
「機動戦士ガンダム
0083」
8〜13話
OP&EDテーマ



劇場版
「機動戦士ガンダム
0083 ジオンの残光」
主筆

INDEX

CHARACTERS

＜森＞				デルコット	66, 116
アクラム・ハリダ	71, 136			トクワン少尉	21, 44, 67
アサクラ	20, 105			ドズル・ザビ	21, 35, 43
アダムスキー	135			ドライゼ	73, 135
アナベル・ガトー	66, 134			ドレン	21, 45
アムロ・レイ	21, 34, 39			ドロシー	59, 116
アルティシア	34			トウニング	105
アルファ・A・ベイト	69, 133			＜藤＞	
アルフレッド・イズルハ（アル）	54, 114			ナカッハ・ナカト少佐	75, 136
アンディ・ストロース	57, 116			ニック・オービル	73, 137
イセリナ・エッセンバハ	21, 35			ニナ・バーブルトン	66, 132
イワン・バサロフ	71, 136			ノイエシ・ビッター	73, 136
ヴィリィ・グラドール	72, 136			＜経＞	
ウィリアム・モーリス	70, 136			バスク・オム	76
ウォルフガング・ヴァール	135			ハスラー少尉	75, 135
ウッディ太尉	34			バタシヤム	99
ウラガン	21			バーナード・ワイズマン（バーニィ）	55, 115
エイバー・シナプス	133			ハヤト・コバヤシ	34, 38
エギーユ・デラーズ	66, 134			ハロ	34, 41
＜砂＞				ハロム大佐	21, 46, 93
カリウス	76, 135			バノマス	63
クリスチャーナ・マッケンジー（クリス）	54, 114			ビコック	137
クルト	135			ビーダー・スコット	70, 136
クレナ・ハクセル	137			フオン・ヘルシング	116
ゲイリー	135			ブライト・ノア	21, 34, 40
ケリィ・レスナー	73, 137			フラウ・ボウ	34, 41
コウ・ウラキ	64, 132			フラナガン博士	21, 48, 66, 106
ゴッパ提督	20			フラナガン・ブーン	21
コーリン	20			ベルガミノ	87
コウル	87			ボブ	135
コンスコン少尉	20, 44, 67			ボヘラ・ギリッシュ	137
＜星＞				＜蜜＞	
リウス・バニング	68, 133			マイヤー	93
ジオン・ズム・ダイクン	35, 106			マ・クベ大佐	21, 35, 46, 96
シーマ・ガラハウ	77, 134			マサキ	93
シムス中尉	46			マデルダ・アジャン	21, 34
シヤア・アズナブル	20, 34, 42			マーネリ	72, 136
ジャクリーヌ・シモン	71, 136			マリガン	21
シヤリア・ブル大尉	20, 48, 96			ミネバ・ラオ・ザビ	20, 92
シュタイナー	57, 115			ミハイル・カミンスキー（ミーシャ）	56, 115
ジュダック	21, 34			ミハイル・ラトキエ	20, 34
ジョン・コウエエン	136			ミライ・ヤシマ	34, 41
シン	93			モスク・ハン博士	48, 98
ジンバ・ラル	35			モータ・バシット	71, 133
スレッガー・ロウ	34, 36, 86			モンシア	66, 133
セイラ・マス	34, 40			＜島＞	
セシリア・アイリオン	20, 105			ラコック	92
ゼナ・ザビ	20, 35, 46, 62			ラトーラ	137
＜花＞				ラバ・カークス	73, 136
ダルシア首相	21, 105			ララア・スン	21, 34, 50, 67, 99, 105
チエイ	59, 116			ランバ・ラル	20, 35
チャック・キース	66, 133			リード中尉	20
チャップ・アデル	66, 133			ルセット・オデビー	73, 137
ティアンム提督	21, 48, 62			レツ・コ・ファン	41, 93, 103
ディック	117			レビル將軍	21, 34
ディック・アレン	72, 136			＜虫＞	
ダギン・ソド・ザビ	20, 35, 43			ウツキン同舍	21
デトロフ・コッセル	77, 135			ワイアット大尉	76, 136
デミトリイ軍長	45, 67				
テム・レイ	34, 45, 67				

MECHANICS, HAPPENINGS, etc.

<重>

アブサラス (ジオン軍MA)	27
アッガイ (MSM-04ジオン軍MS)	24
アッザム (MAX-03ジオン軍重機動兵器)	25
アルビオン (地球連邦軍バグサス級)	28, 70, 27
アックス (地球連邦軍RX-78-1)	23, 108
ザム・グロウ (MA-08ジオン軍MA)	27, 73, 25
エルメス (MAN-08ジオン軍MA)	26, 50, 86

<古>

ガルル (ジオン軍戦術機)	31
ガルル (ジオン軍戦術機)	28, 31
ガベラ・タトル (AGX-04)	27, 77, 124
ガンキャノン (RX-77-2地球連邦軍MS)	22
ガンキャノン重装甲型 (RX-77-0地球連邦軍MS)	23, 111
ガンダム (RX-78-2地球連邦軍MS)	22, 36
ガンダムEZ-8	24
ガンダム試作1号機 (RX-78GP01)	23, 84, 120
ガンダム試作1号機フルバニオン (RX-78GP01Fb)	64, 120
ガンダム試作2号機サリサリ (RX-78GP02A)	23, 67, 121
ガンダム試作3号機スティメン (RX-78GP03S)	65, 122
ガンダム試作3号機デビルドビウム (RX-78GP03)	23, 65, 122
ガンダム重装甲型 (RX-78)	24
ガンタンク (RX-75ガンタンク)	22
ガンタンク重装甲型 (RX-75)	23
ガンバレル (地球連邦軍輸送機)	27
ギョロシップ (ジオン軍小型輸送機)	30
グン (YMS-15ジオン軍)	26, 49, 30
キュービ (ジオン軍兵站用車両)	30
グフ (MS-07, MS-07B)	22
グフ・フライトタイプ (MS-07Hジオン軍MS)	25
グフ重装甲型 (MS-07Bジオン軍MS)	25
グフバド (MAN-07ジオン軍MS)	25
グラーフ・ツェッペリン (ジオン軍重巡洋艦)	26
グレイファントム (地球連邦軍ホワイテベース級)	29
グレイジョ (戦艦ジオン軍)	28, 48, 95
グワナム (戦艦ジオン軍)	28, 67
グールググ (ジオン軍MS-14)	26, 47, 85
グールググ (シャア専用)	47
グールググ (ジオン軍MS-14JG)	26, 111
グールググM (ジオン軍MS-14F)	26, 73, 126
グールググM修理型	77

グールググ (MS-18Eジオン軍MS)	26, 109
グールググ (地球連邦軍用偵察機)	31
グフ・ファイター (地球連邦軍偵察機、実験機)	27, 41
グフ・ファイターII (地球連邦軍偵察機、可変戦闘機)	71, 121
グフ・ファイターII-F (地球連邦軍偵察機、可変戦闘機)	71
グフ・ブスター (地球連邦軍MS突撃戦闘機)	27, 38, 104
グッパ (MSM-03ジオン軍)	24
グッパ (小型地球連邦軍)	31
グムライ・ブスター付	130
ゴンブス、ゴンブス改 (地球連邦軍大型輸送機)	28, 90, 128

<古>

ザク (MS-05旧ザク)	22
ザクI (ザクMS-06, MS-08)	109
ザクII (ザクMS-06F2)	22, 123, 126
ザク (MS-06S特殊型ザク)	22
ザク (MS-06RD-4層機動型ザク)	22
ザク (MS-06F2)	23
ザクキャノン (MS-06K)	23
ザクタンク (ジオン軍)	23
ザク8タイプ (ザクII MS-06F2)	23, 72
ザクレロ (ジオン軍MA-04X)	26, 45, 83
ザクレロ (YMS-16Mジオン軍)	26, 128
ザクレロ (地球連邦軍用偵察機)	31
ザラミス改 (地球連邦軍中隊輸送機)	28
ザンバレル (ジオン軍重巡洋艦)	28, 47
ザンバレルII (ジオン軍宇宙機動部隊)	129
ザンバレルII (地球連邦軍宇宙機動部隊)	27
ザンバレルII (地球連邦軍宇宙機動部隊)	25, 117
ザンバレルII (地球連邦軍宇宙機動部隊)	26, 42, 102
ジャコ (ジオン軍小隊突撃機)	28, 47, 91
ジム (地球連邦軍RGM-79)	24
ジム宇宙戦用	24

ジム改 (RGM-79C地球連邦軍MS)	25, 76, 123
ジム・カスタム (RGM-79M地球連邦軍MS)	25, 89
ジム・カスタム (RGM-79D地球連邦軍MS)	25
ジム・キャノンII (RGC-83地球連邦軍MS)	25, 89, 123
ジム・コマンド (RGM-79G, RGM-79S地球連邦軍MS)	25, 111
ジム・スナイパーII (RGM-79SP地球連邦軍MS)	25
ジム地上戦用 (地球連邦軍RGM-79(G))	24
ジム陸戦型	57
シーランス (ジオン軍小隊突撃機)	31
ズゴック (MSM-07ジオン軍MS)	24, 110
ズゴックE (MSM-07Eジオン軍MS)	25
ズック (MSM-10ジオン軍MS)	24

<古>

脱出ランチ (地球連邦軍)	50
ダダア戦艦 (地球連邦軍大型戦艦)	30
デバ (ジオン軍戦術機)	28, 45, 83
ディッシュ・ドット (地球連邦軍戦術機)	30
デブ・ロック (地球連邦軍戦術機)	30
ドバイYS (ジオン軍)	27
ドップ (ジオン軍小型輸送機)	30
ドップ (MS-2Cジオン軍MS)	23, 74, 125
ドム (MS-08ジオン軍MS)	23
ドム・トロペーン (MS-08F/TROPジオン軍MS)	25, 126
ドラケンE (リアー防衛艦)	25
ドラゴン・フライ (地球連邦軍輸送機)	31
ドロシ (ジオン軍宇宙空母)	28, 102
ドム・エスカロ (地球連邦軍対空攻撃機)	31

<古>

ノイエ・ジール (AMA-X2ジオン軍MA)	27, 68, 124
------------------------	-------------

<古>

バググ (MSM-09Cジオン軍MS)	25, 110
ババコ (ジオン軍輸送機)	28, 84
ババコ (地球連邦軍宇宙空母)	29
ババコ (地球連邦軍宇宙空母)	26, 46
ババコ (地球連邦軍輸送機)	28, 128
ババコ・ジム (RGM-79地球連邦軍)	25, 58, 123
ビグ・ザム (MA-08ジオン軍MA)	27, 47, 80
ビグロ (MA-05ジオン軍MA)	26, 44, 82
ビグロ・トロー (地球連邦軍戦艦)	30
ビグロ (地球連邦軍大型空母)	31
ビグロ・ファンク (ジオン軍輸送機)	31
ブラッパ (MAN-03ジオン軍MA)	26, 48, 83
ブライ・マタ (地球連邦軍戦術機)	31
ブローパー (ジオン軍偵察機)	31
ホルバート (地球連邦軍特殊戦闘機)	31
ホル (RB-78地球連邦軍機動兵器)	24, 48, 80
ホワイテベース (地球連邦軍バグサス級輸送機)	28

<古>

マゼラ・アタック (ジオン軍戦術機)	30
マゼラン (地球連邦軍宇宙機)	28, 128
マゼラン改 (地球連邦軍宇宙機)	28
マッド・アンクル (ジオン軍水母機)	31
ミデア (地球連邦軍輸送機)	30, 113, 130
ムサイ、ムサイ級 (ジオン軍ムサイ級巡洋艦)	26, 128

<古>

ユコウ (ジオン軍潜水艦)	31, 130
ユコウ98 (ジオン軍潜水艦)	31, 113

<古>

ラビアンローズ (地球連邦軍宇宙機)	28, 73
ラビアンローズ (MS-08R)	24, 46
リック・ドムII (MS-08R II)	24, 110
リック・マールーン (ジオン軍ザンザンII級輸送機)	28, 76, 126
リットン (ジオン軍偵察機)	31
61式戦艦 (地球連邦軍戦艦)	30

<古>

ワッパ (ジオン軍機動兵器)	30
----------------	----

•publisher
TSUGUHIKO KADOKAWA

•editors in-chief
SHIN-ICHIRO INOUE

•editors
SHINSUKE NAKAJIMA
HIROSHI ODAGIRI
OSAMU NAGASHIMA

•writers
TETSUO OAITOKU
YUI NAGASE
NOBUYUKI TAKAHASHI
FUYU KIMATA
TAKUYA SAITO

•editorial operation
IKUKO ENOMOTO
TAKASHI HORIGUCHI

•art direction
YOSHINORI FUTAGAMI (King of Design)

•proofreading
HISAKO SHATO
EMI SASAKI

•DTP works
LOYAL DIGITAL PLANNING CO.,LTD

•thanks
SUNRISE
BANDAI VISUAL
KING RECORD
SEKAI BUNKA PHOTO (p.18)

•cover illustration
YUJI KAIDA

GUNDAM

EPISODE GUIDE ②

The Second Part of The One Year War • UC 0079-0083

機動戦士ガンダム エピソードガイド vol.2 一年戦争編 後

ニュータイプ 編

1999年9月8日初版発行

発行人 角川歴彦

発行所 株式会社角川書店
〒102-8177 東京都千代田区豊土直2-13-3
営業03-3238-5530 編集03-5229-3010
発信00130-9-19208

表丁・デザイン/ケンク・オブ・デザイン

印刷/大日本印刷株式会社

製本/株式会社宮田製本所



※下・表丁本はご寄附で60社企業部受主センター様寄附
宛にお送りください。送料2小社負担でお取り替えます

©1999 角川エンタテインメント・サンライズ

原案/角川・角川

Printed in Japan

ISBN4-04-853068-0 C0076

EPISODE GUIDE

2

The Second Part of The One Year War

CG:0079-0083

GUNDAM

THE GUIDE TO THE GUIDE 2

The Second Part of The One Year War

UC0079-0083

GUNDAM

EPISODE GUIDE

2

The Second Part of The One Year War (C00019-0023)



GUNDAM

The Second Part of The One Year War **UC**0079-0083

ISBN4-04-853069-0 C0076 ¥1500E

定価:本体1500円(税別) 角川書店



9784048530699



1920076015007

THE GUIDANCE EPISODE GUIDE 2

The Second Part of The One Year War

UC0079-0083

角川書店